1995年度

教養課程シラバス

獨協大学

目　　次

一般教育科目

人文科学系列

哲　　学	高尾由子	1
	谷口郁夫	3
	安本行雄	5
倫理学	市川達人	7
日本語学	桂　千佳子	9
	小島幸枝	11
国　　語	新里博樹	13
	北村　進	15
	小島幸枝	17
	福沢　健	19
	宮澤康造	21
日本文学	飯島一彦	23
	中村　文	25
	福沢　健	27
外国文学	北澤滋久	29
	松山恒見	31
	宮澤康造	33
	山路朝彦	35
日本史	新井孝重	37
	齊藤　博	39
東洋史	熊谷哲也	41
	西嶋定生	43
西洋史	高橋正男	45
	古川堅治	47
一般言語学	新里博樹	49
	城田　俊	51
一般音声学	伊豆山敦子	53

社会科学系列

経　済　学（経済学部必修）	小林　進	55
	高橋房二	57
	田村申一	59
	益山光央	61
	松本正信	63
	山越　徳	65
	山本美樹子	67
	米山昌幸	69
経　済　学（外国語学部・法学部選択）	安藤　登	71
	岡田　博	73
政　治　学	柴田平三郎	75
	志摩園子	77
	星野昭吉	79
法　　学（法学部必修）	平井一雄 森　勇	81
法　　学（外国語学部・経済学部選択）	内藤光博	83
社　会　学	有吉広介	85
社会思想史	市川達人	87
	谷口郁夫	89
人文地理学	犬井　正	91

自然科学系列

心　理　学	杉山憲司	93
	三本　茂	95
数学Ⅰ・数学Ⅱ	遠藤　信	97
数学概論	福井尚生	99
物　理　学	東　孝博	101
化　　学	杉浦三千夫	103
地　　学	福井尚生	105
生物学A	加藤僖重	107
生物学B	加藤僖重	109
人　類　学	井上兼行	111
自然科学概論	遠藤　信	113
	福井尚生	115

コンピュータ概論　東　孝博 …… 117
金子憲一 …… 119
高柳敏子 …… 121
前田功雄 …… 123

総　合

総合科目Ｂ－１（前期）　青柳多恵子 …… 125
総合科目Ｂ－２（後期）　青柳多恵子 …… 127

保健体育科目

保健体育講義１　久松一恵 …… 129

保健体育講義２　青柳多恵子 …… 131
梶野克之 …… 133
松原　裕 …… 135

体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ
（アウトドアトレーニング・アウトドアレクリエーション山岳型）　和田　智 …… 137
（インラインスケート）　加藤雅子 …… 139
（インラインスケート）　和田　智 …… 141
（インラインスケート・アウトドアレクリエーション海浜型）　和田　智 …… 143
（インラインスケート・スケート）　和田　智 …… 145
（硬式テニス）　小俣　充 …… 147
（硬式テニス）　小俣　充 …… 149
（硬式テニス）　田中茂宏 …… 151
（硬式テニス）　土井浩信 …… 153
（硬式テニス）　中沢克江 …… 155
（硬式テニス）　松原　裕 …… 157
（硬式テニス）　和気秀文 …… 159
（硬式テニス・スキー）　松原　裕 …… 161
（ゴルフ）　野口昭彦 …… 163
（ゴルフ）　山中邦夫 …… 165
（ゴルフ）　吉田卓司 …… 167
（サッカー）　田代力也 …… 169
（サッカー）　田中茂宏 …… 171

（サッカー）　福井真司 …… 173
（サッカー）　松本光弘 …… 175
（サッカー）　松原　裕 …… 177
（スキートレーニング・スキー）　松原　裕 …… 179
（スキー検定トレーニング・スキー検定）　松原　裕 …… 181
（ソーシャルダンス）　青柳多恵子 …… 183
（ソフトボール）　池垣功一 …… 185
（ソフトボール）　太田朝博 …… 187
（ソフトボール）　小川又八郎 …… 189
（ソフトボール）　荻野元祐 …… 191
（ソフトボール）　田代力也 …… 193
（ソフトボール）　檜山　康 …… 195
（ソフトボール・スキー）　田代力也 …… 197
（卓球）　天野和彦 …… 199
（卓球）　奥野忠枝 …… 201
（卓球）　中川　昭 …… 203
（卓球）　本田稔祐 …… 205
（軟式野球）　太田朝博 …… 207
（軟式野球）　荻野元祐 …… 209
（バスケットボール）　小川又八郎 …… 211
（バスケットボール）　勝瀬　武 …… 213
（バスケットボール）　檜山　康 …… 215
（バドミントン）　梶野克之 …… 217
（バドミントンⅡ）　梶野克之 …… 219
（バレーボール）　小俣　充 …… 221
（バレーボール）　中沢克江 …… 223
（フリースポーツ）　土井浩信 …… 225
（フリースポーツ）　檜山　康 …… 227
（フリスビー・ウインドサーフィン）　和田　智 …… 229
（ラグビー）　天野和彦 …… 231
（ラグビー）　中川　昭 …… 233

科目名	哲学	担当者名	高尾由子

講義の目標	「自分で、哲学的に、考える」ことをめざす。主に西洋哲学の基本的な概念を用いながら、「私」という足場を固め、「他者」と「世界」に向かう態度をつくってゆきたい。	
講義概要	哲学史上、主要な思想家の著作を手がかりにするが、哲学史の知識を得るよりも、その考え方、また考えるための準備の仕方を扱う。	
使用教材	テキスト	年間予定を参照のこと。
	参考文献	授業時に指示する。
評価方法	前後期各一回のレポートによる。 提出期限、提出方法は授業時に指示する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	一年間の講義概要の説明と、哲学という学について考える。
2	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
3	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
4	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
5	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
6	プラトンの『パイドン』における「哲学」「対話」「理性」「イデア」について。
7	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
8	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
9	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
10	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
11	デカルトの『方法叙説』における「自我」について考える。
12	前期のまとめと課題について。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
2	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
3	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
4	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
5	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
6	カントの『純粋理性批判』における「主観」と「客観」について。
7	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
8	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
9	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
10	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
11	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』における「言語」と「世界」について。
12	一年間のまとめと課題について。
備考	

科目名	哲学	担当者名	谷口郁夫

講義の目標		西欧の哲学史をたどりながら、現代に生きる我々にとっての問題について考える。とりわけ、生きることの意味についてそれぞれの価値観の構築を目指す。
講義概要		ギリシャから現代まで可能なかぎり多くの哲学者を取り上げながら、それぞれの哲学的営みを通じて、生きることの意味について考えて行く。また、宗教的な事柄についても、絶えず顧慮して行くこととする。
使用教材	テキスト	特に用いない
	参考文献	講義の中で指示する
評価方法		前後期にそれぞれ試験を行う。試験内容は、講義の中で指示する。
受講者に対する要望など		批判的な態度で臨むこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	「哲学」とは何か
2	ソクラテス以前の哲学者
3	ソクラテスとプラトン（1）　ソクラテス以前とソクラテス以後の転換点について
4	ソクラテスとプラトン（2）　ソクラテスの方法論。対話法など。
5	ソクラテスとプラトン（3）　プラトンの方法。イデア論など。
6	ユダヤ教とキリスト教（1）　特にユダヤ教の歴史と特質について。
7	ユダヤ教とキリスト教（2）　歴史的イエスと信仰のキリストについて。
8	ユダヤ教とキリスト教（3）　キリスト教神学と西洋哲学
9	ヨーロッパ中世　中世スコラ哲学とルネッサンス期の哲学
10	宗教改革
11	近代哲学の誕生の背景　ベーコンの経験論とデカルトの合理論の地理的、国民的、歴史的背景
12	予備
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	近代の哲学（1）　デカルトとパスカル
2	近代の哲学（2）　カント以前のドイツの思想家達とカント哲学
3	近代の哲学（3）　カント以後のドイツ哲学。特にイギリス哲学と対照しながら。
4	ヘーゲルとヘーゲル左派　シュトラウスの「イエスの生涯」がもたらした旧来の価値観の危機
5	ヘーゲル左派の思想家達　フォイエルバッハの人間学とキリスト教批判とマルクス
6	キルケゴール（1）　実存主義の祖とされるキルケゴールの生涯と思想
7	キルケゴール（2）　キルケゴールの宗教思想と現代的意義
8	ドストエフスキー　ドストエフスキーの文学作品とその思想
9	ニーチェ　ニーチェのキリスト教批判とその現代的意義。ニヒリズムの問題
10	現代の哲学（1）　ニヒリズムの克服と可能性
11	現代の哲学（2）　現代の精神病理的状況について
12	予備
備考	

科目名	哲学	担当者名	安本行雄

講義の目標		現代文明の考察を手掛りとしながら、「人間は本来如何に存在すべきか」を根源的に問う哲学への視野を開き、併せて科学時代に生きる我々の主体的な態度を考究する。そのためには、講義を単なる知識の伝達に終らせず、講義内容を特定の境位にある自己自身にひきつけて考える主体的思惟を促進することに努めたい。
講義概要		「科学は現代のシンボルである」と言われるように、現代の歴史的状況が我々人間にさしかける様々な問いのうち、最も緊迫したものは科学・技術の画期的な進歩が提出する問いである。科学文明の齎す生の危機を考察することによって科学・技術の本質を明らかにし、それを通じて哲学・倫理・宗教を科学に還元しようとする立場を批判し、そこから人間の生を根源的に問う哲学への視野を開いてゆきたい。 そしてそれとの関連において、科学を生みだす母体となったプラトン以後の、本質主義哲学とも称すべき伝統的哲学を考察し、更にはそれに対する批判として登場した主体的・パトス的な哲学としての実存主義を取りあげることを通じて、哲学という学問を考究する。
使用教材	テキスト	安本ほか共著『生と理性』晃洋書房
	参考文献	随時紹介する。
評価方法		年度末の定期試験で評価する。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学という学問の特異性から要請される受講に際しての主体的な心構えについて
2	現代科学技術文明の破綻―総論（テキスト第四章第一節、175頁以降）
3	危機招来の原因分析―科学・技術の齎らした「力の意識」への思い上り（同180頁以降）
4	危機招来の原因分析―科学・技術の進歩に対する無条件の礼讃と楽観主義（同190頁以降）
5	現代的合理性批判―経済性・効率性・数量化―人間疎外との関連（同183頁以降）
6	危機克服の道―技術的・経済的対症療法の問題点、科学の本質、技術の本質（同187頁以降）
7	危機克服の道―現代科学技術文明の錯誤、経済優先主義および技術至上主義の批判（同195頁以降）
8	危機克服の道―科学者の社会的責任、文明の危機と哲学（同197頁以降）
9	哲学への疑問―科学の立場からの哲学批判―哲学の科学への還元は可能か（同第二節203頁以降）
10	哲学への疑問―科学と宗教、科学と倫理（同210頁）
11	哲学とは何か―(1)ギリシャ以来の伝統的な哲学の概念（知られるものを中心とした客体からの限定）
12	哲学とは何か―(2)知を愛する主体の側からの限定―哲学の根源（生の自覚としての哲学）、「驚き」と「疑い」（デカルト）（同第三節211頁以降）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	哲学とは何か―衝撃的動揺―日常的生とその挫折、限界状況（同214頁以降）
2	哲学とは何か―ネガティブな契機による人生の媒介、運命愛
3	哲学とは何か―哲学の知―主体的な知と哲学的思惟―哲学の特異性（同第四節218頁以降）
4	哲学とは何か―哲学と生―哲学無用論の考察―道徳律によって示される叡知的世界と現象界（カント）（同207頁以降）
5	哲学とは何か―関連してプラトンのイデア論に示される二世界説とイデア論の実践的意義（同208頁以降）
6	プラトン以後の伝統的哲学の特質とそれに対する批判としての実存主義
7	実存と生―本質（普遍）と存在（個体）の関係からの実存の説明
8	実存と生―(1)サルトルの実存主義―無神論的立場、「実存は本質に先立つ」（同第五節245頁以降）
9	実存と生―脱自的超越、自由、その意義と限界（同249頁以降）
10	実存と生―(2)キェルケゴールの実存主義―その成立基盤、時代批判、「主体性は真理である」、実存の諸相（美的段階）、（同231頁以降）
11	実存と生―実存の諸相（倫理的段階、宗教的段階）、その意義と限界（同237頁以降）
12	結び（同253頁以降）
備考	

科目名	倫理学	担当者名	市川達人

講義の目標		前半は倫理についての理論的理解の必要性を、倫理学の基礎概念にふれながら考える。後半はアメリカを中心に倫理学の主要テーマになりつつある生命倫理を諸説を紹介しながら扱う。 日常生活を批判的にふりかえる視点を身につけてほしい。
講義概要		私達の日常生活は様々な倫理的価値や規範を織りこんで成立している。しかしその論理は必ずしも自覚されているわけではない。その隠れた論理を探し出し明晰な自覚にまで高めようとするのが倫理学である。 講義は前半と後半に分け、前半では倫理学の原理論を、後半では今日の倫理的問題のトピックの一つである生命倫理をとりあげ、死、身体、医療などについて考えていく。
使用教材	テキスト	使わない
	参考文献	佐藤和夫他『生命の倫理を問う』大月書店
評価方法		授業への出席度、レポート評価、討論への参加、ペーパーテストなどで総合的に行う。
受講者に対する要望など		私語は絶対に慎むように

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の予定。倫理学の対象と課題。
2	古代の倫理学と近代の倫理学　諸学における規範的思考の後退
3	規範としての倫理(1)　動機―行為―結果の連関と倫理的判断
4	規範としての倫理(2)　法の問題
5	規範としての倫理(3)　習俗問題
6	価値としての倫理(1)　欲求構造と価値
7	価値としての倫理(2)　事実と価値
8	価値としての倫理(3)　価値の倫理的尺度としての人格と人間性
9	倫理的問題状(1)　倫理学の発生にかかわって
10	倫理的問題状(2)　近代の倫理的意識にかかわって
11	モラルの立場、モラリストと個人道徳
12	倫理と科学（科学からの倫理批判と倫理からの科学批判）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	功利主義と自由主義(1)
2	功利主義と自由主義(2)
3	生命倫理学の現況と今日の生命問題
4	生命倫理を考えるための生命哲学――人間の生命とは？
5	人工妊娠中絶問題の議論―何が問題か
6	人工妊娠中絶と優生思想
7	安楽死と尊厳死の議論――何が問題か
8	安楽死の議論と「生命の盾」・「生命の尊厳」
9	脳死と臓器移植の議論――何が問題か
10	身体の個体性と共同性
11	医療社会批判と生命倫理
12	まとめ
備考	

科　目　名	日本語学	担当者名	桂　　千佳子

講義の目標		日本語がどのような特徴を持つものなのかということを、身近な例で理解し、客観的に言葉をみる視点を持てるようにする。
講義概要		前期は、日本語の特異性を様々な面から概観する。特に、表記については、一人一人が自分なりの意見を持てるようにする。 後期は、日本語の文の構造の特質に焦点をあてて文法の問題を考えていく。 前・後期共、できる限り、その背景にある通史的な事象を含めて捉えられるようにしたい。
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	・国立国語研究所『日本語教育指導参考書4　日本語の文法（上）（下）』 ・益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法―改訂版』くろしお出版 ・金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』大修館書店 ・井上ひさし『私家版日本語文法』新潮文庫 ・寺林秀夫『日本語のシンクタンクと意味』くろしお出版
評価方法		基本的には、後期に行うテストで評価する。が、受講者数によっては、平常授業においての課題提出により評価することもあり得る。
受講者に対する要望など		知識が授けられるのを待つのではなく、提起された問題について自分なりの答を出すべく考える姿勢で望んでほしい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要、方針等について触れたのち、「日本語」と「国語」について考えてみる。
2	日本人の言語観 ―言霊(ことだま)の思想― 日本人の言語に対する意識を通史的に概観する。
3	日本語の特異性、表記① 「字」について、様々な角度から概観する。
4	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
5	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
6	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
7	日本語の特異性 表記② 漢字廃止論をめぐるいくつかの主張を読んで、各々自分はどう思うかまとめた後、意見交換を行う。
8	日本語の特異性 表記③ まとめにかえて。データにみる漢字、仮名、ローマ字の実態
9	日本語の特異性 音声
10	日本語の特異性 語彙
11	日本語の特異性 文法① コトバの構造と文法観
12	日本語の特異性 文法② 「てにをは」がなかったら！？
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語文法の再点検 ① 外国人の日本語学習者の誤用例をめぐって
2	日本語文法の再点検 ② 学校文法を思い出す。いくつかの語の品詞分けを行ってみる。
3	日本語文法の再点検 ③ 活用表はわかり易いか
4	文のしくみを考える ① 文を理解するとはどういうことか。
5	文のしくみを考える ② コトの類型
6	文のしくみを考える ③ ムードの分析 その一
7	文のしくみを考える ④ ムードの分析 その二
8	文のしくみを考える ⑤ ムードの分析 その三
9	文のしくみを考える ⑥ 日本語の単文の階層構造について
10	コミュニケーションのメカニズム なぜ言葉は通じるのだろうか
11	一年間のまとめ
12	テスト 論述問題を中心とする。
備考	

科目名	日本語学	担当者名	小島幸枝

講義の目標		世界の言語を使用人口の割からみると、ドイツ語に並んで第6位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通しても体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえまい。 本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根ざす日本語の、基本知識の修得を目標とする。
講義概要		国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声・音韻・文字・文法・語彙・意味の領域に分けて講義する。
使用教材	テキスト	福島邦道著　国語学要論（笠間書院）
	参考文献	・岩波講座日本語（岩波書店） ・講座日本語学（明治書院） ・橋本進吉：国語学概論（岩波書店） ・金田一春彦：日本語（岩波新書） ・築島裕：国語学（東大出版会） ・国語学会編：国語学大辞典（東京堂） ・佐藤喜代治編：国語学研究事典（明治書院）　他
評価方法		前期はテスト、後期はレポートとする。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語の特徴（日本語系統論のきめて）
2	日本語の音韻（音声学と音韻論、音節文字）
3	五十音図といろは歌、天地詞
4	漢字音
5	音韻の変遷
6	アクセント
7	文字（漢字、国字）
8	仮名１（万葉仮名、上代特殊仮名遣）
9	仮名２（片仮名、反切）
10	仮名３（平仮名）
11	かなづかい（定家仮名遣、契沖仮名遣、歴史的仮名遣）
12	ローマ字（単音文字）ポルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文法総説(1)
2	文法総説(2)
3	文法総説(3)
4	文法総説(4)
5	文法総説(5)
6	文法総説(6)
7	語彙・文体・辞書について(1)
8	語彙・文体・辞書について(2)
9	語彙・文体・辞書について(3)
10	語彙・文体・辞書について(4)
11	語彙・文体・辞書について(5)
12	国語問題について
備考	

科目名	国語	担当者名	新里博樹

講義の目標		コトバは、人間の内面を構成する素材である。そして、言語表現とは、その内なるコトバを様式として外に言語として実体化させることに他ならない。すなわち、言語による表現とは、単に何事かを他者に伝達することのみにとどまらず、自己の内面を深化させることにもつながるのである。本講座では、そうした素材であり、手段である、”コトバ―言語”の特質を踏まえながら、言語表現の様式の諸相、およびその諸特徴を講じつつ、日本語による表現のルールと方法とを学び、国語表現（文章表現・口頭表現）の実際を体験することを目標とする。
講義概要		国語表現における基礎事項に関する講義を交えつつ、講義―実作演習―添削批評という基本パターンを反復しながら、さまざまなスタイルの表現を実際に体験してもらう。講義１に対して演習３の割合で、実際の表現演習に学生自身が自分で取り組むことになる。文章表現の場合は、その場で（あるいは前以て）提示される課題・テーマに対して、その場で取り組み、基本的に授業時間内に提出する。そして、提出物は後日、添削批評を経て返却される。口頭表現の場合は、スピーチ・ディベートなどを、予め定めた手順に従って（全員が何らかの形で参加することになる）体験することになる。また時には相互批評などの討議形式の授業も実施する予定である。
使用教材	テキスト	使用せず
	参考文献	その都度、提示・紹介する。
評価方法		授業時における提出物と授業に対する参加（質問や発言など）の度合いによって評価する。返却された提出物（原稿その他）はすべて保管し、最終授業時にまとめて再提出してもらい、それによって評価することになるが、基本的には平常点による評価と考えて良い。
受講者に対する要望など		Ｂ５原稿用紙を各自用意して欲しい。また、小型のものでよいから、国語辞典を携帯してもらいたい。演習中心なので、自ら積極的に取り組む姿勢が望まれる。他の受講者にとって迷惑となる行為は一切厳禁する。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明などを行い、導入として、言語による表現とはどういうことか、という問題について講じる。
2	文章表現演習Ⅰ：自己紹介文　とりあえず自由に、自己紹介の文章を作成する。自分の生い立ち、趣味、特技、性質、癖、現在の状況、悩んでいること、価値観 etc.
3	講義Ⅰ：原稿用紙の歴史と使用法　原稿用紙の発達の歴史とその使用規則の基礎的な事項を講じる。その上で、実際に、特定の文章を原稿用紙に転記する演習を行う。
4	文章表現演習Ⅱ：随想文　講義Ⅰの内容に留意しながら、随想文を作成する。テーマは「日本の色」。自分の思い、価値観などを具体例を提示しながら書く。
5	文章表現演習Ⅲ：百字文　「手」というタイトルで、段落表示や句読点を含めて百字ぴったりの短文を作成し、それを起としてさらに、承転結の百字文を三編作成する。
6	講義Ⅱ：文章の構成と段落　文章構成の様相と、段落について講じる。段落はどのように設定すべきか、全体の構成はどうしたらよいかなど、文章構成の基礎を解説する。
7	文章表現演習Ⅳ：論説文　講義Ⅰ・Ⅱの内容に留意しながら論説文を作成する。テーマは「現代日本の社会状況」。自分なりにポイントを絞り、具体的に書く。
8	文章表現演習Ⅴ：推敲演習　推敲の方法とその目安についての理解を深めるため、文章表現演習Ⅳの作品の幾つかを採り挙げ、推敲の演習を行う。
9	講義Ⅲ：題材の求め方とその膨らませ方　文章表現のテーマや素材（具体例など）をどこに求め、どう膨らませていくか、という認識法や発想法について講じる。
10	文章表現演習Ⅵ：要約演習　まず自由に二百字文を作成する。その上で、できるだけ内容を変えないように、百字、五十字、二十字、十字と字数を減らしていく演習を行う。
11	文章表現演習Ⅶ：写生文　具体的事物を見ながら、それを写生した文を作成する。それを見ていない人に伝えるべく、言葉によるスケッチを行う。
12	前期の総括と夏期休暇中の課題提示　前期における提出物を全て返却し、夏期休暇中の課題を提示する。目上の人物に対する近況報告の”堅い手紙”を作成するのが課題となる。
備考	授業時間内に提出するため、比較的短い文章の演習が中心となってしまう。そこで、長文の文章の添削批評を希望する学生は、随時、自由に申し出てもらうことになるが、ただし、添削批評の時間的余裕を与えて欲しい。

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	夏期休暇中の課題の提出。後期の予定の確認。
2	文章表現演習Ⅷ：報告文　夏期休暇中における自己の行動（自分で設定する）に対しての報告文を作成する。客観的事実と自己の感想を分けて書く。書式は授業時に提示。
3	文章表現演習Ⅸ：批評文　提示された現代短歌の幾つかの中から一首を選び、それに対する鑑賞批評の文章を作成する。鑑賞批評は単なる感想でないことに留意して書く。
4	講義Ⅳ：詩的表現と短歌　詩的表現としての韻文について概説し、その中でも世界に誇り得る日本の文化の一つとしての短歌の特質について講じる。
5	文章表現演習Ⅹ：短歌実作演習　十首程度の短歌を実際に作成する演習を行う。併せて、その中から一首を選び、次回の歌会の準備を行う。
6	口頭表現演習Ⅰ：歌会演習　前回の準備に従い、実際に歌会を行う。提示された各自の作品に対して相互に自由に批評しあい、討議する。
7	講義Ⅴ：口頭表現の留意点　話し言葉による伝達の構造とその特質を論じ、音声言語による表現における留意点を講じる。
8	口頭表現演習Ⅱ：スピーチの原稿作成　結婚披露宴におけるスピーチの原稿を作成する。併せて、次回実施される結婚披露宴のシュミレーションの役割分担を行う。
9	口頭表現演習Ⅲ：結婚披露宴のシュミレーション　前回の打ち合わせに従って、想定された結婚披露宴のシュミレーションを行う。各自の役割分担に従ってスピーチを行う。
10	講義Ⅵ：ディベートの方法　ディベートの方法について解説する。ディベートの進行方法、考え方、技術、評価の方法などについて講じる。併せて、次回の役割分担を行う。
11	口頭表現演習Ⅳ：ディベート演習　その場で提示される論題に対して、ディベートの対戦を行う。対戦者以外は、全員が審査員となる。
12	総括、および、提出物の再提出
備考	添削批評を経て返却された原稿に対しては、訂正・書き直しをした上で、整理しておくことが望ましい。くれぐれも、その場の”書き捨て”にせぬよう心掛けて欲しい。

科目名	国語	担当者名	北村　進

講義の目標		和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは、教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段でもある。 短歌は自分の心の動き（感動）を表現する一手段であるが、散文と違って音数に制約がある。制約がある分、感情が凝縮されて言葉で表現した以上のものが生まれてくる。そこにまた魅力があると言える。定型にまとめるのは確かに難しい。その難しい作業を通して日頃おろそかにしている言葉による表現を見つめ直す。
講義概要		言葉が氾濫していると言われる状況にあって、一語一語を大切にし、美しい日本語による表現力を身につけたい。そのためには多くのすぐれた文学作品に接することが必要だと考えるが、本講座では特に和歌・短歌という定型にこだわって、その表現の変遷をたどりながら、言葉の大切さ、日本語の美しさを学ぶつもりである。講義は古代から現代に至る作品を読み味うことが中心となるが、それにとどまらない。やはり実作を通して学ぶことが大切であろう。そこで毎月一首以上の短歌制作を義務づける。言葉の選択の仕方、表現の難しさを身をもって体験してもらう。
使用教材	テキスト	『新修　日本抒情詩歌』㈱おうふう
	参考文献	その都度指示する。
評価方法		出席を重視する。 前期はレポート提出。 後期については未定。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	一年間の講義の概要を説明し、古代から現代までの和歌史を略説する。
2	『万葉集』の歌を五回にわたって取り上げる。第一回目は『万葉集』について解説し、初期万葉の歌人たちの歌を取り上げる。
3	第二回目は宮廷歌人の歌を取り上げる。具体的には柿本人麻呂・山部赤人・笠金村などの歌人の歌が中心となる。
4	第三回目は中国文学の影響を色濃く漂わせている大伴旅人・山上憶良を中心に、いわゆる貴族文人の歌を取り上げる。
5	第四回目は近代的憂愁を併せ持った大伴家持と、彼をとりまく女性たちの歌を取り上げる。
6	第五回目は東歌・防人歌・作者未詳歌・伝説歌など万葉集ならではの歌を取り上げる。万葉の歌の素朴さを味わう。
7	『古今集』の歌を取り上げる。とりわけ人口に膾炙した名歌を中心に、その技功性について考察する。
8	小野小町・和泉式部・伊勢等の女流歌人の歌を取り上げる。
9	『新古今集』の歌を取り上げる。定家・式子内親王・俊成の女など。
10	西行・実朝の歌を取り上げ、それぞれの歌人の歌の特質について考える。
11	百人一首の歌の中から何首かを取り上げ、味わう。
12	『玉葉集』『風雅集』の中から京極為兼・永福門院等の歌人を取り上げ、その歌風について考察する。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	中世の歌謡を取り上げる。『梁塵秘抄』や『閑吟集』の中からよく知られた歌謡を取り上げ解説する。
2	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的な調べを重じた。それぞれの歌を景樹著『新学異見』を読みながら考察してみたい。
3	近世末期に登場した歌人たち、当時は景樹の桂園派が主流であったが、これに属さず独自の立場を守った良寛・大隈言道・橘曙覧の歌を取り上げる。
4	正岡子規らの和歌改良論及びその歌を取り上げ、和歌が近代的な短歌に脱皮してゆく過程について考察する。
5	明星派の歌人たちの歌を取り上げる。与謝野鉄寛・与謝野晶子・山川登美子など。
6	アララギ派の歌人たちの歌を取り上げる。伊藤左千夫・長塚節・島木赤彦・斎藤茂吉など。
7	この時期に活躍したその他の歌人たち—石川啄木・若山牧水・釈迢空などの歌を取り上げる。
8	明治・大正・昭和にわたる「恋」の歌の中から名歌を取り上げる。
9	古代から近代に至る辞世の歌を取り上げる。
10	詩を取り上げる。島崎藤村・室生犀星・佐藤春夫・立原道造など。
11	現代短歌を取り上げる。寺山修司・佐佐木幸綱といった男性歌人の歌。
12	同じく現代短歌を取り上げる。俵万智の「サラダ記念日」など女流歌人の歌。
備考	

科目名	国語	担当者名	小島幸枝

講義の目標	現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を増強する訓練を怠らないことを前提としたい。	
講義概要		
使用教材	テキスト	松村明編　国語表現法（桜楓社）
	参考文献	
評価方法	平常の提出物で評価する。試験はしない。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識――日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習）　互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	文字言語――文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く――自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く――型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列――説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方――効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方――書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週１作）②読書報告（月１本）③作文（週１作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語	担当者名	福沢　健

講義の目標		本講座においては、文章表現の基礎を再確認し、自らの思考を論理的に表現できる能力を身につけることを目標とする。言語表現には「話す」「聞く」「読む」「書く」のいわゆる四技能があるが、特に後二者に力を入れたいと考える。大学生活で最も要求されるのが、「読む」能力と「書く」能力であると考えるからである。具体的な文章表現の能力は実践によって培れるものであるので、授業は講義よりも演習が中心となる。
講義概要		文章幕現の基礎として確認する事項は次の通り。①語彙（熟語・同義語・類義語・対義語・同音異義語・同訓異義語）、②表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）、③表現（一文作文・短作文・文と文とのつなぎ方）。その他、四字熟語などにも触れる。次に実際の文章を書くに当たり、必要な基本作業の確認を行う。①主題文をつくる、②構成を考える、③語句の運用、④レトリック、⑤推敲の以上の点を踏まえつつ、話題をつかみやすい文章を選び、その内容をまとめ、さらにはその話題に関する小論文を書く練習を後期では行ないたいと考えている。
使用教材	テキスト	プリント配布
	参考文献	
評価方法		定期試験による評価は行なわない。授業時に行なう小テスト及び、課題として提出してもらうレポートによって評価を定める。
受講者に対する要望など		国語辞典を携行のこと。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	授業内容の説明。
2	語彙Ⅰ（熟語・同義語・類義語・対義語）
3	語彙Ⅱ（同音異義語・同訓意義語・四字熟語）
4	表記（用字法・句読法・原稿用紙の使い方）
5	表現（一文作文・短作文・文と文とのつなぎ方）
6	主題と構成Ⅰ（主題文・構成のスタイル）
7	主題と構成Ⅱ（段落・書き出しと結び）
8	語句の運用（文法・語感）
9	レトリック（比喩表現・展開の表現技法・伝達の表現技法）
10	推敲（表現上の推敲・表記上の推敲）
11	論理的文章（立場と結論・材料と構成）
12	予備日
備考	

後期

週	主要テーマ
1	文章読解と作文の実践。取り扱う文章については、日本文学、日本文化に関するものを中心にして見ていきたいと考えている。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

科目名	国語	担当者名	宮澤康造

講義の目標		国語表現には、音声と文字（文章）による二つがある。本講座では文字表現を主として展開し、その基本を身につけると共に、実作と作家の文章の考察により文章力を高めることを目標とする。また応用として、新聞・雑誌の編集、詩歌の創作、自分史のまとめなどについても広く学ぶ。
講義概要		継続は力、とくに国語表現力の養成は、日常生活の中でのたゆまぬ努力によって培われる。書くことが習慣化され、書くことが楽しくなれば最上である。だがそんな人は多くない。 書けるようになるには、内なるものの充実が必要である。体験を重んじ、読書を大切にすることが必須である。現代の情報氾濫の中で、いかに受容するかも大切なことである。 本講座では、年間を通じて書くことに心を向けさせ、書くことの方法を身につけるための広い知識と習慣を用意している。手紙の書き方からはじめ漢字や仮名づかいに及び、作家の文章や文章論に学び、新聞や碑文のことばに関心を寄せ、資料の生かし方、編集の方法など多岐に及ぶ。
使用教材	テキスト	①「文章の書き方」（文化庁）②「作家・文学碑の旅」（宮澤康造）
	参考文献	前期の第１時間目「国語表現参考書目」（プリント）で提示。
評価方法		①出席を重視する。毎時のノート、プリント等の累加記録の状況。 ②前後期末のテスト２回の成績。 ③折々の作文のまとめと提出状況。 ④学生の自己評価も参考に総合評価。
受講者に対する要望など		欠席や遅刻を平気と考える者は、初めから受講申し込みをしないこと。受講の申し込みをしたら最後まで出席の努力を重ねること。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	年間講座要項、国語表現参考書目（プリント）により、年間の講座の概要を示す。文章とは何か、文章上達のための要件について講話。
2	手紙について――文章に習熟する近道は、手紙と日記を書くことである。まず手紙についての知識・理解・書式について。実習――封筒の書き方。
3	手紙の実習と諸注意。――手紙についての留意事項を葉書・封書・往復葉書・海外郵便等で学ぶ。　実習――父母への手紙
4	作家の手紙の考察――藤村、漱石はじめ作家の書簡から学ぶ。　資料としての手紙――詩から散文へ（藤村の小諸時代）
5	文章の書き方――テキスト①の座談会の要約、メモのとり方を学ぶ。　材料（題材）の収集メモ――記録のもつ力、継続の力の尊とさを知る。
6	原稿用紙の書き方――原稿用紙の正しい表記、句読点や段落の理解。　文は人なり、文章は段落なりということ。
7	文題と内容――一般題と特殊な文題の理解。　段落と構成のしかた。
8	漢字の学習――漢字の字源・構成・誤り易い漢字や熟語、身につけたい160の漢字。
9	文章の書き方――望ましい文章とは？　機能的な文章への関心を深める。文章の種類とそれに応じた書き方を学ぶ。
10	文章論に学ぶ――作家の文章読本・文章論を通じて、文章のあるべき姿を知る。書き出しの工夫・結びの要領を学ぶ。
11	文学碑のことば――作家の文学碑に刻まれたことばや文章を通じて、ことばの力を考える。それぞれの作家の特色の理解（テキスト②）
12	埼玉県の文学碑――文学碑一覧から、学園近辺の文学碑の理解。　レポートのまとめ方――文学碑探訪等の記録・紀行文をまとめる　（例）芭蕉と草加。埼玉の文学者、郷土の文学碑など。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期答案の返却と概評。　「ことしの夏を語る」感想発表のためのメモ。実作――「ことしの夏」
2	作家の文章の考察――短編を選び、主題、起筆、結筆の要領、構成などについて考える。
3	かな（カナ）文字について――「あいうえお」五十音、「いろは歌」四十七文字の由来、平がな、カタカナの由来、変体仮名について学ぶ。
4	作家と文章――好きな作家を選び、その文章の特色を考え、文章の道を学ぶ。作家とエッセイ、作家と題材、作家のペンネームの由来を考える。
5	外来語――新聞・雑誌に登場するカタカナ語・外来語の理解と文章中での生かし方。キーワードについて。　実習――カタカナ語の収録
6	新聞に学ぶ――日刊新聞を通じて新聞のあるべき姿、その概要を知る。社説、コラムの文章、見出しと内容など実習――新聞記事の切抜き
7	新聞に学ぶ――新聞・雑誌の編集について。割付けということ。作家・文人の文章、一般人の投稿文などについて。
8	作家の文章論に学ぶ――作家の文章読本・文章論を読んで、文章のあり方を学ぶ。（例）丸谷才一「文章読本」名文を読めということ。
9	短詩型文学について――日本の韻文としての和歌・俳句・詩・川柳などさまざまの短詩型文学を理解する。　実作――短歌・俳句を作る。
10	レポート・論文のまとめ方――アンケートの作り方、資料を生かしてレポートのまとめ方、論文でいかに文章を構成するかなど。　実作――「大学生活とは」他
11	自分史のまとめ――現在までの年譜の作成。その中のある時代の文章化を試みる。その積み重ねで自分史をまとめる。　実作――「～のころ」
12	情報や資料の生かし方――溢れる情報洪水の中から、いかに資料を選択し収集し、生かすかを学ぶ。研究論文まとめの要領。
備考	

科目名	日本文学	担当者名	飯島一彦

講義の目標		中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文芸と言ってよいが、庶民文芸であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深くて長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なのか、明らかにしていく。
講義概要		前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の購読・解釈を毎時間することになる。
使用教材	テキスト	その都度教室で配付する。
	参考文献	その都度教室で指示する。
評価方法		年二回のレポート、学年末試験の成績による。
受講者に対する要望など		長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	「お伽草子」とは何か？
2	「浦島太郎」を読む①
3	「浦島太郎」を読む②
4	「浦島太郎」を読む③
5	奈良時代の「浦島太郎」①　日本書紀
6	奈良時代の「浦島太郎」②　万葉集
7	平安時代の「浦島太郎」①
8	平安時代の「浦島太郎」②
9	昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10	国定教科書の「浦島太郎」
11	まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12	予備日「絵本の中の浦島太郎」
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	「一寸法師」を読む　①
2	「一寸法師」を読む　②
3	「一寸法師」を読む　③
4	奈良時代の「一寸法師」①
5	奈良時代の「一寸法師」②
6	平安時代の「一寸法師」①
7	平安時代の「一寸法師」②
8	芸能に見る「一寸法師」
9	国定教科書の「一寸法師」
10	昔話の「一寸法師」
11	まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
12	予備日「絵本の中の一寸法師」
備考	

科目名	日本文学	担当者名	中村　文

講義の目標		鎌倉時代の初めに鴨長明が著した『無名抄』の読解を通して、和歌をめぐる約束事や人間関係、社会生活の中での和歌の機能を知るとともに、数多くの歌人の逸話から、和歌を詠むという営為が持つ意味や、他者と衝突してまで守ろうとした文芸観、秀歌を詠み出すために心を砕いたありさま等を読み取り、日本の芸道全般に通じる、ひたすらに執着することによって向上しようとする姿勢について考えたい。
講義概要		『方丈記』の著者として有名な鴨長明は、新古今時代に活躍した歌人でもある。その著作の一つ『無名抄』には、和歌に関する故実（和歌を詠む上での約束事や地名の由来）が記される他、数多くの歌人にまつわる興味深いエピソードが書き残されている。前期の講義では、歌人達が和歌を詠む様々な場面にどのような姿勢で対処したかを描く話を取り上げ、彼らの名誉欲や歌人としての矜持、秀歌を詠み出そうとする執着心や歌人間の対立の様相等を読み取りたい。後期の講義では、彼らが秀歌の条件や歌人として立つための要件をどの辺りに求めていたのかを描く話を読んで、彼らを和歌詠作へと駆り立てた理由を探るとともに、人間にとって文学に携わることがどのような意味を持つのかについて考えたい。
使用教材	テキスト	川村晃生・小林一彦校注『無名抄』（三弥書店、1000円）
	参考文献	随時プリントを配布する。
評価方法		前期・後期にそれぞれ一回、レポートを提出してもらう。これに、授業中の発言内容等を加味して判定する。
受講者に対する要望など		なじみの薄い人名や和歌という文学形式にとまどうかもしれないが、歌人達の人間臭い面に共感を持って、詩による自己表現とは何かということを考えてほしい。私語は厳禁。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	鴨長明と『無名抄』についての概説。授業の進め方などについての説明。
2	晴の歌人に見せ合すべき事（p. 8） ＊歌合に加わる時の心得(1)
3	頼政歌俊恵撰ぶ事（p. 10） ＊歌合に加わる時の心得(2)
4	俊恵が歌を傀儡がうたふ事（a. 25） 同じ人、歌の中に名の字をよむ事（p. 26） ＊歌人の名誉欲
5	三位入道、基俊が弟子になる事（p. 27）、俊頼・基俊いどむ事（p. 28）、歌人同士の対立(1)
6	琳賢、基俊をたばかる事（p. 29）、基俊、僻に難ずる事（p. 29） ＊歌人同士の対立(2)
7	歌人、証得すべからざる事（p. 41） ＊歌人の心がまえ
8	道因歌に志深き事（p. 49）、頼政歌道にすける事（p. 45） ＊歌道への執着(1)
9	頼実が数寄の事（p. 72）、千載集に予一首入るを悦ぶ事（p. 14） ＊歌道への執着(2)
10	艶書に古歌かく事（p. 30）、女の歌よみかけたる故実（p. 31） ＊恋愛の中の和歌
11	隆信、定長一双の事（p. 50） ＊歌道への精進
12	大輔・小侍従一双の事（p. 51）、俊成卿女・宮内卿両人歌のよみ様かはる事（p. 51） ＊和歌を詠む姿勢
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	俊成自讃歌の事（p. 46）、俊恵俊成の秀歌を難ずる事（p. 47） ＊和歌に対する評価
2	上の句劣れる秀歌（p. 35）、歌の詞の槽糠（p. 36） ＊秀歌の条件(1)
3	歌をいたくつくろへば必ず劣る事（p. 37）、秀句に依って心劣りする事（p. 37） ＊秀歌の条件(2)
4	静縁こけ歌よむ事（p. 39）、案じ過して失と成る事（p. 38） ＊秀歌の条件(3)
5	歌半臂の句（p. 34） ＊和歌に用いることば
6	会の歌に姿分つ事(p. 52) ＊和歌の姿(1)
7	俊恵、歌の体を定むる事（p. 64） ＊和歌の姿(2)
8	古歌を取る（p. 68） ＊和歌の修辞技巧
9	榎葉井の事（p. 32） ＊和歌に用いられる地名に関する知識と歌人の条件(1)
10	このもかのもの論(p. 11)、せみのをがはの論（p. 12） ＊和歌に用いられる地名に関する知識と歌人の条件(2)
11	千鳥、鶴の毛衣を着る事（p. 16） ＊和歌に用いられることばに関する知識と歌人の条件(1)
12	ますほの薄（p. 17）、井手の山吹ならびに蛙（p. 19） ＊和歌に用いられることばに関する知識と歌人の条件(2)
備考	

科目名	日本文学	担当者名	福沢　健

講義の目標	柿本人麻呂は、『万葉集』を代表する歌人であると共に、日本文学史の上でも最高の歌人の一人として位置付けられている。では、柿本人麻呂の歌とはどのようなものか。この問題を初期万葉集から順々に説いていくことによって述べていきたいと思う。柿本人麻呂の歌は、讃歌と挽歌とに大別されるが、本講義では主として讃歌の系列に属する作品について考察していきたいと考えている。	
講義概要	高等学校までの古典とは異なり、現代語訳を付けることを目標とするのではなく、その作品の文学的位置付けを考察する点に主眼があるので、特に文法等の知識がなくてもよい。具体的に扱う歌人は、①伝承歌（雄略天皇・舒明天皇）、②初期万葉歌（中皇命・額田王・中大兄）、④柿本人麻呂、⑤人麻呂以降（山部赤人・笠金村・田辺橘麻罹・大伴家持）である。これらの歌人の歌の内容を分析し、その作品の文学史的位置付けについて考えていきたいと思う。	
使用教材	テキスト	小野　寛校註『万葉集抄』（笠間書院）
	参考文献	随時指示する。
評価方法	前・後期のレポートによって行なう。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業内容の説明。『万葉集』についての概説。
2	雄略天皇の歌①
3	雄略天皇の歌②
4	舒明天皇の歌①
5	舒明天皇の歌②
6	中皇命の歌①
7	中皇命の歌②
8	額田王の歌①
9	額田王の歌②
10	額田王の歌③
11	中大兄の歌
12	額田王の歌④
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	柿本人麻呂の歌①
2	柿本人麻呂の歌②
3	柿本人麻呂の歌③
4	柿本人麻呂の歌④
5	柿本人麻罹の歌④
6	柿本人麻呂の歌⑤
7	柿本人麻呂の歌⑥
8	柿本人麻呂の歌⑦
9	人麻呂以降①
10	人麻呂以降②
11	人麻呂以降③
12	まとめ①
備考	まとめ②

科目名	外国文学	担当者名	北澤滋久

講義の目標		文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。
講義概要		—英米の文学に観る人間像— 英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていれば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりの科目ではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来愉しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたく思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。
	参考文献	参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。
評価方法		前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。
受講者に対する要望など		毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、殊に昨年は異常現象が生じ、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年10-20％の不合格者が出ています。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	Ⅰ 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリィの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	Ⅱ 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	Ⅲ 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	Ⅳ 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	Ⅴ 海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	Ⅵ 近代芸術観の極致 『月の六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	Ⅶ 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	Ⅷ 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	外国文学	担当者名	松山恒見

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がいかに大きいかを知らせること。なお、この講義は他の外国文学の講座に、英米、独があるためフランスを中心とするが、特にそれにこだわるわけではない。	
講義概要		
使用教材	テキスト	テキスト：なし。
	参考文献	参考文献：多岐にわたるのでその都度指示する。
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後観を書いてもらうことで、評価の50％とする。残る50％は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度と、記憶とを見る出題による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	読書について――文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1)古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2)聖書、キリスト教。
4	中世文学――ロランの歌、トリスタンとイズー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀（ルネッサンス）――モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀――古典主義、コルネィユ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2)ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人（クレーヴの奥方）。
8	十八世紀――啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。（課題図書発表）
9	十八世紀(2)――ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐって。アナトール・フランスの「神々は渇く」。
11	十九世紀――ロマンチスム。シャトーブリアン、スタール夫人。（附）コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。（進度調節）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ロマンチスムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐって。
3	ジョルジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。（象徴主義）
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。（課題図書発表）
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、プルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニェまで。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	宮澤康造

講義の目標		訓読漢文を通じて、中国古典の学習を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。
講義概要		日本の文物制度は中国に負うところが大きい。とくに日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。 本講座では、漢文読解の力を養い、また日本で現在も生きている故事成語を理解するため、広く中国文学の概要を学び、テキストに収めた漢詩文の読解演習に当る。 さらに参考のプリント教材を用意して広い知識を身につけるようにし、漢詩文の碑の読解なども加えて、興味ある講座の展開を用意している。
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考（御牧貞風編）
	参考文献	①漢文学習のための辞典　②漢文学習のための参考書 いずれも授業時プリントで示し、解説する。
評価方法		①出席状況を重視する。日常の訓読演習への参加は学習向上の鍵。 ②前後期末実施のテストの成績。 ③学生各々の自己評価票。（参考） ④自主レポート　　以上の四点より総合評価する。
受講者に対する要望など		継続は力、ねばり強い努力が大切。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから授講しないこと。学問を通じて人間形成を望む者来れ。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	漢文学の学習について――日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近な故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎――漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は何か。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎――漢字の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の碑の通読。
4	訓読基礎編――「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト１頁）読解　日本のことわざとの比較
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト２～３頁）
6	「蛇足」「四面楚歌」「塞翁馬」「推敲」（テキスト４～６頁）
7	漢文故事成語考（テキスト27～54頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト55～60頁）
9	演習編　陶潜「飲酒」の読解　陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。　中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。　碑の採録の方法について。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。唐代の詩の概説―主なる詩人とその作品について―
2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。　対句的表現の妙について
3	李白と杜甫について―プリントにより対比考察―　李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。楽府についての解説。
4	李白の詩を学ぶ――テキスト六編の中から好きな一詩を考究して、暗誦できるまで学習する。六編の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ――テキスト六編の中から好きな一詩を考究して、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。　杜甫の人と作品についてまとめる。
7	白居易について――その生涯と作品について――　「慈烏夜啼」の読解
8	「長恨歌」を学ぶ。長編の詩の通読、表現上の特色について知る。　段落と押韻についての考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。――第二・三段の読解。　設問（プリント）の考究。
10	「長恨歌」を学ぶ。――長恨歌伝、長恨歌の背景（史実）についての解説。
11	「長恨歌」と日本古典――源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ――故事成語の原典の通読（テキスト27～54頁）　現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	山路朝彦

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。	
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。	
使用教材	テキスト	カフカの作品について教室で指示します。
	参考文献	
評価方法	前・後期のレポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学の理論へ　①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質
2	カフカの作品紹介
3	カフカの作品紹介
4	カフカの作品紹介
5	カフカの作品紹介
6	文学の理論へ　②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌
7	文学の理論へ　③「小説」の誕生とその歴史
8	同上
9	文学の理論へ　④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究
10	同上
11	文学の理論へ　⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学研究の立場と方法　①精神史的方法
2	②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法
3	カフカの解読
4	③マルクス主義の立場から
5	カフカの解読
6	④構造主義的方法
7	カフカの解読
8	⑤文学社会学的方法
9	カフカの解読
10	⑥「エッセイ」という方法
11	カフカの解読
12	⑦新たな立場と方法
備考	

科目名	日本史	担当者名	新井孝重

講義の目標		13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。
講義概要		鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』（小学館、日本の歴史） ・佐藤進一『南北朝の動乱』（中央公論、日本の歴史）（中公文庫にあり）
評価方法		評価は、後期の試験成績をもってする。
受講者に対する要望など		紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実に注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と将軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生の経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争（観応の擾乱）の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1)　内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2)　中世を貫徹する「狂」の表現（バサラをも通底する）を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巣窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	日本史	担当者名	齊藤　博

講義の目標		地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。
講義概要		読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。 リポートは、「我が家の歴史」である。夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聴き取り調査、文献文書の報告書（400字詰縦書き5枚以上）を提出（後期第1回目授業まで）する。
使用教材	テキスト	・齊藤　博『歴史の精神』学文社 ・齊藤　博『民衆史の構造』新評論
	参考文献	講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。
評価方法		前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。
受講者に対する要望など		出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」　Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」　Ⅱ
10	アジア的共同体論について　Ⅰ
11	アジア的共同体論について　Ⅱ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点　Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点　Ⅱ
3	明治維新論　Ⅰ
4	明治維新論　Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論　Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論　Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論　Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論　Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論　Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）―日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	東洋史	担当者名	熊谷哲也

講義の目標		イスラーム世界の歴史について知識と理解を深める。今日の国際情勢を読みとるうえでイスラームは重要なキーワードの一つとなっているが、これを理解するためには、そこに生きる人々の宗教や思想、生活、文化にかんする基本的な知識が必要である。 イスラーム教の成立以降の西アジア史の流れを、現代的な問題関心を交えながら学びとり、社会的な視野を広げることを目標とする。
講義概要		前期はイスラームについての基本的な知識を学んだうえで、預言者ムハンマドとその時代から16世紀にいたるまでの西アジア史を概観し、宗教の成立とその拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。同時に中世イスラーム世界の社会や文化についての基本的な知識を学ぶ。 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別に概観しながら、さらに宗教・文化にかんするテーマをトピック形式で加える。これによって今回イスラームが関係するさまざまな問題について、理解が深められるよう留意する。
使用教材	テキスト	特に定めない。
	参考文献	夏休みあけに自由課題の読書レポートを提出するが、そのためにイスラームにかんする新書程度の本を用意してもらう。詳しくは授業で指示する。
評価方法		試験とレポート。発想のオリジナリティーを重視する。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。以上三つの宗教はともにセム的一神教として多くの共通点を持つ。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現とその時代背景について考える。彼がアラー神の啓示を受け、イスラーム教を創始し、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4	預言者の死後、その代理人としてのカリフ（ハリーファ）たちが君臨した正統カリフ時代について考える。この時期に早くも第一次内乱がおこり、シーア派が出現する。
5	ウマイア朝の歴史について考える。ヴェルハウゼンによる古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。古典理論にみられる「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への変化の意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルマーン）と預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発展した初期思想と学問の展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代に発展したアラビア科学とその内容について、また中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概述する。
10	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。マムルーク軍人による支配は奴隷王朝と表現されるが、とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、カピトレーションの問題をとりあげる。
12	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラーム世界の文化的な影響がヨーロッパの近代化にはたした役割について再考する。いわゆる「十二世紀ルネサンス」の問題にもふれる。
2	ヨーロッパ世界における帝国主義とアジア、とくにイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアの近代化をまず一般論として把握する。
3	イスラーム世界における知識人階層であるウラマーについて、政治権力との関係、社会的な役割について考える。
4	オスマン帝国の近代化の問題について考える。帝国の解体、トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
5	西洋の衝撃によって西アジア世界の内部にあらわれたさまざまな改革運動とその内容を考察する。欧化主義や復興主義（あるいは原理主義）の芽生える様子を理解する。
6	エジプトの近代化とその過程について考える。前回の改革運動についての理解をさらに深めることになる。
7	トルコの近代化とその過程について考える。すでにオスマン帝国の近代化を学んだが、その続きとしてトルコ共和国の成立に至るまでを考える。
8	その他のイスラーム諸国の近代化についてさまざまな問題について考える。
9	イスラーム法（シャリーア）について、また人々の生活と信仰についての現代における諸問題をとりあげ、近代化のもつ意味を探る。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題を中心にとりあげる。
11	パレスチナ問題について考え、現代のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。ヨーロッパ世界との関係を再考する。
12	まとめをおこなう。
備考	

科目名	東洋史	担当者名	西嶋定生

講義の目標	日本の歴史を東アジア世界の中に位置づけて理解することを目的とする。これは日本歴史を世界史の中に位置づけるということである。その位置づけ方として、世界史の新らしい構想が必要となる。東アジア世界とは近代的世界、すなわち19世紀において完成する全地球的世界が形成される以前の複数の世界のうちのひとつであり、その中で日本の歴史は育成された。このような観点から東アジア世界の形成とその構造を解説し、その中に日本の歴史の展開を位置づけてみたい。	
講義概要	まず東アジア世界とはいかなる歴史的世界であるかを説明する。そして東アジア世界が漢字文化圏であり、中国文化圏であることを説き、この文化圏が成立するためには、冊封体制という中国王朝を中心とする国際的政治関係が形成されることが必要であることを説明する。これによって価値体系を共有する領域が形成され、その領域が東アジア世界にほかならぬことを説明する。そしてこの東アジア世界が10世紀にひとたび崩壊すると、各地域にそれぞれ独自の民族文化が形成される。そしてそれ以後、東アジア世界は独自の交易圏として復活し、19世紀にいたって近代的汎地球的世界の中に吸収されることを説明する。	
使用教材	テキスト	・西嶋定生『中国史を学ぶということ』（吉川弘文館） ・西嶋定生『日本歴史の国際環境』（東京大学出版会）
	参考文献	・西嶋定生『中国古代国家と東アジア世界』（東京大学出版会） ・西嶋定生『倭国と邪馬台国』（吉川弘文館）
評価方法	学年末に常時出席者を対象として筆記試験を行う。出席していなかったものは原則として受験資格が認められない。	
受講者に対する要望など	講義中の私語は厳禁する。違犯者は退室してもらう。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	世界史とは何か。世界史の構造。世界とは何か。
2	東アジア世界とは何か。東アジア世界と日本。
3	漢字文化圏の成立。漢字はいかにして中国の周辺地域に伝えられたか。
4	冊封体制とは何か。中国王朝と周辺地域との関係がなぜ冊封体制をつくるか。
5	冊封体制と文書外交。文書作成と印章制度。
6	冊封体制と中国文化圏の形成。
7	邪馬台国をめぐる東アジア状勢。
8	南北朝の分裂と日本。倭の五王の問題。
9	日本における治天下大王の出現と東アジア。
10	遣隋使外交の意味するもの。
11	遣唐使外交の意味するもの。
12	遣唐使停止の背景。古代東アジア世界の崩壊。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	東アジア交易圏の成立。宋代における社会経済の発展。日宋貿易の発展。
2	モンゴル帝国の出現と東アジア。蒙古襲来の事情とその背景。
3	明王朝の成立と東アジア世界の再現。勘合貿易の意味。倭冠の活躍とその対策。
4	秀吉の朝鮮侵略とその失敗。
5	江戸時代における鎖国政策と東アジア世界。
6	江戸時代の日本文化と中国文化。
7	東アジア世界と大清帝国。
8	大清帝国の文化。
9	ヨーロッパ世界のアジア進出。
10	東アジア世界と近代世界との相克。
11	近代世界と日本。日本と東アジア世界。
12	汎地球的全世界の中における東アジア世界その他の旧世界の残滓。
備考	

科目名	西洋史	担当者名	高橋正男

講義の目標	近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をイェルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とし、受講生とともに日本人の視点から西洋史を現代国際関係から見直し21世紀を展望してみたい。	
講義概要	講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙シラバスを参照されたい。	
使用教材	テキスト	・高橋正男著『旧約聖書の世界』(第4刷) 時事通信社、1994年 ・高橋正男著『年表　古代オリエント史』(第2刷) 時事通信社、1994年 ・D=バハト著 (高橋正男訳)『図説　イェルサレムの歴史』(第2刷)東京書籍、1994年
	参考文献	その都度紹介する。
評価方法	前期・後期の筆記試験による。 講義資料等は出席者のみに配布する。	
受講者に対する要望など	＊在外研修のため5月第2週から開講	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か
2	先史時代・歴史時代
3	文明の発生
4	古代オリエント史の推移(1)
5	古代オリエント史の推移(2)
6	族長時代から王国成立まで(1)
7	族長時代から王国成立まで(2)
8	第一神殿時代 —前586年まで— (1)
9	第一神殿時代(2)
10	バビロニア捕囚時代
11	第二神殿時代 —前538～後70年—
12	第二神殿時代(2) まとめ・VIDEO
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローマ時代 —70～330年—
2	ビザンツ時代 —330～638年—
3	初期ムスリム時代 —638～1099年—
4	十字軍時代 —1099～1187年—
5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代 —1187～1517年—
6	オスマン・トルコ時代 —1517～1917年—
7	イギリス委任統治時代 —1917～1948年—
8	イェルサレムの東西分断 —1948～1967年—
9	イェルサレム再統合 —1967年以降
10	第二次世界大戦後の中東情勢
11	現代歴史学の諸問題
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	

科目名	西洋史	担当者名	古川堅治

講義の目標	——ヨーロッパの歴史—— 今、ヨーロッパにはEUを中心としての総合の道を歩もうとしている。今世紀に加盟諸国が経済統合・通貨統合のみではなくへ外交・防衛の点でも共同歩調をとろうという固い意志表明がそこには見られる。このような動きの中で12ケ国の研究者たちが、ヨーロッパについての共通の歴史認識を得ようとして1つの通史を作り上げた。この通史を通して、ヨーロッパ人の歴史意識とかれらの抱く新しい「ヨーロッパ像」を考察する。	
講義概要	講義は平易で、わかりやすい形の説明を中心に進めていくが、必要に応じて、ビデオなどを使って理解を深めて行きたい。	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	フレデリック・ドルーシュ編/花上克己訳『ヨーロッパの歴史：欧州共通教科書』（東京書館、1994年）
評価方法	前・後期各1回ずつのレポート提出により判断。テーマ、〆切日、枚数等は授業中に提示する。	
受講者に対する要望など	受身ではなく、積極的に討論・考察する学生を期待する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ヨーロッパとは何か」 ①地理的特徴②多様な言語③「文明」と「文化」④経済と社会の結合性
2	「ツンドラから神殿へ」(先史時代—A.D.4世紀) ①ヨーロッパ最初の人類と耕作民②金属時代と地中海交易③地中海世界におけるギリシアの発展④ヨーロッパの新しい勢力
3	「ツンドラから神殿へ」(先史時代—A.D.4世紀) ⑤古典文明・最盛期⑥再統一か分裂か？
4	「ローマ帝国の威光」(B.C.6—A.A.5世紀) ①ローマ：都市国家から世界帝国へ
5	「ローマ帝国の威光」(B.C.6—A.A.5世紀) ②ローマ帝国のヨーロッパ③侵入と変動：新しいヨーロッパの成立に向けて
6	「ビザンツ帝国と西欧世界」(6—11世紀) ①ユスティニアヌス帝とビザンツ帝国〈6—7世紀〉②ビザンツ帝国とヨーロッパの新興諸国〈8—9世紀〉
7	「ビザンツ帝国と西欧世界」(6—11世紀) ③ビザンツ帝国の最盛期〈10—11世紀〉④西欧世界〈10—11世紀〉⑤東西世界の宗教生活〈6—11世紀〉
8	「中世のキリスト教世界」(11—13世紀) ①中世ヨーロッパとキリスト教②ヨーロッパの封建制③帝国と教会領
9	「中世のキリスト教世界」(11—13世紀) ④都市と交通⑤ヨーロッパの拡大⑥文化的統一と政治的分裂
10	「危機とルネッサンス」(14—15世紀) ①経済②社会③政治と行政
11	「危機とルネッサンス」(14—15世紀) ④宗教と精神生活⑤変わりゆく文化
12	「小括」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「新世界との出会い」(15—18世紀) ①ヨーロッパの膨張②大発見の時代Ⅰ③大発見の時代Ⅱ
2	「新世界との出会い」(15—18世紀) ④植民地帝国の形成⑤世界経済⑥異文化との出会い
3	「宗教改革と絶対主義」(16—17世紀) ①ルネッサンス②宗教革命③反宗教改革とカトリックの改革
4	「宗教改革と絶対主義」(16—17世紀) ④宗教戦争によるヨーロッパ分裂⑤絶対主義のヨーロッパ
5	「啓蒙時代と自由の思想」(1760—1815年) ①グランドツアー：ヨーロッパの教育②王朝と戦争③社会生活と経済
6	「啓蒙時代と自由の思想」(1760—1815年) ④啓蒙の時代⑤アメリカ独立戦争からフランス大革命へ⑥ナポレオン帝国とその崩壊
7	「ヨーロッパの近代化」(19世紀) ①自由主義と民族主義②人口増加と都市化③農業の改革
8	「ヨーロッパの近代化」(19世紀) ④ヨーロッパの工業化⑤政治構造と社会改革⑥19世紀の文化運動
9	「自己破壊へ向って」(1900—45年) ①1900年のヨーロッパに②第一次世界大戦③ヨーロッパの新体制
10	「自己破壊へ向って」(1900—45年) ④再度の危機⑤戦争準備⑥第二次世界大戦
11	「分裂から相互理解へ」(1945—90年) ①戦後の混乱②復興③東の停滞と西の繁栄
12	「分裂から相互理解へ」(1945—90年) ①危機への対応②ヤルタ体制の再検討③「総括」
備考	

科目名	一般言語学	担当者名	新里博樹

講義の目標		言語は、人間にとって、その存在の基盤であり、また、人間のあらゆる営みの様相としての文化の根幹をなすものである。本講義では、そうした言語の本質や一般的特性を追究する学問領域としての“言語学”に対する基礎的な理解を深めることを目標とする。言語の一般的特性の諸点や言語観といった、言語学上の知見を知識として習得するばかりではなく、そうした知見をもとに、自己の内部や周囲における様々な言語事象に注意を払い、自分なりに考えていこうとする姿勢を涵養することを目指す。人間と言語との関わりに想いを到す態度を養いたい。
講義概要		言語学の諸領域や関連領域を概説しているテキストを横軸とし、また研究史の流れに沿って言語学を概観する授業内部を縦軸として、可能なかぎり立体的に言語学のアウトラインを講じていく。前期は、主として古代から近代、特にソシュールに至る言語学の発展の流れを概観し、言語に対して人間がどのような関心を抱いてきたか、という問題を論じ、後期は、主としてソシュールによって提示された言語観、および言語の一般的諸特徴を講じ、さらに、ソシュール以後の言語学の発展を概観しながら、人間と言語との関わりを論じる。なお、後期においては、いくつかの言語事象をとりあげ、言語の一般的特質や機能に照らして考察し、発表する討議形式も導入する予定である。
使用教材	テキスト	『言語学入門』　田中春美・五十嵐康男・中村完・家村睦夫・倉又浩一・樋口時弘　共著、大修館書店
	参考文献	話題が多岐にわたるため、詳細はその都度、提示・紹介するが、基本的なものとして、次のものを提示しておく。 ・　『一般言語学講義』　ソシュール、岩波書店 ・　『ソシュール小事典』　丸山圭三郎、大修館書店 ・　『言語理論小事典』　デュクロ/トドロフ、朝日出版社
評価方法		前期・後期のレポートが中心となるが、出席状況も考慮する。ただし単に出席すればよいということではなく、授業への参加（質問や発言、授業内に実施される小リポートなど）の度合により評価する。その際、最も重要なのはオリジナリティである。
受講者に対する要望など		特別な予習は必要としないが、授業で提示される諸問題に対する真剣な思考と活発な論議とを求める。自ら求め、自ら考え、自らの発見を大切にする姿勢が望まれる。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明を行い、導入として、「言語学とはどういう学問か」ということについて論じる。
2	言語学の領域と方法/言語学にはどのような研究分野があるかということ、および、その方法を概観し、隣接諸領域との関わりを、テキストの構成を解説しながら論じる。
3	言語学の歴史と発展（第１回）/「言語学以前」　人間の言語に対する関心の在り方と言語観を、始原の段階における神話的前研究に見る。
4	言語学の歴史と発展（第２回）/「古代の言語研究Ⅰ」　古代における言語研究を、ギリシア・ローマについて概観する。特に、哲学的言語論や形態分析としての文法論の発展について論じる。
5	言語学の歴史と発展（第３回）/「古代の言語研究Ⅱ」　古代における言語研究を、インド・中国について概観する。特に、音韻論や文字論の発展について論じる。
6	言語学の歴史と発展（第４回）/「中世の言語研究Ⅰ」　中世における言語研究を、ルネッサンス前後のヨーロッパにおけるキリスト教との関連において概観し、国家語の意味を論じる。
7	言語学の歴史と発展（第５回）/「中世の言語研究Ⅱ」　中世における言語研究を、東アジアにおける仏教との関連において概観し、日本における言語研究（伝統的な）について触れる。
8	言語学の歴史と発展（第６回）/「近代の言語研究Ⅰ」　近代前期（17～18世紀）の言語研究を、「言語起源論」を中心に概観する。特に、認識論的言語観や経験論的言語観について論じる。
9	言語学の歴史と発展（第７回）/「近代の言語研究Ⅱ」　近代後期（19世紀）の言語研究を、「比較・歴史言語学」を中心に概観する。特に、言語系統論や言語類型論の考え方について論じる。
10	ソシュールの言語理論Ⅰ/「現代言語学の夜明け」　ソシュールの言語理論のうち、通時論と共時論、ラングとパロール、構造と体系、統語関係と連合関係などの基礎的な概念を解説する。
11	ソシュールの言語理論Ⅱ/「記号論的言語研究」　言語の記号としての特質についてソシュールの理論を概観する。特に、線状性と分節性、恣意性、聴覚映像などの基礎的な概念を解説する。
12	前期の総括と後期の展望　前期レポート提出
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期レポートの返却と講評　後期予定の確認
2	ソシュールの言語理論Ⅲ/「ソシュールの位置と影響」　ソシュールの言語理論の背景と、その後への影響について整理し、理解を深める。
3	言語の一般的特性（第１回）/記号的特質　ソシュールの言語理論Ⅱをもとに、言語の一般的特性を復習整理し、特に記号性や体系性について考察する。
4	言語の一般的特性（第２回）/言語の単位とその構造　言語における構造上の特性を、構造主義言語学の考え方を概観しつつ考察する。
5	言語の一般的特性（第３回）/言語の定型性と生産性　言語運用能力の獲得（言語習得）の根源となる一般的特性を、生成論（変形文法）の考え方を概観しつつ考察する。
6	言語の機能Ⅰ/言語における伝達機能　外的言語の機能のうち、伝達に直接関わる働きの種々相について考察し、コミュニケーションの機構について論じる。
7	言語の機能Ⅱ/言語における非伝達機能　外的言語の機能のうち、伝達に直接関わらない働きの種々相について考察し、言語表現における美について論じる。
8	言語の機能Ⅲ/言語と認識　内的言語の機能としての、認識に関わる働きの種々相について考察し、認知主義言語学の考え方を概観する。
9	言語の機能Ⅳ/言語と深層心理　外的言語と内的言語の関わりを考察し、言語とそのイメージを手掛りに言語の人間内部の深層に与える影響の種々相を論じる。
10	言語と社会　言語と社会との関わりについて、位相語・差別語などを中心に論じる。併せて、言語地理学・社会言語学の考え方を概観する。
11	言語と文化　言語と文化との関わりについて、サピアニウォーフの仮説や文化記号論の考え方を概観しながら考察する。
12	年間の総括　後期レポート提出
備考	

科目名	一般言語学	担当者名	城田　俊

講義の目標		言語学の諸分野の輪郭をつかみ、各分野の歴史と現在の展望を行い、日本語および学習する外国語がいかなる言語であるかを考える基礎を得ることを目的とする。
講義概要		テキスト『言語学入門』に従って、言語の音声・音韻・文法（形態論・構文論）・意味論・比較言語学等の基礎概念、基本的考え方を解説する。ただし、テキストの第９章に当る方言学、10章にある文体論に関する説明は省略し、外国語学習・外国語教育等で現在注目をあびている語彙や意味や慣用をとらえる新しい理論「語彙函数（レキシカル・ファンクション)」に関し、７週をさいて解説し、「応用言語学」の立場からその応用を考える。
使用教材	テキスト	田中春美・五十嵐康男等『言語学入門』　大修館書店
	参考文献	・田中春美・樋口時弘等『言語学演習』　大修館書店 ・城田俊　『ことばの緑―構造語彙論の試み』　リベルタ出版
評価方法		試験ないしレポート
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論(1)　幼児の言語獲得、動物と言語、記号学。テキスト　3—11頁
2	序論(2)　言語学と関連諸科学、言語の特徴、言語の変異。テキスト　11—32頁
3	言語の音（おと）(1)　音声学と言語学、音韻論、調音器官　等。テキスト　11—42頁
4	言語の音（おと）(2)　母音、子音、長さ、アクセント、回化と異化。テキスト　42—60頁
5	形態論(1)　言語の分節性、二重分節、形態素、異形態。テキスト　60—72頁
6	形態論(2)　文法カテゴリー性（ジェンダー）、数、格、アスペクト、肯定・否定、時制、相、法、態。テキスト　78—97頁
7	構文論　構文論とは、主語・述語、支配と一致等。テキスト　97—113頁
8	文の生成　生成文法の発展。テキスト。117—139頁
9	意味論(1)　意味とは何か。テキスト。142—149頁
10	意味論(2)　意味論の変遷。テキスト。149—170頁
11	文字論(1)　文字体系　表記体系。テキスト　171—185頁
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	比較言語学(1)　言語の変化、体系の矛盾、音韻変化。テキスト　186—195頁
2	比較言語学(2)　文法・語彙・意味の変化、言語の地域差、祖語の再構。テキスト　195—211頁
3	比較言語学(3)　研究の歴史、日本語の系統。テキスト　211—216頁
4	補遺
5	語彙論と語彙函数、語は何によって結びつくか、慣用、コロケーション。
6	語彙函数(1)　強調語、称讃語、真正語
7	語彙函数(2)　動詞化動詞、開始語、終止語、完了語、継続語等
8	語彙函数(3)　充たし語、生成語
9	語彙函数(4)　調え語、無化語、悪化語、攻撃語、成果語、鳴き声のオノマトペ
10	語彙函数(5)　構成者名詞、舞台だて名詞
11	語彙函数(6)　助数詞、集合語、集団語、成員語、頭目語、同義語、類義語、敬語、反義語、反転語、総括語等
12	試験
備考	

科　目　名	一般音声学	担当者名	伊豆山　敦　子

講義の目標		人間の言語音の調音機構を観察し、その聴取の訓練を行なう。そして、その表記の方法を習得する。更に、音声がその言語で果たしている機能はどういうものか、日本語を例として考える。この授業により、無意識に習得した自国語の音声に対する客観的な認識が得られることを期待する。
講義概要		国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行なう。更に自国語の音声面に対する観察をし、音声の果たす機能に着目し、音韻論の基礎を学ぶ。各人が音声学的知識を持ち、音韻解釈ができるように、訓練を中心とした授業である。
使用教材	テキスト	・風間喜代三、上野善道他『言語学』(1993) 東京大学出版会
	参考文献	・服部四郎『音声学』(1984) 岩波書店 ・川上秦『日本語音声概説』(1977) 桜楓社 ・城生伯太郎『音声学』アポロン工業社
評価方法		授業中に行なう単音聴取テストへの参加 前期・後期各一回の聴取テスト 後期末の筆期試験 以上の総合により評価する。
受講者に対する要望など		実際の音を聴き取り発音するのは、一人ではむずかしい。授業で聴けばわかるものが休んでは教科書を読んでもわかりにくい。休まないことを要望する。

年間講義予定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	講義概要の説明。言語音が同じとか違うとかいうのは何を意味するか。音声面の研究とはどのようなことか。
2	音声と音声学。音声学の分野。(p. 193—196)
3	音声器官と気流のおこし手。(p. 199—202)
4	発声と調音。(p. 202—207)
5	国際音声字母の母音の調音。(p. 218—220)
6	国際音声字母の子音の調音点と調音法。(p. 209—212)　わたりと持続部。(p. 214—215)
7	両唇音
8	唇歯音
9	歯音
10	破擦音
11	硬口蓋音
12	復習とテスト
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期テストの発表と講評
2	軟口蓋音
3	口蓋垂音
4	ふるえ音、はじき音
5	側面摩擦音、側面接近音
6	鼻母音、接近音
7	日本語の音声表記。(p. 220—222)
8	音声表記の問題点。(p. 222—226)
9	日本語の音素体系。(p. 226—229)
10	音素設定の作業原則(1)。(p. 230—234)
11	音素設定の作業原則(2)。(p. 234—236)
12	復習とテスト
備考	

科目名	経済学	担当者名	小林　進

講義の目標	最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できないことが憂慮される事態が少なからず生じている。新入生を対象にしたこの講義では経済学の必要性を十分に理解できるように講義を進める。またカレントな経済の話題を通じて経済学への関心を高めるようにして経済学への一層の興味を持てるようにしたい。	
講義概要	マクロ経済学を前半にそして後半はミクロ経済学の初歩的概念を講義する。	
使用教材	テキスト	テキストなし
	参考文献	講義の中で適時に指示する。
評価方法	前期と後期の二回の試験によって評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

Ⅰ．マクロ経済学
国民所得概念
付加価値の定義（単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意）
GNP＝雇用者所得（賃金）＋営業余剰（利潤）＋（間接税－補助金）＋資本減耗分
GNP－資本減耗分＝NNP　（資本減耗分＝減価償却費）
GNP と GDP（国内総生産）の相違（海外からの要素所得－海外への要素所得）
GNP＝C＋I＋G＋X－Q（総需要）
（C：消費、I：投資、G：政府支出、X：輸出、Q：輸入）
主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか？
消費関数C＝cY＋Aの性質
限界消費性向 $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$　（0＜c＜1の経済的意味に注意）
貯蓄の定義及び貯蓄関数
国民所得の決定Ⅰ．単純モデル　（Y＝C＋I）
①代数解
$$Y = \frac{1}{1-c}\ (A+1)$$
②　45度線図による理解
③貯蓄と投資の均等による図からの理解
（投資）乗数理論
$$\Delta Y = \frac{1}{1-c}\ \Delta Y$$
生産関数Y＝F（K, N）　（Kは資本、Nは労働）
短期生産関数Y＝f（N）　（Kは短期では一定と見なす）
インフレギャップとデフレギャップ
（完全雇用時の国民所得Yと現実の国民所得の乖離（かいり））
国民所得の決定Ⅱ．政府を含むモデル　（Y＝C＋I＋G）
可処分所得 $Y^d = Y - T$
貯蓄と投資の関数式I＝S＋（T－G）
均衡予算乗数は1（ΔY＝ΔG）
貯蓄のパラドックス（貯蓄は美徳か？）
マネタリストの主張（大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小）
資本の限界効率と投資関数
IS 曲線とその右下がりの性質
貨幣需要関数と LM 曲線
IS・LM 曲線と経済政策の有効性
貨幣数量説（フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式）
マーシャルのKといわゆる「カネ余り」の問題
$$\frac{\Delta M}{M} = \frac{\Delta k}{k} + \frac{\Delta p}{p} + \frac{\Delta y}{y}$$　（y：実質国民所得）
短期及び長期のフィリップス曲線

Ⅱ．ミクロ経済学
経済主体（消費者及び企業）の合理的行動→最大化行動
・消費者行動
効用関数
無差別曲線
限界代替率（MRS）逓減の経済的意味
予算線
最適消費点→MRS＝価格比
所得効果、上級財（政常財）、下級財（劣等財）
価格変化と代替効果
下級財の特殊例としてのギッフェン財
個別需要曲線の導出
需要の価格弾力性
豊作貧乏の理論的理解
・企業の理論
総費用（TC）＝可変費用（VC）＋固定費用（FC）
平均費用（AC）と限界費用（MC）の関係　（平均概念と限界概念の把握）
利潤最大条件→価格P＝MC
個別供給曲線の導出

科目名	経済学	担当者名	髙橋房二

講義の目標	本講においては講義を通じて経済学に関する入門段階としての必要な基礎知識を与え、その理解のうえにたって経済学一般に関する基礎学力の育成をはかる。その場合、あわせて経済学的な考え方と見方、経済問題についての取り組み方の基礎を与える。	
講義概要	この講義においては経済学入門段階としての経済学一般、すなわちマクロ経済学とミクロ経済学の基礎が取り扱われる。初めに、その導入として資本主義経済とその特質について説明し、ついで経済学の発展に寄与した若干の経済学者の主な議論を簡単にとりあげる。つぎに、実際に主な国々の経済でみられる傾向や特長について述べる。そのあと、経済分析の基本的な手法や方法論について講義される。つぎの段階として、経済理論に進み、まず、マクロ経済学的な視点から、消費、貯蓄、投資の問題や貨幣の諸関係を取り扱い、さらに成長、インフレ、失業等の問題についてふれる。ついで、ミクロ経済学の視点から、消費に関連する様々の問題が述べられ、そして生産と費用に関する議論の展開がなされる。	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	・サロー、ハイルブローナー、ガルブレイス、『現代経済学』（上・下）TBS ブリタニカ、他。
評価方法	定期試験、ミニテスト、出席状況。	
受講者に対する要望など	出席状況だけでなく、受講態度も問題にされる。教養レベルの経済学の評価のある書物に出来るだけ親しむようにつとめること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の内容とその展開についての概要と学習上の留意点の説明、資本主義経済とその特質。
2	経済学と代表的な若干の経済学者　A．スミス、K．マルクス、M．ケインズ等
3	経済分析における行動仮説と経済学における分析手法の基礎　関数関係、恒等関係、図と表、図解的分析、数学的分析等
4	経済における長期的な推移　経済成長、経済成長率、労働生産性の動き、所得分配の傾向、企業の動向、政府の動向
5	需要と供給（Ⅰ）　価格と行動、需要、需要曲線、需要法則、限界効用、消費者余剰、供給、供給曲線
6	需要と供給（Ⅱ）　需要と供給の均衡、均衡価格の成立とその特徴、超過需要、安定均衡、需要曲線と供給曲線のシフト、長期と短期の関係
7	国民所得（Ⅰ）　国内総生産、国内純生産、個人可処分所得、分配国民所得、生産、貯蓄、投資、最終消費、政府支出、純輸出
8	国民所得（Ⅱ）　貯蓄・投資の均衡、貯蓄曲線と投資曲線、単純な均衡国民所得の決定関係
9	公共支出と赤字財政　公共部門、財政赤字とその危険
10	家計の消費動向　消費の一般的性格、消費と所得の関係、平均消費性向、限界消費性向、消費関数
11	企業の投資行動　投資の一般的性格、投資需要、加速度原理、予想、資本の限界効率、投資の誘因
12	財の生産　投入・産出の関係、資本、労働、技術進歩、生産関数、生産可能性フロンティア、投入要素の最適結合
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	貨幣と経済システム（Ⅰ）　貨幣、貨幣数量説とそのバラェティ、貨幣の流通速度等
2	貨幣と経済システム（Ⅱ）　ケインズの貨幣需要理論、ケインズ理論と貨幣数量説
3	インフレーション（Ⅰ）　インフレーション、デイマンドプルインフレ、コストプッシュインフレ、スタグフレーション
4	インフレーション（Ⅱ）　失業とインフレ、インフレーションの危険、インフレーションのコントロール
5	市場システム（Ⅰ）　価格と配分、価格以外の割当て
6	市場システム（Ⅱ）　需要の価格弾力性、価格弾力性と総収入、代替財、補完財
7	市場の失敗　公共財、外部性
8	競争的企業（Ⅰ）　完全競争、経済的利潤、企業者の最適化行動
9	競争的企業（Ⅱ）　短期費用、固定費用、可変費用、平均費用、限界費用、平均生産物、限界生産物、限界生産物逓減の法則
10	競争的企業（Ⅲ）　総収入、平均収入、限界収入、短期における利潤極大化
11	独占と寡占　純粋独占、独占価格、独占利潤、寡占、複占
12	貿易　貿易利益、比較優位、為替レート
備考	

科目名	経済学	担当者名	田村申一

講義の目標	この講義では、はじめて経済学に接し、これから勉強をはじめようとする学生が経済の動きに興味をもち、経済学の学習に意欲をもつキッカケをつくりたいと思います。経済学を学ぶうえで大事なことは、理論や学説を暗記することではなく、毎日の新聞の経済記事を読んで自分なりに理解し、考え、疑問をもち、解決への手掛りを探ることです。現実に生ずる経済問題に対拠するためには、経済学的な考え方、分析の仕方を身につけることが必要です。経済が身近かで面白くなり、経済への興味が問題意識にまで高められ、経済の動きが読めるようになれが成功です。	
講義概要	経済に興味をもち、経済学アレルギーを起さないために、講義は原論的ではなく物語風に進めます。前半では、現代の代表的な経済学であり、現実の経済の動きに影響力が強いケインズ、ケインジアン、フリードマン、マネタリスト達が経済をどうとらえ、経済政策をどう考えたかを明らかにする中で経済学の理屈や流れを学びます。同時に、彼等が活躍した時代の経済的状況を把握し、経済学と経済の現実を絡めて織り混ぜながら説明します。後半には、わが国ばかりでなく世界的にも重要な今日の経済問題である経済成長と環境、財政赤字、国際通貨体制などをテーマにとりあげ、アメリカを中心として多角的に検討し、21世紀に向かう国際経済のメガトレンドを占ってみたいと思います。	
使用教材	テキスト	・W.カール.ビブン著、斎藤精一郎訳『〔物語・経済学〕誰がケインズを殺したか』日本経済新聞社、1990年、1,500円
	参考文献	・飯田経夫『経済学誕生』筑摩書房、1991年、1,600円 ・伊賀隆・菊本義治・藤原秀夫著『どちらが名医かマネタリストとケインジアン』有斐閣、1983年、1,400円 ・根井雅弘著『現代アメリカ経済学』岩波書店、1992年、2,000円 ・レスター.C.サロー著、佐藤隆三訳『デンジャラス・カレンツ』東洋経済新報社、1983年、1,800円
評価方法	成績評価は、前期のレポートと後期の試験との平均点を基準とし、これに出席状況を加味して決定します。前期レポート、後期試験のいずれか一方を欠いた場合は、単位を授与できません。前期レポートの提出期限は9月末日（教務課）、後期試験は定期試験の時間割で行います。	
受講者に対する要望など	欠席すると、話のつながりが分らなくなりますので、必ず出席して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	この講義の狙い、年間プログラム、受講上の注意、成績の評価方法などについてガイダンスしたあと、日本経済の現状に関するトピックスをとりあげ、イントロダクションとして説明します。
2	第1章　ケインズは古典派を超えたか　1、古典派経済学とは何か、―アダム・スミスの「国富論」見えざる手、古典派、ミクロ経済学、価格メカニズム（市場メカニズム）、
3	価格メカニズムと資源配分、レオン・ワルラスの一般均衡論、―2、貨幣について古典派はどう考えたか、―相対価格と物価、フィッシャーの交換方程式、貨幣数量説、貨幣ベール観、―3、ケインズ対古典派、
4	第2章　ケインズ革命はどう波及したか　1、「一般理論」の米国上陸2、ケインズ的政策の実験と浸透、―ルーズベルト、雇用法、財政のビルトインスタビライザー、―3、円卓の騎士、―新古典派総合、減税案、―
5	4、フィリップス曲線はいかに創られたか、―雇用と物価のトレードオフ関係、―5、円卓の騎士たちの「輝ける一瞬」、―ウォルター・ヘラー、新古典派総合、ケネディ、ファインチューニング、ジョンソン、―
6	第3章　マネタリズムの反革命　1、社会問題としてのインフレーション、―マイルド・インフレ、ハイパー・インフレ、―2、フリードマンとマネタリズム、―シカゴ学派、アメリカのインフレ、マネタリズムの特質、―
7	3、ケインジアン対マネタリスト論争、―貨幣の流通速度、―4、マネタリズムとフィリップ曲線、―自然失業率仮説、スタグフレーション、―5、合理的期待学派の登場、―経済政策無効論、価格・賃金の伸縮性、―
8	6、マネタリズムは今、第4章　マネタリズムは金融政策をどう変えたか　1、銀行とは何か、―銀行の機能、信用創造、―2、FBRの煙幕、―金融政策の手段、フェッド・ウォッチャー、―
9	3、マネタリストの凱旋、―マネーサプライ、ルール方式対裁量方式、―4、ボルカーの政策、5、金利対マネーサプライ、―金利変動リスク、変動金利貸付、ヘッジ、先物市場、金融先物、
10	ヘッジ取引、投機取引、裁定取引、ブラック・マンデー、プログラム売買、金融イノベーション、―6、マネタリズムの失敗か、―貨幣の流通速度の不安定化、金融の自由化、―
11	講義の前半部分、第1章～第4章のまとめをしたあと、前期レポートの課題を発表します。
12	第5章　経済成長のダイナミズム　1、景気循環と経済成長、―景気のサイクル、経済成長、―2、マイクロエレクトロニクス革命の衝撃、―トフラーの「第3の波」、コンピュータの小型化・インテリジェント化、
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ネットワーク化、―3、日本経済の成長、―戦後の日本経済の成長段階、経済成長のメリット、経済成長のコスト、公害・環境破壊、成長と環境、―
2	4、シュムペーターのイノベーション論―資本主義の特質、革新、創造的破壊、―5、経済成長のメカニズム、―資本蓄積、貯蓄率、「倹約のパラドックス」、生産性上昇、―
3	第6章　財政赤字の経済学　1、サプライド・エコノミックスとは何か、―ラッファー曲線、ケインズ対SSE、減税対財政支出、乗数効果、限界税率、累進課税、―
4	2、1981年レーガン税制改革、―カリフォルニアのタックス・レボリューション、タックスフレーション、経済再生計画、―3、レーガノミックスのメカニズム、―SSEとマネタリズム、
5	レーガノミックスの実績、―4、財政赤字のネガティブ効果、―クラウディングアウト効果、名目金利対実質金利、リカードの均衡化定理、財政赤字のネガティブ効果、―
6	第7章　ドル体制は崩壊したのか　1、為替レート、―貿易黒字、対外資産残高、為替レート、―2、すべては金本位制からはじまった、―金本位制メカニズム、
7	金本位制の効果、金本位制の歴史、通貨切下げ、金本位制のゲームのルール、―
8	3、ブレトンウッズ体制とは何か、―ブレトンウッズ協定、ホワイト案対ケインズ案、IMF体制のメカニズム、アジャスタブル・ペッグ、IMF体制の歩み、流動性ジレンマ、国際清算同盟、SDR、―
9	4、金との訣別、―ニクソン・ショック、変動相場制のメカニズム、スミソニアン協定、―5、「双子の赤字」原因と結果、―財政赤字、貿易赤字、対外債務国化、―
10	6、プラザ合意、―購買力評価説、アセット・アプローチ、協調介入、管理フロート制、対外均衡と対内均衡、バブル発生、平成不況、―
11	7、EMSとEC統合、―EMS、ERM、マーストリヒト条約、通貨統合、EC単一市場、EMI、欧州中央銀行、―
12	講義の後半部分、第5章～第7章をまとめ、さらに第1章～第7章全体のまとめとして「誰がケインズを殺したか」について考えてみます。最後に、後期試験に関する注意事項を確認します。
備考	

科目名	経済学	担当者名	益山光央

講義の目標	「近代経済学」の基本理論を学ぶ。	
講義概要	経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期はミクロ経済学、後期はマクロ経済学を講義する。現実の問題は扱わない。	
使用教材	テキスト	教科書 ・中込正樹ほか、『チャートで学ぶ経済学』有斐閣、1990
	参考文献	近代経済学（非マルクス経済学）の文献であれば全て可。
評価方法		
受講者に対する要望など	数学を履修してほしい。まじめに勉強してほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	消費者行動の理論Ⅰ
3	消費者行動の理論Ⅱ
4	消費者行動の理論Ⅲ
5	生産者行動の理論Ⅰ
6	生産者行動の理論Ⅱ
7	生産者行動の理論Ⅲ
8	完全競争市場Ⅰ
9	完全競争市場Ⅱ
10	独占Ⅰ
11	独占Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	国民所得の諸概念
2	消費関数と貯蓄関数
3	所得決定メカニズムⅠ
4	所得決定メカニズムⅡ
5	投資関数
6	利子率の決定（流動性選好説）Ⅰ
7	利子率の決定（流動性選好説）Ⅱ
8	貨幣供給メカニズム
9	IS 曲線と LM 曲線
10	金融政策と財政政策Ⅰ
11	金融政策と財政政策Ⅱ
12	まとめ
備考	

科目名	経済学	担当者名	松本正信

講義の目標		現代経済の実際と理論を知識すること。――経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体からみると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探ってみたいと考える。
講義概要		年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間講義予定に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の１つの集合体と考え、その行動を１つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。
使用教材	テキスト	・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社
	参考文献	・根岸隆他共著『近代経済学―経済分析の基礎理論』（有斐閣大学双書）有斐閣
評価方法		前期・後期の２回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違。自身で自学自習すれば受講時間の５倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。
受講者に対する要望など		静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。

年 間 講 義 予 定

つぎの序・終章を含めた12の章を２～３回の講義で進めて行く積もりである。

○ 序章（プロローグ）

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、さらびに経済使想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペータ、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり）、現代の経済思想。

○ 第Ⅰ部　ミクロ経済学（価格分析）

1　需要の理論

（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。

１章の最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

2　生産の理論

（狙いは「供要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。

3　市場；マーケット（交換の理論）

市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケォノ・メカニズム）の果たす役割、とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price)、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）

4　競争の問題

競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と、独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5　市場の限界と失敗・欠落

市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争。品質競争。アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意見するもの、一般通路で通行料ぢ徴収するか税では賄うかどちらが効意的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

○ 第Ⅱ部　マクロ経済学（所得分析）

6　国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効用；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利子率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得所得水準の変動、乗数過程、節倹のパラドックス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論。国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7　貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利子率いわゆる市場利子率

8　中央銀行の機能と役割：金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9　政府の経済的役割：財政政策

政府の経済訳役割すなわち経済政策には大きくいって２つ；その１つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう１つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割をの狭義の財政政策（フィスカル・ポリシイ）として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も１つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真パラドックスなる由縁である。

分析：政府財制支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラッファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線

10　財政・金融政策とヒックス＝ハンセン　総合（IS-LM 曲線）

ポリシー・ミックスについて、国民生産物資市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

○ 終　章（エピローグ）―結びにかえて―

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	経済学	担当者名	山越　徳

講義の目標		経済学を初めて学ぶ人にとって、経済や経済学を身近に感じ、理解が進められ、2年次以降さらに深く入っていくための基礎づくりを目指す。経済学とはどの様な学問であり、どの様な考え方、捉え方をするのかを、それぞれの対象や分野の経済理論を扱いながら用語や概念とともに理解していく。そしてそれらの理論が現実の経済とどの様に結びついているか、どこまで説明しているのかを考察し、それにより日本経済の大きさや構造、その動向への理解を高め、その問題や課題に関して、ともに考えていく。
講義概要		経済理論はどの様な考え方に基づき、どの様な内容を持つものなのかについて、考察し理解を進めていくとともに、それが現実の経済状況とどの様に結びついているか、どこまで説明しているのかを、理論モデル、統計データ、およびそれらを用いての実証分析結果を関連させながら、見ていくことにする。
使用教材	テキスト	・西川俊作著『経済学（第3版）』東洋経済新報社
	参考文献	・L.C.サロー、J.K.ガルブレイス、R.L.ハイルブローナー著、中村達也訳『現代経済学（上・下）』TBSブリタニカ ・篠原三代平著『日本経済講義』東洋経済新報社 　データで語る経済のダイナミックス この他の参考書および各項目に関する参考書は講義の中で紹介する。
評価方法		現実の経済の諸問題、規模、構造、動向あるいは経済理論、それらを結びつけた実証分析等にどの程度理解が深まり、考察できるようになったかを、レポートおよび試験答案などを通して評価する。
受講者に対する要望など		現実の経済やその動きに常に関心を持って、上記テキストや参考書以外にも、広く、種々の文献を読んでいくことが望ましい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学とは 社会科学としての経済学、経済学の考え方、経済合理性、前提、対象、範囲、ミクロとマクロ、経済主体、経験法則、経験科学、理論と実態、理論と実証、経済学の流れ
2	
3	市場、需給均衡、価格決定 需要と供給、競争、自由放任、神の見えざる手、均衡、短期と長期、物価
4	
5	消費者均衡、需要理論、消費理論 需要曲線、効用理論、限界概念、無差別曲線、経済要素、弾力性、価格と所得、財と費目、家計予算分析、市場分析、０次同次性、時系列とクロスセクション、回帰分析、重回帰、マルチィコ、指数と集計、指標、消費仮説
6	
7	
8	国民所得、日本経済の規模と変動 国民経済勘定体系、新SNA、ストックとフロー、GNP、三面等価の原則、国民所得の決定、乗数理論、有効需要の原理、消費性向、貯蓄と投資 政府と財政、貿易、産業連関論
9	
10	
11	日本経済の成長 産業の活動、産業構造、成長の要因、産業の相互依存関係、経済成長理論、国際化と依存関係
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	供給者均衡：生産理論 供給曲線、固定コスト、可変コスト、コスト曲線 利潤極大、限界生産力命題、生産水準の決定 企業と事業所
2	
3	生産関数、技術変化 生産要素、資本と労働、原材料とエネルギー、要素間代替、分配、生産性、規模の経済、１次同次性、中立的技術変化、労働集約、資本集約、体化した技術
4	
5	
6	
7	労働市場 労働市場理論、賃金理論、完全雇用、失業、労働供給と労働需要、日本の労働市場、就業構造、人口構造、基幹労働力と縁辺労働力、産業と職業、年齢と性別、学歴、地域、大企業と中小企業、終身雇用と年功制、定年制、雇用調整
8	
9	
10	一般均衡モデル 一般均衡と部分均衡、一般均衡図式 マクロ計量モデル、経済予測、シミュレーション
11	
12	経済分析と経済政策 理論、実態、政策との結びつき
備考	

科目名	経済学	担当者名	山本 美樹子

講義の目標		有名な経済学者であるロビンソンは「経済学は人間の行動の学問である」といっている。が、日常の経済行動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論とはそのような法則について扱っている分野だと考えればわかりやすいだろう。本講義では経済学部の学生として、最低限知って欲しい経済理論の基礎を講義する。これらは3、4年次、各自が財政論であるとか金融論その他の専攻に進む上で土台となるものであるので、各自真剣に取り組んで欲しい。
講義概要		経済理論は大きくミクロ経済理論、マクロ経済理論にわけられる。 ミクロ経済理論：個々の消費者や会社の意志決定まで遡って、それぞれの行動を分析する。 ミクロ経済理論の背後には、「限られた資源の効率的分配による各人の経済的厚生の最大化」という経済学の究極的目標がある。 マクロ経済理論：経済全体、とくに国レベルを、一つの巨大な単位として考え、その単位の中の各集計量（消費、投資、etc）の間の関係について扱う。 前期はマクロ経済理論、後期はミクロ経済理論を講義する予定である
使用教材	テキスト	平成6年度は入門経済学（伊藤元重著、日本評論社刊） 平成7年度は現在検討中
	参考文献	・中谷　巌　『入門マクロ経済学』　日本評論社 ・伊藤　元重　『入門ミクロ経済学』　日本評論社 ・福岡　正夫　『ゼミナール経済学入門』　日本経済新聞社 ・松下他　『チャートで学ぶ経済学』　有斐閣 ・福岡他　『経済原論』　世界書院 ・幸村千佳良　『経済学事始』　多賀出版
評価方法		前期、後期の期末試験 毎回とる出席（前、後期あわせて5回以上休んだ場合は単位は出さない。）
受講者に対する要望など		1年間でミクロ経済学、マクロ経済学両者を駆け足で講義するので、1回でも休むと授業がわからなくなる。必修の授業であるのでできる限り休まず出席して欲しい。

年 間 講 義 予 定

第一部　はじめに
第１章　経済学とはなにか　（第１週）
　１、経済学を学ぶ目的
　２、経済学と経済理論　　(1)　経済理論とはなにか
　　(2)　経済理論が他の分野の理論とのちがい
　　(3)　経済学の分類
第２章　経済体制　（第２週）
　　１、混合資本主義体制の性格
　　２、社会主義体制の性格
第二部　マクロ経済の基礎理論
第３章　マクロ経済学の課題
　　１、マクロ経済学で取り扱うこと
（３、４週）　　２、ストックとフロー
第４章　国民所得とそろに関連する集計量　（５、６週）
　　１、国民総生産、国民純生産、国民所得
　　２、三面面等価の原則
　　３、国民所得集計上の留意点
第５章　有効需要の理論　（７、８週）
　　１、消費関　　２、投資関数
　　３、簡単な国民所得決定の理論
　　４、海外部門を含めた場合
　　５、政府支出を増加させた場合
　　６、の輸入が増大した場合
第６章　貨幣の需要と貨幣の供給　（９、10週）
　　１、貨幣とはなにか　２、貨幣の需要
　　３、貨幣の供給　４、信用常数
第７章　IS-LM 分析　（11、12週）
　　１、IS 曲線　２、LM 曲線
　　３、IS-LM の同時均衡が意味すること
　　４、財政政策の効果
　　金融政策の効果
第８章　ミクロ経済学（理論）の課題　（１週）
第９章　消費者行動の理論・・（２、３、４週）
　　１、効用、限界効用、限界効用逓減の法則
　　２、無差別曲線
　　３、限界代替率、限界代替率逓減の法則
　　４、予算制約と消費者の効用極大化行動
　　５、財の分類　(1)正常財、劣等財、ギッフェン財
　　(2)代替財と補完財
　　６、エンゲル曲線（所得消費曲線）と価格消費曲線
　　７、需要曲線、消費者余剰
第10章　生産者行動の理論・・（５、６週）
　　１、等量曲線と限界代替率
　　２、生産者の利潤極大化行動
　　３、生産可能性曲線と限界変形率
　　４、費用関数、５、供給関数
第11章　市場価格の決定　（７、８週）
　　１、市場価格の決定―均衡価格の決定
　　２、価格調整　(1)ワルラス的調整
　　(2)マーシャル的調整
　　(3)蜘蛛の巣的調整
第12章　独占、寡占、独占的競争　（９、10週）
　　１、完全独占　２、差別独占
　　３、独占的競争　４、寡占と複占
　　５、独占の弊害点
第13章　資源配分の効率性と市場の失敗　（11週）
　　１、米価問題と間接税
　　２、市場の失敗(1)外部経済のケース
　　(2)収穫逓減産業のケース
　　(3)公共財のケース
第14章　まとめ　（12週）

科目名	経済学	担当者名	米山昌幸

講義の目標		経済学は、経済社会のメカニズムを分析的手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指している実践的な学問である。 この講義では、経済学の理論的フレームワークの修得を通して、現実の経済学的問題に実態的・理論的にアプローチするための基礎（分析道具）を得ることが目標である。すなわち、経済理論によって現実の経済問題をどのように分析できるかを明らかにし、現実の経済問題を自分で考える方法を身に付ける。
講義概要		経済学は、分析対象の経済変数を決定し、経済変数間の相互依存関係を明らかにする学問である。前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする＜ミクロ経済学＞を講義する。ここでは、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。 後期は、ＧＮＰ、物価水準、失業率などの経済全体を捉えるマクロ変数の相互関係を明らかにする＜マクロ経済学＞について講義する。ここでは、財市場・貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにする。また、マクロ経済政策の効果の分析も行う。
使用教材	テキスト	未定。
	参考文献	・福岡正夫『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社、1986年。 ・伊藤元重『入門①経済学』日本評論社、1988年。 ・奥野正寛『ミクロ経済学入門（第２版）』日経文庫、1990年。 ・西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1986年。 ・伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社、1992年。 ・中谷　巌『入門マクロ経済学（第３版）』日本評論社、1993年. ・浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学』新世社（新経済学ライブラリー３）、1993年. ・広松毅・Ｒ．ドーンブッシュ・Ｓ．フィッシャー『マクロ経済学（第４版）（上）／（下）』マグロウヒル、1989年. なお、授業中に参考文献一覧を配布する。
評価方法		学生諸君が自分自身の理解度を確認するとともに、日常的な学習姿勢を習慣付けるため、レポートおよび小テストをできるだけ多く行う。成績評価は、前期・後期の定期試験に、レポートおよび小テストの得点を加味して行う。
受講者に対する要望など		経済学は皆さんがこれから進んでいく専門分野の基礎となるので、講義を聞いただけでわかったつもりにならず、十分に納得するまで自分で勉強して下さい。

年 間 講 義 予 定

【前期】

第１週；イントロダクション
経済学とは？、経済理論・モデル分析の必要性、ミクロ経済学とマクロ経済学、講義の範囲、学習の仕方、テキスト・参考文献の紹介、履修の仕方など

第２～12週；＜ミクロ経済学＞
１．家計の行動と需要曲線
効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、限界代替率逓減の法則、最適消費計画（予算制約と効用最大化）、価格の変化と需要の変化、需要曲線の導出、代替効果と所得効果、市場需要曲線と消費者余剰、価格弾力性、所得弾力性、与件の変化と需要曲線のシフト
２．企業の行動と供給曲線
利潤とは？、生産関数（技術の制約）と利潤最大化、限界生産性逓減の法則、短期費用曲線、（短期）限界費用と平均費用、利潤最大化と（短期）個別供給曲線、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と市場供給曲線のシフト
単位等量曲線、等量曲線の基本的性質、限界代替率逓減の法則、生産技術の選択（等費用曲線と費用最小化）、長期費用曲線、長期平均費用と長期限界費用、個別企業の生産規模に関する収穫逓増・不変・逓減、長期個別供給曲線
３．長期市場均衡
産業の長期均衡、参入と退出、経済的利潤と会計的利潤、長期市場供給曲線、産業の規模と個別費用曲線のシフト、費用一定産業、費用逓増産業、費用逓減産業、外部経済と不経済
４．完全競争市場と効率性―部分均衡分析―
完全競争市場とは？、市場の部分均衡、市場メカニズム、均衡の存在と安定性、生産者余剰と消費者余剰、経済厚生、与件の変化と市場均衡、市場の失敗（不完全競争、外部効果、公共財）、分配と公正
５．完全競争市場と効率性――般均衡分析―
部分均衡と一般均衡、ボックス・ダイヤグラム分析、交換とパレート効率性、厚生経済学の基本命題、生産とパレート効率性、生産要素の契約曲線（効率軌跡）
一般的な生産フロンティアの導出、消費と生産の一般均衡

【後期】

第１週；前期試験の解説

第２～12週；＜マクロ経済学＞
１．ＧＮＰと物価指数
ＧＮＰ（国民総生産）とは？、三面等価の原則、貯蓄と投資の恒等関数、ＩＳバランスと財政収支・経常収支、物価とインフレーション、パーシェ指数とラスパイレス指数
２．国民所得決定の理論
需給不一致とその調整、消費関数と貯蓄関数、45°線分析による所得決定、乗数理論、均衡予算乗数の定理、所得決定理論への限定事項、投資の限界効率表
３．貨幣需要・マネーサプライ・利子率
貨幣市場と資産市場、貨幣の機能、貨幣に対する需要（取引需要と資産需要）、債券価格と利子率、貨幣の定義、マネーサプライ、利子率の決定、素朴な貨幣数量説
４．総需要の均衡
ＩＳ曲線の導出（財市場における均衡国民所得と利子率）、ＬＭ曲線の導出（貨幣市場における均衡国民所得と利子率）、財市場と貨幣市場の同時均衡、不均衡からの調整過程、総需要（ＡＤ）曲線の導出（均衡国民所得と物価水準）
５．ＩＳ＝ＬＭ分析―マクロ経済政策の効果―
財政政策・金融政策とは？、財政政策の効果、金融政策の効果、マクロ経済政策の有効性
６．総供給の均衡
労働需要、労働供給、労働市場における均衡、総供給（ＡＳ）曲線の導出（均衡国民所得と物価水準）、期待と総供給、短期総供給曲線と長期総供給曲線
７．総需要と総供給
短期均衡と長期均衡、古典派とケインジアン、均衡国民所得・物価水準・雇用量・利子率の同時決定、マクロ経済政策の効果

科目名	経済学	担当者名	安藤　登

講義の目標		いろいろのメディアを通じて時々刻々、内外経済のトピックが報道され、議論されている。しかも、円レート、株価のほか、石油、金融など国際商品価格や利子率も、定時のニュースとして茶の間に届けられている。経済の動きは、政治や社会の物質的基礎を形成し、その活動は不断に続いており、われわれの生活に大きく影響している。 「経済学入門」にあたる本講義では、経済現象の観察と情報収集に努めるとともに、分析と理解のために先人たちの理論を学ぶことから始める。究極的には各人の経済理解力と分析力を養うことを目標とする。
講義概要		経済および経済問題の基礎に横たわる「稀少性」の概念から始める。時代背景と経済学・経済体制・政策の必要性と政策目標、さらに市場経済と需要・供給の法則を学ぶことにする。 つぎに国民経済全体、すなわちマクロの経済については、相対的に多くの時間を割り当てて、GDPを中心とする国民所得勘定と国民経済計算の概要、つまり、国民経済を種々の角度から把握する枠組に関する知識も身につけてもらう。そして経済活動水準の決定や財政金融政策について論ずる。石油危機を境として経済の成長や各種の動向が大きく変ってきた状況と経済学の基本的考え方の変化、論争についても講義するつもりである。
使用教材	テキスト	幸村千佳良『経済学事始』第3版　多賀出版
	参考文献	必要に応じて板書する。
評価方法		前・後期の定試による成績ならびに学習態度（出欠席を含む）によって評価する。
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	経済と経済学の課題―レファレンスを兼ねて
2	生産可能性曲線
3	需要の法則
4	同上
5	供給の法則
6	市場機構
7	国民経済計算
8	同上
9	消費関数
10	国民所得決定理論
11	同上
12	財政々策と乗数
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	金融政策
2	同上
3	景気循環
4	投資理論
5	景気安定化政策
6	ケインジアン対マネタリスト論争
7	総供給曲線と総需要曲線
8	同上
9	バブルとその崩壊
10	同上
11	国際貿易
12	国際通貨体制
備考	

科目名	経済学	担当者名	岡田　博

講義の目標		経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。
講義概要		経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。
使用教材	テキスト	未定、最初の講義のときに指示する。
	参考文献	川口他：『経済学入門』有斐閣、他。
評価方法		学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。
受講者に対する要望など		授業に欠席しないこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
5	混合資本主義体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
7	国民所得の概念：GNP, NNP 等々、わが国の国民所得
8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション
10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再分配と財政政策、経済安定と財政政策
5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
6	消費者の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
12	おわりに
備考	

科目名	政治学	担当者名	柴田 平三郎

講義の目標		現代の政治は国の内側においても外側においても複雑をきわめている。簡単に理解しうるなどと夢々思わないほうがよいと思う。マックス・ウエバーは政治を理解するには年をとらねばならないと言ったが、けだし至言である。この政治学入門は、文字通り政治を学ぶ入口の役目が課されていると思うが、その政治は結局人間によって営まれているので、政治と人間のかかわり合いの姿を注目していくことに力点が置かれると思っている。
講義概要		単なる時事問題の解説とか制度の仕組みの解説とかではなく、政治の原理を学ぶ場所にしたいと考えている。
使用教材	テキスト	この原稿を書いている時点では未定。
	参考文献	政治学の基礎文献は無数にある。講義のなかでできるだけ多く紹介するつもりである。この講義が終ったあとにおいてもじっくり読み続けてほしいと思っている。
評価方法		前期・後期の2回のテキストを基本に評価を決定する。その間、レポートを課す場合もありうる。
受講者に対する要望など		言わずもがなのことであるが、学びたい意欲のある者だけが講義への真の参加者である。そのことをよく弁まえてほしい。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	〔以下は、あくまでも当初の予定である。型通りに進まない可能性のあることを断っておく。〕 政治学入門を始めるにあたって。
2	政治とは何か。政治の定義の多様性。その語源的意味と歴史的変容。
3	政治の構造的理解——力・倫理・技——について論じる。
4	同つづき。
5	政治と人間のかかわり合いについて論じる。
6	同つづき。
7	政治学の学問的性格——哲学と科学。
8	同つづき。
9	政治を動かすもの——力と思想の二契機。
10	(1)力〔権力〕の理解。
11	同つづき。
12	前期のまとめ。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	(2)〔思想〕の理解。
2	同つづき。
3	近代国家とは何か——歴史・思想・制度。
4	同つづき。
5	近代を動かした三つの政治的イデオロギー——保守主義・自由主義・社会主義。
6	同つづき。
7	同つづき。
8	民主主義とは何か——歴史・思想・制度。
9	同つづき。
10	現代日本の政治。
11	同つづき。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	政治学	担当者名	志摩園子

講義の目標		現代政治を理解する上で必要と思われる政治学の一般的知識を身につけることを目指す。
講義概要		政治学の近年の発展はめざましく、それが包括する範囲が拡大していく一方で、それぞれの専門化が著しい。他方、人々の政治への無関心の声が聞かれる。政治学の基本的概念、理論等を説明していくとともに、実際の政治も考察の対象とする。
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	必要に応じて、紹介する。
評価方法		前期・後期にレポートをそれぞれ課す。
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	政治学をはじめるにあたって
2	政治と統治
3	権力と権威
4	国家と政府
5	国家と政府
6	国家と政府
7	国家観
8	国家観
9	政治参加
10	政治参加
11	政治体制
12	政治体制
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	自由主義
2	自由主義
3	社会主義
4	社会主義
5	帝国主義・ナショナリズム
6	民主主義
7	民主主義
8	政治制度
9	政治制度
10	政治機構
11	政治機構
12	余備
備考	

科目名	政治学	担当者名	星野昭吉

講義の目標	今日、われわれは、その日常生活が政治によって大きく左右される「政治化の時代」に生存している。巨大で、複雑で、流動的で、不透明な政治の世界の全体像を再構成して、政治とは何か、われわれにとって政治の意義とは何か、政治はどのようにわれわれの日常生活に入り込を、影響を及ぼしているのか、どのような政治問題が存在しているのか、その問題を解決するのにわれわれはどう対応すべきか、などを解明したい。また、そのため必要な政治学の理論や基本的概念を検討し、政治に対すむ見方、考え方、政治のあり方を模索する。	
講義概要	政治の実像を統治・権力と参加・運動という二本の軸の弁証法的展開運動として捉え、その中でわれわれの日常生活・社会とのかかわりを見ていく。そのために、政治概念の歴史性を検討し、その上で、政治と統合、政治権力概念の本質・意味・構造・手段・変動を究明し、国家の存在とその意義、政治指導のあり方を問う。また、政治を動かしていく体制や政治の仕組みを解明し、政治がどのように具体的に変動していくのか、政治が政党、利益集団、大衆、世論によってどのように形成・展開されていくのかの政治過程の分析を通して、大衆が政治にどのように参加し、かかわりをもっているかを考察する。最後に、日本の政治文化を問いながら、現代日本の政治の実態と問題点を把握し、その対応を考える。	
使用教材	テキスト	特に使用しない。
	参考文献	講義開始後に参考文献リストを配布する。
評価方法	前期にはレポートを提出してもらい、後期にはテストを受けてもらい、総合して評価する。	
受講者に対する要望など	テキストを使用しないので、必ずノートを作ってほしい。	

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	現代政治の本質と問題、政治学の課題。
2	政治と人間。
3	政治概念と思想の歴史性―1：近代。
4	政治概念と思想の歴史性―2：現代。
5	政治と統合。
6	政治権力概念―1：権力の本質とその意味。
7	政治権力概念―2：権力の二重構造。
8	政治権力概念―3：権力の手段。
9	政治権力概念―4：権力の変動。
10	政治と国家。
11	政治と社会。
12	政治指導とエリート論。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	政治体制―1：民主主義。
2	政治体制―2：社会主義。
3	政治と大衆参加。
4	政治制度―1：議会主義。
5	政治制度―2：官僚制。
6	政治変動。
7	政治過程―1：政党と選挙。
8	政治過程―2：利益集団。
9	政治過程―3：大衆と世論。
10	国内政治と国際政治の連動性。
11	日本の政治文化。
12	現代日本の政治の現状と課題。
備考	

科目名	法学	担当者名	平井一雄 森　勇

講義の目標		法学部の学生として、専門科目の勉強をするに際して必要な基礎的知識を修得させること。専任教員が、かなり多くの法分野について、それらがどのようなものであるのかの概説を行うので、コースの選択あるいは専門ゼミの選択にも役立ちうるであろうこと。
講義概要		詳しくはレジュメ集を見られたい。法令の常識、判例の常識、文献検索法などに立ち入ることは、従来の「法学」の講義では不充分ではなかったかと思われ、これらの点も特色といってよいであろう。
使用教材	テキスト	各授業内容の概要を示したレジュメ集を配布する。
	参考文献	各教員ごとに、指示がある。
評価方法		年二回の学期末定試による。担当教員が各自出題し、そのなかから選択し解答させる。採点は出題者が行う。
受講者に対する要望など		独立した内容の講義が続くので、欠席すると全体像が把握し難くなる。止むを得ない事情の他は欠席しないこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	学部長挨拶　開講にあたって
2	法令の常識
3	判例の常識
4	判例の常識
5	民法の世界①
6	民法の世界②
7	労働法の世界①
8	労働法の世界②
9	文献検索法
10	商法の世界①
11	商法の世界②
12	基礎法の世界
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	知的所有権法の世界
2	民事手続法の世界
3	国際法の世界
4	国際法の世界
5	行政法の世界
6	行政法の世界
7	刑法の世界　犯罪と刑事裁判
8	刑事手続法の世界
9	憲法の世界
10	憲法の世界
11	法哲学の世界
12	
備考	

科目名	法学	担当者名	内藤光博

講義の目標		法律を専門としない学生が、基本的人権の保障を中核とする「日本国憲法」の価値原理と、それを確保するための国家の統括原理（三権分立）について一応の概観を得ることができるよう、身近な政治・社会問題を素材にして、具体的でコンパクトな説明を提供すること。 とくに、基本的人権の考え方を、その歴史的意義と今日的な重要性の双面より検討することにより、自分のものとして深く理解していただけるような講義内容としたい。
講義概要		憲法は、われわれの生活を規定している様々な法（法律）の頂点に立ち、国家と社会のあるべき姿を方向づけている基本法です。それは「個人の尊厳」を中核的な価値におく基本的人権の保障と、それを確保するための国家の仕組み（権力の分立）を規定した「人権宣言」にほかなりません。 この講義では、法律を専門としない学生の皆さんが、こうした基本的人権の保障を中核とする「日本国憲法」の価値原理と制度についての概観を得ることができるよう、現在わが国で議論されている身近な政治・社会問題を素材として、コンパクトな説明を提供したいと思います。 本年度予定している講義の内容は、(1)総論：日本国憲法の構造、(2)国民主権と選挙、(3)憲法の平和思想、(4)女性の人権、(5)外国人の人権、(6)教育の自由と国家の役割、(7)情報化社会と人権、(8)環境破壊と人権、(9)生命と人権、(10)裁判と人権、です。
使用教材	テキスト	教科書は使用しません。講義の際に詳細なレジュメを配布します。ただし、六法を購入し、授業の際には必ず携帯して下さい。
	参考文献	講義の際に適宜紹介します。またレジュメの末尾に参考文献を挙げます。
評価方法		定期試験（1996年1月実施）の結果により行います。試験は、年間を通して行われた講義内容につき、論述式で行います。
受講者に対する要望など		毎回講義に出席することを強く要望します。 授業中の飲食、私語は厳禁とします。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	第1回目の授業では、1年間の講義ガイダンスとして、講義内容の説明と、基本文献の紹介を行う。
2	第2回目の授業では、本講座が法学部以外の学生を対象としていることを考慮し、六法書の読み方や法体系の仕組みなどについての初歩的な説明を行う。
3	第3回目の授業では、(1)総論：その1というテーマで、日本国憲法の全体的な構造と特質について説明を行う。
4	第4回目の授業では、(1)総論：その2として、近代憲法の歴史を概観したのち、日本国憲法の歴史的意義について説明を行う。
5	第5回目の授業では、(2)国民主権と選挙というテーマで、国民主権の原理と選挙制度の問題点について説明を行う。
6	第6回目の授業では、(3)憲法の平和思想というテーマで、憲法第9条の非戦・非武装の思想と、平和的生存権について説明する。
7	第7回目の授業では、前回に引き続き、平和主義とのかかわりで問題となっているPKOおよびわが国の「国際貢献」の問題について考えてみたい。
8	第8回目の授業では、(4)女性の人権というテーマで、男女平等の原理について総論的な説明を行う。
9	第9回目の授業では、前回に引き続き、女性の人権とのかかわりで、女性の労働環境にかかわる問題（例えば、女性の雇用やセクシャルハラスメントなど）を考える
10	第10回目の授業では、(5)外国人の人権というテーマで、近年急増した外国人労働者が日本国憲法の下でいかなる人権を有するか、という問題を考える。
11	第11回目の授業では、前回に引き続き、とくに在日韓国朝鮮人などの「定住外国人」の人権について考えてみたい。
12	第12回目の授業では、前期の講義のまとめを行なう。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	第1回目の授業では、(6)教育の自由と国家の役割というテーマで、わが国における学校教育をめぐる問題（校則、体罰など）を考えてみたい。
2	第2回目の授業では、前回の教育と国家とのかかわりで、教科書検定問題について考える。
3	第3回目の授業では、(7)情報化社会と人権のテーマで、表現の自由の意義と情報化社会の進展にともなう諸問題について考えてみたい。
4	第4回目の授業では、前回に引き続き、マス・コミによる人権侵害問題（プライバシーの侵害など）の問題を考えてみる。
5	第5回目の授業では、前回、前々回に引き続き、コンピュータ社会の到来にともなう個人情報の保護の問題をプライバシーの権利の視点から考察する。
6	第6回目の授業では、(8)環境破壊と人権のテーマのもと、現在世界的規模ですすんでいる環境破壊の問題について、憲法的にどのように考えるべきかについて説明する。
7	第7回目の授業では、(9)生命と人権のテーマのもとで、死刑制度の合憲性について考えてみたい。
8	第8回目の授業では、前回に引き続いて、脳死および臓器移植の問題について考えてみたい。
9	第9回目の授業では、前回、前々回に引き続いて、安楽死・尊厳死の問題について考えてみたい。
10	第10回目の授業では、(10)裁判と人権のテーマで、人権保障の機関としての裁判所の機能と役割について説明する。
11	第11回目の授業では、前回に引き続き「憲法の番人」としての裁判所が有する違憲立法審査権について考えてみる。
12	第12回目の授業では、年間の講義のまとめとして、「憲法の目的とは何か」について考えてみる。
備考	

科目名	社会学	担当者名	有吉広介

講義の目標	現代社会の諸問題は、近代に起こり、現在も進行している産業化、これに引き続いて起こりつゝある脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。	
講義概要	豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、それらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで社会問題をどのように生みだしているのかを講義の論旨にして、前記の諸現象の源をも説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	随時紹介。
評価方法	評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。	
受講者に対する要望など	講義に出席し、そこで要点を把握すること	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
6	社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方
7	現代の職業構造の分析
8	雇用社会と職業的キャリア
9	産業社会における知識の性格と教育
10	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11	社会的不平等の諸次元
12	不平等の構造化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会移動の現実
2	日本の階層社会と社会移動
3	管理社会の中核としての近代官僚制
4	近代的経営の社会構造
5	日本的組織構造
6	都市化と地域社会
7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
8	家族のライフサイクルの変化
9	高齢化社会の人口学的および社会学的分析
10	高齢化社会における社会問題
11	生活の質を考える。
12	まとめ
備考	

科目名	社会思想史	担当者名	市川達人

講義の目標		私たちの政治や経済に対する見方・考え方を支配している近代的社会観の生成を、その誕生の地にまでさかのぼって理解することを目的とする。
講義概要		ルネッサンスを起点として19Cあたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代と社会を代表する人物の思想を振り下げての講義となる。現在、リベラリズムが一つのスポットをあびているが、それの形成と限界というのが隠れたテーマとなる。
使用教材	テキスト	渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版社
	参考文献	講義で適宜指示
評価方法		後期の一括試験で評価を与える。場合によっては前期末にレポートの提出を要求する。
受講者に対する要望など		私語厳禁

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定。講義の目的と課題、講師の問題意識。
2	思想史の方法。社会とは？社会思想の諸類型。
3	近代市民社会について（西欧的社会観の原型と展開）
4	ルネッサンスと都市。
5	マキャヴェリズムとマキャヴェリ評価の歴史。
6	マキャヴェリと『君主論』。
7	ユートピア思想とは？
8	トマス・モアの『ユートピア』。
9	中世の教会改革運動。千年王国説。後期スコラ学派。
10	ルターの改革運動。神学と政治思想。
11	ルターの職業倫理。カルヴィニズムの二重予定説。
12	カルヴィニズムと近代合理主義。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヨーロッパにおける自然思想の歴史（古代ギリシャから中世、そして近代へ）
2	ホッブズの人間観と自然権思想。
3	ホッブズの国家論。
4	ロックの市民政府論。
5	ロックの所有権理論とリベラリズムへの道。
6	フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7	ルソーの啓蒙批判と社会批判(1)
8	ルソーの啓蒙批判と社会批判(2)
9	マダム・スミスと経済的自由主義、市民社会の交通理論。
10	社会主義思想の諸朝流。
11	マルクスの社会主義と現代への影響。
12	まとめ。
備考	

科目名	社会思想史	担当者名	谷口郁夫

講義の目標		論争的な取り上げ方を試みる。すなわち、単に歴史をなぞるのではなく、今日的な問題として取り上げることを通じて、歴史観の構築を目指す。
講義概要		前後期でそれぞれ異なったテーマを取り上げる。前期は西欧における宗教寛容の歴史を、ルネッサンス・宗教改革以後のイギリス、フランス、ドイツを中心に考察することを通じて、人間の自由について考える。後期は日本における西洋近代思想の受容の過程を取り上げる。急速な近代化政策のもとで、近代科学のみならず、西欧の近代思想も性急に明治の知識階級の人々は取り込もうとして来た。それが行われてきた過程、弊害を見ることを通じて、日本人としての自己同一性の問題をも考える。
使用教材	テキスト	特に用いない
	参考文献	講義の中で指示する
評価方法		前後期にそれぞれ試験を行う。試験内容については、講義の中で指示する。
受講者に対する要望など		批判的な態度で臨むこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	中世カトリック教会と民衆の生活
2	ルネッサンス
3	ドイツにおける宗教改革とその歴史的背景
4	イギリスにおける宗教改革とその歴史的背景
5	トマス・モアとエラスムス
6	名誉革命とジョン・ロックの宗教寛容論
7	モーテーニュとパスカル
8	ピエール・ベールとルソー
9	レッシングとカント
10	ダーウィンとニーチェ
11	マルクス主義
12	宗教と民族闘争（パレスティナ、旧ユーゴ、トルコなどの状況）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	明治維新以前における日本と西洋とのかかわり
2	六合雑誌
3	近代科学の受容　特に、東洋学芸雑誌について
4	加藤弘之の人為淘汰論をめぐって　キリスト教と国体論との関係について
5	キリスト教と進化論論争（1）
6	キリスト教と進化論論争（2）
7	ニーチェとトルストイ
8	イプセンと女性の権利
9	ベルグソン・コント・ジェイムズ
10	マルクス主義
11	予備
12	予備
備考	

科目名	人文地理学（熱帯雨林の生態と開発問題）	担当者名	犬井　正

講義の目標		熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならい。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。
講義概要		熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか、なにが適切な解決策かなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、ＶＴＲ、スライドなども援用しながら講義をすすめる。
使用教材	テキスト	クリス・Ｃ・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』（1994、農林統計協会）
	参考文献	・Ｔ・Ｃ・ホイットモア著『熱帯雨林総論』（1993、築地書館） ・ジョン・Ｃ・クリッチャー著：『熱帯雨林の生態学』（1992、どうぶつ社） ・四手井網英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』（1992、人文書院） ・環境庁「熱帯雨林保護検討会」編『熱帯雨林をまもる』（1992、NHK ブックス）
評価方法		前期、後期１回ずつの定期試験による。
受講者に対する要望など		特になし

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の１年間の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションをおこなう。
2	１次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕―伝統的焼畑農耕は破壊的か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	熱帯雨林破壊による生物学的多様性の損失。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境―アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策？
12	まとめ―再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科目名	心理学	担当者名	杉山憲司

講義の目標	この授業では、なるべく広範囲にテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常的問題との関連について講義する。心理学から見た科学的人間観の理解が、この講義の最終的な目標である。	
講義概要	心理学の研究対象は日常的な現象が多く、学生は既に、一定の意見を持っていることが多い。しかし、人間はいつ動機づけられ、無力感に陥るのか。性格はどのように形成されるのかなど、案外解っていないことが多い。また、心理学は自分自身を研究対象にするという特徴がある。心理学は人間に共通する一般的特性と、一人一人の個性・個人差とを研究対象にしている。 この授業では、なるべく広範囲に渡って様々なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常生活がどのように関係するかについて講述する。	
使用教材	テキスト	青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編者） 『こころのサイエンス』 『トピックスこころのサイエンス』福村出版（各¥1,900）
	参考文献	教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。
評価方法	前後期2回の試験とリーディングレポートで評価する。 追試は教務課を通すこと。	
受講者に対する要望など	自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用すること。 授業を聞く際、専攻や、将来の職業との関連を絶えず考えること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理学への導入：学習目標、前期・後期目標　心理学の全体的体系について：心理学の研究対象と研究方法の特徴　他の学問との比較、前期目標としての人間に共通な一般法則を学習する意味
2	Ⅰ．行動の視点からの人間研究（４章）：　1)行動の種類と発達・進化　2)学習の基本型、しつけ、情緒の統制や言語獲得の仕組みなど
3	行動の視点からの人間研究（その２）：　1)模倣の理論、役割、影響力のあるモデルの特性　2)　行動の自己制御
4	重要な学習・行動の種類と内容：1)スポーツと健康の自己管理、　2)技能学習の特徴、自動車運転の要因モデル
5	重要な学習・行動の種類と内容（その２社会的行動）：1)リーダーシップ　2)同調と服従
6	社会的行動（その２）：　3)攻撃行動、愛他行動　4)課題達成と愛他行動のバランスと育成
7	Ⅱ．感覚受容器、知覚や認知の視点から（５章）：2)知覚（恒常性や錯視などの特徴）
8	3)認知のプロセス　4)人間の情報処理モデル　5)社会的認知
9	記憶の構造や特徴　1)短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など　2)記憶の情報処理モデル
10	Ⅲ．動機づけと情緒の視点から（６章）：1)生理的動機、ホメオステーシス　2)情緒
11	内発的動機　1)知的好奇心、自己原因性、有能感、　2)内発的動機づけの活性化、最適不適合とズレ理論
12	対人社会動機　1)愛着、共感性と愛他動機　2)動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期目標：人間の個性理解　Ⅰ．パーソナリティ（性格）（１章）：　1)気質類型論とクレペリン検査、DSM―Ⅲ―R
2	2)パーソナリティの特性論　質問紙性格検査、因子分析と根源特性　標準心理検査
3	3)パーソナリティの力動論　フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷　4)人間性心理学説のパーソナリティ論
4	パーソナリティの形成・発達と病理　1)初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性　2)パーソナリティの病理と対処法、クライエント中心療法
5	Ⅱ．知能と創造性（２章）：　1)知能研究の源、知能観と知能検査　2)新しい知能観、偏差値の功罪、能力か動機づけか
6	創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力　1)拡散的思考と集中的思考　2)創造性の育成と活性化
7	Ⅲ．生涯発達（３章）：　1)研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点　2)研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
8	初期発達　1)乳児の気質の型、アタッチメント　2)コンピテンスと自己原因性の獲得
9	社会性の発達　1)道徳性と向社会性の発達段階　2)仲間関係のルールとスキル
10	青年期と自己意識　1)公的自己・私的自己、自我同一性の獲得　2)自己主張、対人不安
11	生涯発達と生き甲斐　1)仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業　2)老人の喪失感、統制感の喪失
12	最終のまとめ　1)心理学からみた人間　2)現代の課題、残された問題
備考	

科目名	心理学	担当者名	三本　茂

講義の目標		—人間行動への複眼的接近— 心理学は人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。 本年度の講義は、人間行動を個人・集団というふたつの眼を通して眺めてみる。
講義概要		まず個人行動という眼を通して、パーソナリティ（性格、集団的パーソナリティ、知能、適応のメカニズムなど）を取り上げる。 次に、集団という眼を通じて、集団の成立、その機能、人間以外の動物の集団、社会的態度などを扱い、最後に文化と社会現象について触れる。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	その都度指示する。
評価方法		評価は、レポートと年度末の筆記試験によっておこなう。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

○人間行動におよぼす個人的要因として、性格を取り上げる。

1. 性格とは何か
2. 性格とパーソナリティ
3. 性格理論
4. パーソナリティの形成（集団的パーソナリティ論）
5. パーソナリティの診断と適応

○人間の知的行動

1. 知能とは何か
2. 知能の形成と発達
3. 知能と社会・文化的要因

○社会的行動

1. 集団の特質
2. 比較動物学的接近
3. 集団内の個人行動
4. 社会的態度

○社会集団と文化

1. 文化をどう考えるか
2. 比較文化論の視点
3. 社会現象

科目名	数学Ⅰ・数学Ⅱ	担当者名	遠藤　信

講義の目標		経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。 この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微積分である。
講義概要		前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部の学生が実社会に出て、応用することが多い分野である。 後半では、微積分を講義する。これらは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。 定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。
評価方法		前期、後期それぞれ各1回の試験をおこなう。この成績に、出席状況を中心とした平常点を考慮して、成績評価をおこなう。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義　行列の演算
2	行列の定義　行列の演算
3	行列の変形　行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること　逆行列
4	行列の変形　行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること　逆行列
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列を求める方法
11	連立１次方程式　１．Cramer の公式　２．掃き出し法
12	連立１次方程式　１．Cramer の公式　２．掃き出し法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数と関数の極限　関数の連続
2	関数と関数の極限　関数の連続
3	微分係数と導関数の定義
4	微分法の公式　関数の和、積、商の微分　いろいろな関数形の微分
5	微分法の公式　関数の和、積、商の微分　いろいろな関数形の微分
6	平均値の定理　関数の極大・極小
7	平均値の定理　関数の極大・極小
8	偏微分の定義　偏微分の応用
9	偏微分の定義　偏微分の応用
10	不定積分と定積分
11	不定積分と定積分
12	微積分の社会科学への応用
備考	

科目名	数学概論	担当者名	福井尚生

講義の目標		“１秒間に２倍に増殖する菌が丁度12時に、ある瓶一杯まで増殖しました。この瓶半分まで菌が増殖したのは何時何分何秒でしょう？”『どれどれ』と、この問題に興味を感じた人はもうこの講義の目標に叶った人です。身近な現象を対象に、具体的な数学を目指しているからです。先ず興味を感じてもらった上で、文科的思考方法に長けた皆さんに、敢えてその対極にある数学的思考方法で各自の脳細胞を刺激してもらい、思考の幅を広げて欲しいと思っています。具体的な問題を扱い易い微分・積分を道具に使い、身近な現象を数学的に解析してみましょう。
講義概要		1.関数：有理関数と無理関数 三角関数と逆三角関数 指数関数と対数関数 2.微分：１変数関数の微分 多変数関数の微分 3.積分：不定積分 4.微分方程式：変数分離形 １階線形微分方程式 ２階線形微分方程式
使用教材	テキスト	プリント テキスト使用は未定
	参考文献	
評価方法		受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。
受講者に対する要望など		自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時までに直接　福井（中央棟702）に提出して下さい。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、受講者の思考の幅の広がり工合を見ながら進めます。

後期

週	主要テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	物理学	担当者名	東　孝博

講義の目標		現代物理学の基礎である相対性理論と量子力学を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、科学の果たす役割と限界についても考えていきたい。
講義概要		前期を相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更、等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等）、後期を量子論（ミクロの世界、粒子の波動性、不確定性原理、状態と観測、粒子の生成・消滅、ブラックホールの蒸発、宇宙の進化等）に充てる。
使用教材	テキスト	テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。
	参考文献	
評価方法		前・後期各３回の課題と学年末試験で評価を付ける予定。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	プロローグ―現代物理学を学ぶ意味
2	飛行機中でもワインが注げるわけ―相対性原理
3	光の速度で走りながら光を見たら―光速一定の原理
4	時間は遅れ、空間は縮む―時間・空間の相対性
5	18歳の少女に恋した4？歳の科学者の戦略―「浦島効果」
6	エレベーターの綱が切れたら―等価原理
7	空間も曲がる―重力の幾何学化
8	光も出られない蟻地獄―ブラックホール
9	宇宙の将来はどうなるの？―膨張宇宙
10	始めに光ありき―ビックバン宇宙
11	暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙―現代宇宙論の諸問題
12	宇宙人さん、こんちにわ―地球外文明探査
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	光とは何か？―光の波動説と粒子説
2	物は何からできているのか？―ミクロの世界へ
3	光は粒子？―光量子仮説
4	電子は波？―物質波
5	確率の波―波動関数
6	何処にいるのか分からない―不確定性原理
7	量子論と相対論の結婚―相対論的量子力学
8	点の自転？真空の穴？？―スピンと反粒子
9	シュレーディンガーの猫―観測の問題
10	現実の世界は対称性の破れた世界―素粒子論
11	宇宙は“無”から生まれた―量子宇宙論
12	エピローグ―再び、現代物理学を学ぶ意味
備考	

科目名	化学	担当者名	杉浦 三千夫

講義の目標		この講義は、化学一般を年間を通じて基本的な事項について平易にのべることを最大の目標としている。専門に偏することは少く、知識の習得によらず、経験がいかに学問になったかを述べる。
講義概要		自然科学の一つの要素である“化学”の重要性はたとへ人文科学専攻の学生としても今更こゝで述べるまでもなく必要なことである。教養課目として定まっている以上不可欠のことである。目標として記したごとく、成因があり、その結果をいかに役立てるかが学問でもある。したがって入学前に理科系の考へ方を学んでいない諸兄姉のために限られた時間内に立案し講義を行ふつもりである。大きく分ければ前半に、化学の成り立ち、分類としては物質のなり立ち、それに基く理論、法則、化合物の分類、資源とその活用、工業のなり立ち、後半には生命に関与する化合物（有機化合物）それらの合成法と活用、それから生ずる生活環境に対応する事柄を述べることを予定している。
使用教材	テキスト	目でみる化学　培風館　（山本・前川他共著）　改訂版
	参考文献	プリント、および、磯・冨田共著、ケミストリー（東京教学社刊）
評価方法		授業についての熱意度（出席）、前後期の筆記試験、レポートについて（提出課題、試験等）の評価を行う。
受講者に対する要望など		まず出席、対話、創立諸先生方の教育に対する精神を把握すること。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	化学とはなにか、西洋と東洋圏とで、物質創造についての相違などを化学史の立場より比較しながら述べる。
2	原子と分子の考え方と化合物、物質にいたる過程について述べる。
3	周期律表の成立とその活用、元素の類似性
4	原子と原子核、電子配置、化学結合論その（一）
5	化学結合論のつづき　電子対結合　配位結合、錯塩について
6	その他の化学結合、金属結合、結晶、液晶、巨大分子について
7	物質の３態と基本法則
8	化学反応とエネルギー、熱化学と燃料
9	大気、水、地下資源、それからの無機工業化学その（一）
10	無機工業化学のつづき、主として電気化学に関係する化学工業
11	生活環境と化学物質の関連性について（公害問題）
12	公害問題のつづき環境基準
備考	3, 11, 12週はプリントを配布して説明する。

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	無機化合物と有機化合物の相違、有機化合物の官能基による分類について考える。
2	炭化水素と石油、精製と石油工業、および石油工業
3	有機化合物の反応性、および不飽和炭化水素
4	有機化合物の反応性のつづき、置換反応・付加反応について
5	有機化合物の反応性（三）　高分子化合物生成反応
6	ベンゼンから出発した誘導体についての物質と物性
7	有機工業化学（一）　コロイド化学の概念　それからの製品について述べる。
8	高分子化合物と有機工業化学、合成樹脂と合成繊維
9	生活関連有機化合物　生物化学
10	化学材料から見た先端技術、品質管理の初歩
11	有機物質から発生した公害とその環境保全
12	環境問題と化学の面からみた安全工学の概念について述べる。
備考	10, 11, 12週はプリントを配布して説明する。

科目名	地学	担当者名	福井尚生

講義の目標		地学とは地球科学の略です。そこで地球を自然（科学）の枠内で理解することに努めます。その為には、地球を天体という側面から見ることになります。空を見上げると、月・太陽を始め異なったスケールの天体が輝いています。広い宇宙の中で我が地球が時間的・空間的にどんな位置・状態にあると理解されているか、天文学の世界を垣間見ることにしましょう。出来る丈ホットな話題で興味を鼓舞しながら、実はこの宇宙を支配している筈の自然法則について、天文屋の理解が今のところどの程度まで進んでいるか、知ってもらおうと思います。
講義概要		1.恒星：太陽（系） 連星 散開星団 球状星団 2.銀河：銀河（系） 銀河群 銀河団 超銀河団 3.見える限りの宇宙：宇宙の構造 宇宙の起源
使用教材	テキスト	プリント 視聴覚教材
	参考文献	
評価方法		受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。
受講者に対する要望など		自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時までに直接　福井（中央棟702）に提出して下さい。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、ホットな話題を提供しながら進めます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	生物学A	担当者名	加藤 僖重

講義の目標		近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。
講義概要		身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。 必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらう。
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。
評価方法		出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。
受講者に対する要望など		受講生は新聞・雑誌等をよく読むこと。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論　一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。
2	人口増加　今1秒間に3人増加し続けているヒトが地球に及ぼす影響についてを説明。
3	食糧危機　人口増加に対するだけの食糧は確保されているか否かを国連等で出されている資料を基に説明。
4	トピックス①　人口問題に関しての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
5	生態系①　1941年に A. G. Tansley が提唱した Ecosystem を説明。
6	生態系②　1941年に A. G. Tansley が提唱した Ecosystem を説明。
7	生態系を乱す例①　現在、問題になっている環境破壊の具体例を説明。
8	生態系を乱す例②　現在、問題になっている環境破壊の具体例を説明。
9	トピックス②　環境破壊例に関しての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読みレポートを提出。
10	森の分布　地域によって異なる森林に共通する法則を説明。
11	トピックス③　自然環境に関する新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。
12	自然保護学の基礎①　各自の故郷の自然環境を知るための基本知識を論じ、併せて夏休みのレポートのまとめ方を説明する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論　講義後期の進め方を説明。
2	照葉樹林文化　ヒマラヤから日本にかけての森の特徴を説明。
3	夏緑林文化　北半球令温帯に広く分布している森の特徴を説明。
4	トピックス④　森林と文化に関する記事を読み、レポートを提出。
5	対応種とは①　黒船が持ち出した標本が明らかにした日本の特徴を説明。
6	対応種とは②　太平洋型植物と日本海型植物の意味を説明。
7	自然保護学の基礎②　国立公園の始まりを例に我々のなすべきことを説明。
8	絶滅の危機に瀕している生物①　バイソンの興亡を歴史を追って説明。
9	絶滅の危機に瀕している生物②　ゾウと象牙を例に経済活動の制限を説明。
10	絶滅の危機に瀕している生物③　日本特産の植物の保護例を説明。
11	トピックス⑤　森林と文化に関する記事を読み、レポートを提出。
12	まとめ　一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	生物学B	担当者名	加藤 啓重

講義の目標		身近な自然を注意深く観察出来るようになることを目指す。
講義概要		普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてのレポートを提出してもらう。
使用教材	テキスト	教科書：使用しない。
	参考文献	参考書：講義中に必要に応じてコピー配布をする。
評価方法		出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。
受講者に対する要望など		受講生は新聞・雑誌等をよく読むこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	序論　一年間の講義の進め方を説明し、レポート提出が多いことを理解してもらった後、抽選によって受講生の確定、実験室での座席の決定を行う。
2	実験室内における心得　実験室の器具等の扱い方を説明。
3	キャンパス・ウオッチング①　種を区別するポイントを説明。
4	身近な植物の観察①　見慣れた花の構造を観察。
5	顕微鏡の使用法①　実際の顕微鏡に慣れてもらう。
6	顕微鏡の使用法②　ミクロメーターの使用法。
7	顕微鏡の使用法③　単位面積当りの細胞数を数える。
8	キャンパス・ウオッチング②　五感を働かせる。
9	身近な植物の観察②　見慣れた果実の解剖。
10	トピックス①　新聞・雑誌等の記事を読む。
11	身近な植物の観察④　見慣れた種の葉の形態を観察する。
12	身近な自然　夏期休暇のレポートを書くための説明。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	後期の序論　夏期休暇のレポート回収と後期の説明。
2	種の多様性保全条約　なぜ他の生物を守らなければならないか。
3	身近な植物の観察⑤　スイカズラ科の特殊の形態を観察する。
4	身近な植物の観察⑥　身近なブナ科植物を観察する。
5	ワシントン条約　身近かな“絶滅の危機に瀕している動植物”の観察をする。
6	身近な植物の観察⑦　秋の果実を観察する。
7	身近な植物の観察⑧　生産構造図を描く。
8	身近な植物の観察⑨　紅葉・黄葉の観察。
9	分類に使われるキー・キャラクターとは　デンドログラムを描く。
10	レポートの整理　観察結果をより良いレポートにする方法を説明する。
11	トポックス②　新聞・雑誌の記事を読む。
12	まとめ　一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	人類学	担当者名	井上兼行

講義の目標		文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。事例を通しつつ、そのおおよそを知る。
講義概要		文化人類学は西欧社会に形成された。そこでその形成の歴史を通して未開社会の文化に対する態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べ、後半は、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を講じてゆく。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時紹介する。
評価方法		試験を考えているが、登録人数によってはレポート等もありうる。
受講者に対する要望など		以下に示す日程はあくまで暫定的なものである（もっとも順序はこの通りであるが）ことを念頭においてほしい。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	序――体どんな学問か
2	形成の歴史―(1)　スペイン人のインディオ観(1)
3	〃　(2)　〃　(2)
4	〃　(3)　16C後半～18C後半の西欧人の未開人観
5	〃　(4)　18C後半～19C後半の西欧人の未開人観
6	19C後半　文化人類学の誕生
7	文化人類学の研究対象である“文化”の概念(1)
8	〃　(2)
9	初期の理論となった“進化”の概念
10	“進化”理論による分析例
11	19C末～20C初　現代の文化人類学へ
12	研究方法としての“実地調査”
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	後半は事例研究の講ずる。そのテーマは未定である。ここまでの話の脈絡から決めてゆく。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	遠藤　信

講義の目標		現代の自然科学、特に現代物理学の諸概念が、人間の精神活動にどのような影響をおよぼしたか、また、それがいかに芸術表現に反映されているか、そして現代の自然科学は物質や宇宙についてどこまで解明しているかということを、生々しく、定性的に、また感性的にでも分かってもらうことが講義の目標である。
講義概要		前半では、究極の物質は何かについて講義する。デモクリストス以来、自然科学が追求してきたこの問題を、歴史をたどりながら、現在ではどのように考えられているかを説明し、また、ミクロの世界の理論である量子論について講義する。 後半では、相対論を中心に講義する。この理論がどのようにして生まれたか、また、相対論がもたらした結果について考察し、さらに宇宙の成り立ちや進化について現代の科学はどこまで解明しているかについて述べる。 授業で特に留意する点は、できるだけ数式を使わないこと。また、講義の進行に合わせてビデオを観る。
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じてビデオを利用する。
	参考文献	・広瀬立成著『現代物理への招待』培風館 ・アインシュタイン―インフェルト著　石原純訳 『物理学はいかに創られたか』（上、下巻）　岩波新書 その他、適当と思われるものを、授業中に示す。
評価方法		①年に１～２回、授業中にまとめのレポートを提出する。この際、自筆のノートのみ使用可とする。 ②後期に試験をおこなう。 ①と②の成績に出席状況を考慮して、成績評価をおこなう。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	根元物質をめぐる先人達の考え
2	原子とその構造
3	量子の世界
4	量子の世界
5	素粒子
6	Quark の登場　Quark と Lepton　物質の究極の要素は何か。
7	Quark の登場　Quark と Lepton　物質の究極の要素は何か。
8	Quark の登場　Quark と Lepton　物質の究極の要素は何か。
9	自然界の力　力の統一
10	自然界の力　力の統一
11	自然界の力　力の統一
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	光とエーテル
2	光速度の測定
3	Newton 力学と Galilei 変換　運動の法則の不変性、速度の変換則　Maxwell の電磁気学　光の伝播速度が一定。Galilei 変換との矛盾
4	Newton 力学と Galilei 変換　運動の法則の不変性、速度の変換則　Maxwell の電磁気学　光の伝播速度が一定。Galilei 変換との矛盾
5	Newton 力学と Galilei 変換　運動の法則の不変性、速度の変換則　Maxwell の電磁気学　光の伝播速度が一定。Galilei 変換との矛盾
6	Michelson と Morley の実験　光速度不変と Lorentz 変換　長さの短縮、時間の遅れ
7	Michelson と Morley の実験　光速度不変と Lorentz 変換　長さの短縮、時間の遅れ
8	Michelson と Morley の実験　光速度不変と Lorentz 変換　長さの短縮、時間の遅れ
9	特殊相対性理論
10	宇宙のはじまり　相転移
11	宇宙のはじまり　相転移
12	まとめ
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	福井尚生

講義の目標	昨年10月30日、米CBSテレビがドラマの中で『世界中に小惑星が落下』のニュースを流しました。全米は一時パニック状態になったそうです。ハロウィンのいたずらニュースでした。でも小惑星の地球衝突の可能性は天文屋も示唆していますし、ゼロではありません。そうした環境の中でのいたずらニュースは効果抜群です。人間は環境に左右され勝ちです。その中で自然科学が自然の本質をどう見ようとして来たか、又理論をどうより普遍的に改良して来たか、“地球外文明”に焦点を合わせて探ってみようと思います。	
講義概要	地球外文明の 1.思想 多数世界論と唯一世界論 2.進化 利用するエネルギーに依る文明の段階 3.探査哲学 平凡性の原理、人間原理 4.探査計画 SETI 5.効能	
使用教材	テキスト	視聴覚教材 テキスト使用は未定
	参考文献	
評価方法	受講者数・学習態度（出席重視）を見て決めます。	
受講者に対する要望など	自分の頭で、ユニークに真面目に取り組んで下さい。尚、受講希望者は、本講義の目標・概要を読み各自の決意を100字以内にまとめたメモを最初の講義の日の17時までに直接　福井（中央棟702）に提出して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前・後期とも講義は概要に沿い、環境に対応しながら進めます。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	東　孝博

講義の目標		コンピュータ初心者のために、コンピュータによる読み書き算盤教育を行う。これからの大学生活・社会生活で必要なコンピュータ利用のための基本や、コンピュータが人間の生活・社会に及ぼす影響について学ぶ。
講義概要		1人1台のパーソナルコンピュータで、日本語ワープロ・英文ワープロ、表計算ソフト・データーベース機能の使い方、コンピュータによる検索、通信を実習する。
使用教材	テキスト	文書と資料を配布。
	参考文献	
評価方法		授業中に出す課題で評価。
受講者に対する要望など		遅刻は他の人の迷惑になるので厳禁。やむを得ず欠席した場合も、自習して遅れを取り戻すこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータに触れる／Windows 入門
3	キーボードとタイピング
4	ワープロ入門―文書の編集(1)
5	ワープロ入門―文書の編集(2)
6	ワープロ入門―文書の編集(3)
7	ワープロ入門―文書の印刷
8	ワープロ入門―英文ワープロ(1)
9	ワープロ入門―英文ワープロ(2)
10	表組みからグラフを作成する
11	グラフを文書に貼り付ける
12	課題
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	表計算入門――表の作成・編集
2	表計算入門――表計算
3	表計算入門――グラフの作成
4	表計算入門――表・グラフの装飾と印刷
5	データベースの取り扱い―データベース作成・整備
6	データベースの取り扱い―データの検索
7	データベースの取り扱い―データの抽出
8	データベースの検索利用
9	BITNET―メールの送信・受信
10	BITNET―メールの整理
11	BITNET―ファイルの送信・受信
12	課題
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	金子憲一

講義の目標	現在、膨大な情報の中から自らに必要なものを捜し出し、効率的に活用する場合の中心になるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本的な操作や利用、及び情報処理の考え方や人間とコンピュータとの関係を学んでいく。 特に、大学生活で実際的に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。	
講義概要	1人1台でパーソナルコンピュータを利用し、実習を中心として授業を進める。具体的には、日本語ワープロ・英文ワープロ、表計算ソフト、データベース操作、コンピュータによる情報検索・パソコン通信の活用法を学ぶ。 （初心者を対象に、ていねいに説明を行うが、積極的にメモを取りまじめに取り組むように。「ゆっくりでよいから正確に」操作すること。）	
使用教材	テキスト	文書と資料を配布。
	参考文献	授業中、随時紹介する。
評価方法	授業中に示す課題の作成と平常点（特に出席を重視）で総合評価。	
受講者に対する要望など	毎回の授業は前回迄の積み重ねである。欠席や遅刻は厳禁とする。欠席した場合は、必ず自習して遅れを補っておくこと。「けじめ」と「自分の責任」を自覚して、自主的に取り組むように。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	コンピュータに触れる／Windows 入門
3	キーボードとタイピング
4	ワープロ入門―文書の編集(1)
5	ワープロ入門―文書の編集(2)
6	ワープロ入門―文書の編集(3)
7	ワープロ入門―文書の印刷
8	ワープロ入門―英文ワープロ(1)
9	ワープロ入門―英文ワープロ(2)
10	表組みからグラフを作成する
11	グラフを文書に貼り付ける
12	総合課題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表計算入門―表の作成・編集
2	表計算入門―表計算
3	表計算入門―グラフの作成
4	表計算入門―表・グラフの装飾と印刷
5	データベースの取り扱い―データベース作成・整備
6	データベースの取り扱い―データの検索
7	データベースの取り扱い―データの抽出
8	データベースの検索利用
9	BITNENT―メールの送信・受信
10	BITNET―メールの整理
11	BITNET―ファイルの送信・受信
12	総合課題
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	髙柳敏子

講義の目標		本講義は、コンピュータの初心者のためのコンピュータリテラシ教育を目的とする。以降の大学生活で必要な情報利・活用のための基本を習得する。
講義概要		前期は、まずタイピイングから始め、MS-Windowsのもとでワープロソフト MS-Word、表計算ソフト MS-Excel を使用しながら、ワープロを中心に簡単な表とグラフを含めた総合的な文書編集の基礎を学習する。 後期は、MS-Excel による表計算の応用およびデータベースの取扱い、また大学内で利用できる図書館等のデータベースの検索、さらにBITENTによるメール、ファイルの送受信等を学習する。
使用教材	テキスト	未定、必要な資料は随時配布する。
	参考文献	参考書については随時紹介する。
評価方法		前・後期各1回の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。
受講者に対する要望など		実習を中心とした授業なので、欠席をしないこと。年間を通じてデータや文書を記録するためのフロッピー（3.5インチ2HD）を3枚用意すること。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	パソコン入門(1)：マウス操作　コンピュータに触れる。
3	パソコン入門(2)：ウィンドウ操作　ウィンドウの扱い方とフロッピーの初期設定を学ぶ。
4	キーボードとタイピング　タイピングソフトの解説とタッチタイピングの練習をする。
5	ワープロ入門(1)：文書の編集(1)　日本語入力の基礎を学ぶ。
6	ワープロ入門(2)：文書の編集(2)　コマンドのメニューや機能ボタンの使い方を学ぶ。
7	ワープロ入門(3)：文書の編集(3)　文書の表組みを学ぶ。
8	ワープロ入門(4)：文書の編集(4)　文書の段組みを学ぶ。
9	ワープロ入門(5)：文書の印刷　印刷の設定や仕方を学ぶ。
10	ワープロと表計算の統合(1)：表計算入門(1)　表組みからグラフを作成することを学ぶ。
11	ワープロと表計算の統合(2)：表計算入門(2)　グラフの作成と、グラフの文書への貼り付けを学ぶ。
12	ワープロと表計算の統合(3)：統合編集　段組み、表組み、グラフ等の総合的な編集と印刷を学ぶ。
備考	

後期

週	主要テーマ
1	表計算の応用(1)：ワークシート(1)　連番をつける、セルの複写と移動、計算式とその複写等を学ぶ。
2	表計算の応用(2)：ワークシート(2)　セルの相対番地指定、絶対番地指定の違い、関数の利用等を学ぶ。
3	表計算の応用(3)：ワークシート(3)　セルの書式、ワークシートの印刷の設定等を学ぶ。
4	表計算の応用(4)：データベースの取扱い(1)　データ入力、追加、削除等を学ぶ。
5	表計算の応用(5)：データベースの取扱い(2)　項目によるデータベースの並べ替えを学ぶ。
6	表計算の応用(6)：データベースの取扱い(3)　項目による条件検索や条件抽出を学ぶ。
7	表計算の応用(7)：データベースの取扱い(4)　項目によるクロス集計やデータベース関数の使用を学ぶ。
8	表計算の応用(8)：統合練習　レポートの作成。
9	データベースの検索利用：図書館の検索　図書館の検索および検索結果を資料にまとめる。
10	パソコン通信：パソコン通信のデモンストレーション　電子掲示板、電子メイルの送受信、チャット等を学ぶ。
11	BITNET(1)：ホストコンピュータとネットワーク　ホストへの logon、logoff とメールの送受信を学ぶ。
12	BITNET(2)：パソコンとホストコンピュータ　ファイルのアップロードとダウンロード、ファイルの送受信を学ぶ。
備考	

科目名	コンピュータ概論	担当者名	前田功雄

講義の目標		本講義は、コンピュータの初心者のためのコンピュータリテラシ教育を目的とする。以降の大学生活で必要な情報利・活用のための基本を習得する。
講義概要		前期は、まずタイピイングから始め、MS-Windowsのもとでワープロソフト MS-Word、表計算ソフト MS-Excel を使用しながら、ワープロを中心に簡単な表とグラフを含めた総合的な文書編集の基礎を学習する。 後期は、MS-Excel による表計算の応用およびデータベースの取扱い、また大学内で利用できる図書館等のデータベースの検索、さらにBITENTによるメール、ファイルの送受信等を学習する。
使用教材	テキスト	未定、必要な資料は随時配布する。
	参考文献	参考書については随時紹介する。
評価方法		前・後期各1回の実習を含んだテストおよび、前・後期各2～3回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。
受講者に対する要望など		実習を中心とした授業なので、欠席をしないこと。年間を通じてデータや文書を記録するためのフロッピー（3.5インチ 2HD）を3枚用意すること。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	受講者の決定と講義のガイダンス
2	パソコン入門(1)：マウス操作　コンピュータに触れる。
3	パソコン入門(2)：ウィンドウ操作　ウィンドウの扱い方とフロッピーの初期設定を学ぶ。
4	キーボードとタイピング　タイピングソフトの解説とタッチタイピングの練習をする。
5	ワープロ入門(1)：文書の編集(1)　日本語入力の基礎を学ぶ。
6	ワープロ入門(2)：文書の編集(2)　コマンドのメニューや機能ボタンの使い方を学ぶ。
7	ワープロ入門(3)：文書の編集(3)　文書の表組みを学ぶ。
8	ワープロ入門(4)：文書の編集(4)　文書の段組みを学ぶ。
9	ワープロ入門(5)：文書の印刷　印刷の設定や仕方を学ぶ。
10	ワープロと表計算の統合(1)：表計算入門(1)　表組みからグラフを作成することを学ぶ。
11	ワープロと表計算の統合(2)：表計算入門(2)　グラフの作成と、グラフの文書への貼り付けを学ぶ。
12	ワープロと表計算の統合(3)：統合編集　段組み、表組み、グラフ等の総合的な編集と印刷を学ぶ。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	表計算の応用(1)：ワークシート(1)　連番をつける、セルの複写と移動、計算とその複写等を学ぶ。
2	表計算の応用(2)：ワークシート(2)　セルの相対番地指定、絶対番地指定の違い、関数の利用等を学ぶ。
3	表計算の応用(3)：ワークシート(3)　セルの書式、ワークシートの印刷の設定等を学ぶ。
4	表計算の応用(4)：データベースの取扱い(1)　データ入力、追加、削除等を学ぶ。
5	表計算の応用(5)：データベースの取扱い(2)　項目によるデータベースの並べ替えを学ぶ。
6	表計算の応用(6)：データベースの取扱い(3)　項目による条件検索や条件抽出を学ぶ。
7	表計算の応用(7)：データベースの取扱い(4)　項目によるクロス集計やデータベース関数の使用を学ぶ。
8	表計算の応用(8)：総合練習　レポートの作成。
9	データベースの検索利用：図書館の検索　図書館の検索および検索結果を資料にまとめる。
10	パソコン通信：パソコン通信のデモンストレーション　電子掲示板、電子メイルの送受信、チャット等を学ぶ。
11	BITNET(1)：ホストコンピュータとネットワーク　ホストへの logon、logoff とメールの送受信を学ぶ。
12	BITNET(2)：パソコンとホストコンピュータ　ファイルのアップロードとダウンロード、ファイルの送受信を学ぶ。
備考	

科　目　名	総合科目Ｂ－１	担当者名	青　柳　多恵子

講義の目標		―民族と文化について― 人間が誕生してから営々と築いてきた民族の固有の文化を知ることは、現代社会の急速な変貌と発展に、ともすれば見失う未来社会への予測に大きく役立つであろうと思われる。科学技術の発展が交通・通信の著しい発達を促し我々の世界を小さくし、今や地球は一つのメカニズムと化している。未来社会の予測において、もはや過去の延長線上に未来はなく過去における数値は恐らく参考にならないだろう。参考になるとすれば人間や社会が歩んできたビヘイビア・パターンや文化の類型でしかなかろう。歴史の教訓は類型的に意味を持つものである。
講義概要		（祭りを通して文化を考える） 世界の民族の歴史と共にいろいろな祭りが催されている。世界各地の祭りを検証しながら民族の築いてきた生活文化や生活様式を知ることができる。祭りが及ぼす影響は元より、はるか昔の民族のたどった過程を「祭り」の中に見出だして、なお具体的な祭りとしての継承の経過を知ることは現代生活・民族の文化を考える上で参考になるといえる。
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		各担当者ごとに指示される（レポート等）と出席を重んじる。 実地見学を予定（実費経費かかる）
受講者に対する要望など		各学期ごとに完了　前・後期の重複履修可

年 間 講 義 予 定

4／12	青　柳	講座ガイダンス	6／7	三　本	ネパール　2
／19	飯　島	祭りと芸能の心　1	／14	中　西	スペインと祭り
／26	飯　島	祭りと芸能の心　2	／21	清　水	メキシコの祭りと生産
5／10	外来講師		／28	清　水	メキシコの祭りと生産
／17	鳥谷部	子育てと祭り　1	7／5	青　柳	日本の祭りと芸能
／24	鳥谷部	子育てと祭り　2	／		
5／31	三　本	ネパールの生活と祭り　1	／		

科　目　名	総合科目Ｂ－２	担当者名	青　柳　多恵子

講義の目標	―民族と文化について― 人間が誕生してから営々と築いてきた民族の固有の文化を知ることは、現代社会の急速な変貌と発展に、ともすれば見失う未来社会への予測に大きく役立つであろうと思われる。科学技術の発展が交通・通信の著しい発達を促し我々の世界を小さくし、今や地球は一つのメカニズムと化している。未来社会の予測において、もはや過去の延長線上に未来はなく過去における数値は恐らく参考にならないだろう。参考になるとすれば人間や社会が歩んできたビヘイビア・パターンや文化の類型でしかなかろう。歴史の教訓は類型的に意味を持つものである。	
講義概要	（文化・芸能・民族） 日本文化の変容について、ことば・文字・遊び・衣服・家屋などあらゆることに諸外国の影響を直接的・接続的な接触によって生じてきたことは歴史的に知られている。その一方あるいは双方の民族の特有な文化にいかなる変化が生じたか、またいかなる現象にその痕跡をみることができるかを検証しながら現代日本を考えることにしたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	各担当者ごとに指示される（レポート等）と出席を重んじる。 実地見学を予定（実費経費かかる）	
受講者に対する要望など	各学期ごとに完了　前・後期の重複履修可	

年 間 講 義 予 定

9／27	青　柳	講座ガイダンス	11／22	瀧　本	色と型と文化
10／ 4	瀬　尾	能　1	／29	古　川	ギリシャのフォークダンス　1
／11	瀬　尾	能　2	12／ 6	古　川	ギリシャのフォークダンス　2
／18	鹿　毛		／13	青　柳	文明と文化
／25	鳥谷部		／		
11／ 8	鳥谷部		／		
／15	鳥谷部		／		

科目名	保健体育講義1	担当者名	久松一恵

講義の目標		健康が作られたり、壊されたりする所は家庭、学校、職場、地域、そして地球規模での社会においてである。しかも、生まれてから死ぬまで同一の地域・環境の中で暮す人は少なく、余儀なく、あるいは進んで移動したり、時に外国生活をする機会が増加している。それぞれの文化あるいは文明の中に潜在する健康危険を意識し、必要なサービスを利用しながら、心身を調整し、また生活環境に対処する実際的知識を問うこと。
講義概要		本講義では生活者個人として心得ておくべき健康管理上の問題を、生活環境と心の問題に分けて取り上げる。 前者では、いかなる時代、いかなる所でも、とくに開発途上国では重要な、病原微生物による健康障害と、食品の生産・製造・加工技術の高度化及び食品流通の国際化によって危惧されることになった化学物質の安全性、外国へ旅行をする場合の留意点について講義し、後者では主として精神不健康・精神障害の予防の視点で、基本的考え方を述べる。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	課題に応じてプリントを配布し、参考文献を紹介する。
評価方法		学期末の定期試験による。 授業への出席状況も考慮する。 受講者が少人数の場合にはレポート提出を課すこともある。
受講者に対する要望など		講義予定は、多少、前後することがある。

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	健康学について
2	健康づくりの実践的課題
3	健康、不健康、疾病、障害、リハビリテーション、及び死について
4	生活環境と健康 (1)食物・飲料水に起因する疾病の予防（食中毒）
5	(2)食品・嗜好品の安全性（食品添加物、残留農薬）
6	(3)海外旅行と健康 ①予防接種。②感染症の問題
7	③飛行機旅行。④自然環境。⑤病害動物。⑥携行医薬品等
8	心の健康、その考え方
9	心の不健康(1)
10	心の不健康(2)
11	精神障害の予防
12	まとめ
備考	

科　目　名	保健体育講義２	担当者名	青　柳　多恵子

講義の目標	近年、健康革命が起こり、人々はタバコ・酒・諸々の薬の人体に及ぼす悪影響について真剣に考え、禁煙に踏切り、よりよい食事や運動に心掛けて病気にならないようにと思い始めた。しかし、現代生活の便利な日常生活が身体に及ぼす影響を考える時、何を成すべきかについてはまだ混乱があるといえる。現実の我々が営んでいる“文化的”なライフスタイルの多くを失わずに、より長く、より健康で、生産的な人生を豊かに生きるための、問題解決を目標とする。	
講義概要	現代の文明の発達が人間の生活環境や、健康にとって極めて危険な状態にある事と、真の健康の意味を正しく把握し、生涯を通して個々の事態に応じた運動処方の基本をしる。真の健康について検証し、その上に立って個人に合った運動プログラムについて作成していく。個々の体力を検証したうえで、栄養の問題・年齢に応じた運動の問題・日常生活の問題点や環境の作り出すストレスと疾病の関わりを考えながら、安全かつ健康な生活のための運動処方を作成する現代のトータルフィットネスに必要な項目を一つずつ検証する。	
使用教材	テキスト	プリント使用
	参考文献	・大学生の体力テストハンドブック ・体力科学からみた健康問題　加藤　橘夫著 ・日本人の健康観　NHK ・健康・体力づくり　ネット・ローレンス著 ・スポーマンの食卓　五明　みさ子著
評価方法	テストと出席状況による。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	機械文明の身体に及ぼす功罪について
2	運動不足と健康・疾病との関係
3	体力とは
4	栄養面から見た現代人の健康
5	身体運動から見た現代人の健康
6	疾病から見た現代人の健康
7	スポーツとその運動強度
8	運動処方について［その必要性と在り方］
9	年齢・性差・環境と健康
10	心拍数・エネルギー代謝率・スポーツからみる運動強度
11	個人に合う運動処方と健康維持について
12	まとめ　　レポート
備考	

科　目　名	保健体育講義２	担当者名	梶　野　克　之

講義の目標		生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の推持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探求し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活が送れることを目的としたい。
講義概要		体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。はじめに現代社会の特質とスポーツについて、その現状と問題点についての理解を深める。つづいて体育をめぐる心理学的な側面について、個人・集団にわたって解説する。さらに体育・スポーツの実践にかかわる身体運動について、生理学的な側面から解説し、理解を深める。さらに現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させる各種のトレーニングについて、一般的な原則を考えるとともに、その具体的な方法についても考える。
使用教材	テキスト	使用しない。プリント配布
	参考文献	・粂野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版 ・大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道和書院
評価方法		評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて：現代社会の特質に伴う体力の必要性や、スポーツに対する考え方の社会的背景とその変化などについて解説する。
2	前回に引き続き、生活の中のスポーツについてその現状と問題点を探り、これからの生活の質をめぐっての理解を深めるとともに、今後の課題について考える。
3	体育の心理について：体育の心理的側面について、発達の意義、発達段階について考え、さらに身体的機能や運動能力の発達などをとうして理解する。
4	前回に引き続き、体育における運動学習について考える。学習の意義を考え、運動技能の能率化を理解し、練習とその効果について理解する。
5	前回に引き続き、体育における集団の心理について考える。集団として実施される体育活動について、その集団の形成や集団の構造について理解するとともに、集団の機能について理解する。
6	運動の生理について：身体活動の生理学的な側面について、運動と呼吸について、呼吸数や換気量を理解したうえで、酸素摂取量やエネルギー代謝などから考え、運動と循環について理解する。
7	前回に引き続き、運動と筋力について、筋収縮のメカニズムについて考え、収縮のエネルギー源について理解する。運動を制御する神経系についての理解を深める。
8	前回に引き続き、運動と筋力について、疲労の概念を理解するとともに、疲労の要因についての諸説を理解する。
9	体力とトレーニング：体力の概念について理解する。学生の体格・体力について理解するとともに、体力診断についてその方法を理解するとともに意義について考える。
10	前回に引き続き、体力づくりのトレーニングについて、その定義について考え、理解を深める。さらにトレーニングの一般的な原則についての理解を深める。
11	前回に引き続き、体力づくりの具体的な方法として、筋力にかかわる、ウエイト、トレーニングと、全身持久力にかかわる、サーキット・トレーニングについての理解を深める。
12	前回に引き続き、インターバル・トレーニングやその他のトレーニングについて考える。定期試験の範囲を発表するとともに、出題の傾向について発表する。
備考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	松原　裕

講義の目標		一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することを目標とする。社会人となっても、明るく健やかに過ごすことの大切さを考えて欲しい。
講義概要		大学における保健体育の目的は、一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することです。受講者は、まず自分自身の健康を積極的に保持増進させ、学生生活ばかりでなく社会人となっても、明るく健やかに過ごすことの大切さを真剣に考えてほしいのです。 運動についてはいろいろなカリキュラムが組まれていますがその種目には限りがあります。生涯体育に向かって、得意な運動種目についての技能を習得することはもちろんですが、「見て楽しむスポーツ」についても、できるだけ多くの運動について理解しておくことは大切なことですし、幅広い教養人の素養としても価値あることでしょう。
使用教材	テキスト	『運動文化と体育』　多和健雄編著　共栄出版
	参考文献	・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL 2」 ・VTR「THIS IS THE オーストリアスキー」
評価方法		毎時間の出欠席、受講態度、レポート、テストなどを総合して評価する。遅刻は認めないのでその時間の講義を受講できない場合がある。
受講者に対する要望など		「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に立ち、「松原裕」というフィルターを通して保健体育の一面を学んで欲しい。常に自己のレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。

年 間 講 義 予 定

半　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション　○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意
2	健康と運動・健康と疲労
3	健康と栄養・健康と疾病予防
4	酒・タバコ・クスリ
5	腰痛と姿勢の基礎
6	女性とスポーツ・余暇とスポーツ
7	オリンピック競技・ワールドカップ競技
8	スポーツとフェアプレー・スポーツと紳士的行為
9	運動技能と大脳生理学
10	古代・中世・近世の体育
11	近代・現代の体育
12	日本の体育
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・アウトドアトレーニング（前期） ・アウトドアレクリエーション山岳型（集中授業）	担当者名	和田　智

講義の目標	山岳型野外活動の基本的な知識と技術の習得・グループワークトレーニングを前期授業の中で行い、実践の場として集中授業で山へ出かけていく。これらの活動を通して、将来個人で、また家族で、安全で快適に自然を享受できる能力を身につけることを目標とする。	
講義概要	・志賀高原で実施する集中授業に向けて、必要な知識、技術を前期学内の授業でグループワークを中心に学ぶ。集中授業では、ホテルをベースに、毎日変化に富んだコースを歩き、志賀高原の自然を楽しむ。歩くコースはファミリー向けのハイキングコースだが、期間中歩く距離は30～40 km に及ぶ。 ・学内の授業は、平常授業時間以外に週末を利用することもある。 ・集中授業では、日頃から歩きなれていない者にとっては大変つらく感じるかもしれない。そのため、4泊5日を乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。 ・集中授業は、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として35000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 集中授業は、期間：平成7年9月4日（月）～8日（木）4泊5日 場所：長野県志賀高原周辺（志賀パレスホテル泊）の予定 現地集合・現地解散とする。	
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション
2	グループ編成・グループゲーム
3	班別野外炊事打ち合わせ
4	班別野外炊事　その1
5	マップリーディング
6	コンパスゲーム
7	野外技術　その1
8	野外技術　その2
9	野外技術　その3
10	班別野外炊事打ち合わせ
11	班別野外炊事　その2
12	集中授業についてのオリエンテーション
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ インラインスケート	担当者名	加藤雅子

講義の目標		インラインスケートに乗る感覚を覚える。 フォアとバックのスケーティングや、ターン等、乗る位置を確認して使い分けて滑ることを学ぶ。 一人で滑るだけでなく、二人で滑るときのポジションや、滑り方を学ぶ。
講義概要		スケーティング、クロス、ステップ、ターンなど、基本的な滑り方や足の置き方、動作を学ぶ。 パイロンを使ったスラロームや、ローラーホッケーを体験する。 ビデオで、スケーティング等をチェックし、客観的に運動を観察することを学ぶ。 雨天時には、３棟１階の体育掲示板で集合場所を指示する。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法		出席状況、授業態度、レポート、技術の向上を加味して評価する。
受講者に対する要望など		交通機関及び体調等やむを得ない理由以外の遅刻は認めない。 動きやすい服装で受講すること。 ソックスは必ず着用すること。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション　イメージビデオの視聴
2	安全のための諸注意　靴の選び方、履き方　転び方、立ち方、歩行、ヒールストップ
3	フォア歩行　ヒールストップ　フォア・スケーティング
4	パイロンを使った歩行、ひょうたん、片ひょうたん
5	パイロンを使った両足カーブ、片足カーブ　T字ストップ
6	バック歩行　バックひょうたん
7	バックスケーティング
8	バックからフォアへチェンジ（踏み替え）
9	フォアからバックへチェンジ（踏み替え）
10	ターン　スパイラール
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期の復習
2	フォアクロスの導入
3	フォアクロス
4	バッククロスの導入
5	バッククロス
6	パワーストップ　ダンスのポジション学習
7	ダンス
8	プログラム作成
9	プログラム
10	これまでの復習
11	ローラーホッケー
12	ローラーホッケー
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ インラインスケート	担当者名	和田　智

講義の目標		インラインスケート基本技術の習得
講義概要		インラインスケート初心者でも受講可能。 スケート靴、プロテクター類はすべて大学で用意している。 動きやすい服装で受講すること。 ソックスは必ず用意すること。
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	
評価方法		出席状況（60%）、受講態度（20%）、テストの結果（20%）で評価する。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意、ストッピング
3	歩行からフォアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん　その1
9	バック片ひょうたん　その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習
2	ターン
3	パワースライド
4	フォアクロス　その1
5	フォアクロス　その2
6	フォアクロス　その3
7	ダンスの練習
8	ダンス
9	バッククロス
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・インラインスケート ・アウトドアレクリエーション海浜型（集中授業）	担当者名	和田　智

講義の目標	前期インラインスケートでは、基本的なスケート技術の習得を目標とする。 集中授業アウトドアレクリエーション海浜型では、スキンダイビング、ウインドサーフィン、カヤック、フィッシングに関わる知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。	
講義概要	・用具、施設の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・インラインスケート実施時にはソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、スキンダイビングは未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として30000円を第１週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 集中授業は、期間：平成７年７月25（火）～29日（土）４泊５日 場所：新潟県佐渡郡赤泊村莚場（むしろば）海水浴場の予定 現地集合・現地解散とする。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意・ストッピング
3	歩行からフィアストローク・フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク・バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん　その1
9	バック片ひょうたん　その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科　目　名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・インラインスケート ・スケート（集中授業）	担当者名	和　田　　智

講義の目標	後期インラインスケートでは、アイススケートのための基本的なスケート技術の習得を目標にする。集中授業アイススケートでは、冬季の代表的なスポーツであるアイススケート・カーリングの実践を通して知識・技術を身につけることにより、将来に向けての余暇享受能力を開発することを目標とする。 アイススケートでは、後期に実施してきたインラインスケートの技術を活かしながら、基本滑走、アイスフォークダンス、アイスダンス、アイスホッケー、ノルマの達成を通して、フォアクロス、バッククロスまでできることを技術的な目標に置く。 カーリングでは、ゲームの楽しさを理解できる程度の知識、技術の習得を目標に置く。	
講義概要	・インラインスケート実施時にソックスを必ず用意すること。 ・インラインスケート、アイススケートの未経験者でも受講可能。 ・インラインスケートに関わる用具はすべて大学で用意しているが、アイススケートの靴については、自分の靴を準備することが望ましい。 ・集中授業の必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として40000円を第１週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 集中授業は、期間：平成７年12月18（月）～22日（金）４泊５日 場所：長野県軽井沢スケートセンター（塩壺温泉ホテル）の予定 現地集合・現地解散とする。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	前期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション・イメージビデオの視聴と理論
2	靴・プロテクター合わせ、安全のための諸注意　ストッピング
3	歩行からフィアストローク　フォアひょうたん
4	パイロンを利用したフォアひょうたん
5	片ひょうたんからスネークへ
6	パイロンを使ったスネーク　バックストロークの導入
7	バックひょうたん
8	バック片ひょうたん　その1
9	バック片ひょうたん　その2
10	テストパターンの練習
11	テスト
12	テスト
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス （土曜２限目）	担当者名	小　俣　　充

講義の目標	テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。	
講義概要	アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ボレー）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	１ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 ２テニスのメンタルトレーニング ロバート・Ｓ・ワインバーグ、大修館書店 ３スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂
評価方法	出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価	
受講者に対する要望など	経験者（中級以上：フォアーとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。	

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1．身体の構えと加重
2．身体の動き
3．フットワーク
4．グリップ
5．ボレーの原型
6．ラケットのセット
7．ラケットの動き
8．打点
9．目線（バックとフォアーの見分け）

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス （土曜１限目）	担当者名	小　俣　　充

講義の目標		テニスというスポーツをどのように理解し、どのような目標を設け、どのように取り組むのかを確定し、その取組み方に必要なこと（基礎）の獲得を目指す。
講義概要		アグレッシブ・テニスに必要な基礎（ストローク）と、それぞれの動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。多岐にわたる基礎を簡潔にまとめ、個々に身についた動作の修正を含めて繰り返し練習する。
使用教材	テキスト	
	参考文献	1ベスト・テクニック・テニス 日本プロテニス協会編、学習研究社 2テニスのメンタルトレーニング ロバート・S・ワインバーグ、大修館書店 3スポーツを読む 稲垣正浩、三省堂
評価方法		出席回数をベースにし、テニスにどれほど集中し努力したかにより評価
受講者に対する要望など		経験者（中級以上：フォアーとバックのストロークおよびボレーがひと通り打てる）のみ受講可。

年 間 講 義 予 定

前・後期とも受講者の実態と進歩の状況により、次ぎのテーマを順次取り上げる。また個々のプレーを映像でとらえ、研究する。

1．身体の構えと加重

2．身体の軸と身体の動き

3．フットワーク

4．グリップ

5．ストロークの原型

6．ラケットのセット

7．ラケットの動き

8．打点

9．目線（バックとフォアーの見分け）

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス	担当者名	田中茂宏

講義の目標		技術的には、フォア、バックの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時ではゲームの進め方、ルールを学んでもらう。
講義概要		ストロークの練習、ボレー、サービスの練習を中心に行い、授業の後半では、ゲームの結果を記録する。 能力別のグループ分けを行い、レベルに応じて授業を進める。 グループ対抗のゲームを通してルール、ゲームの進め方を学ぶ。 出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。 雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。 着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。 見学者は着替えた後に出席すること。 授業はテニスコートで実施する。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。
受講者に対する要望など		クレーテニスコートを使用するので必ずテニスシューズで出席すること（他のシューズは認めない）　出欠状況は各自で覚えておくこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。　ストロークを中心に練習し、ラリーを続けられる様にする。
3	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
4	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
5	準備体操を毎回実施する。能力別のグループ作成。
6	ストローク、ボレーを中心に練習する。
7	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
8	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
9	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
10	サービスを中心に練習し、ストローク・ボレーの練習を復習する。
11	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
12	ゲームを行い、審判法、ルール、ゲームの進め方を習得する。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
2	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
3	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
4	夏休み明けなので準備体操を入念に行い、ゲームを記録する。
5	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
6	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
7	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
8	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
9	グループ別の対抗戦を行い、記録する。
10	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
11	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
12	シングルスあるいはダブルスのトーナメントを実施し、記録する。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス	担当者名	土井浩信

講義の目標		テニスの授業を通して、体育とは何か、自分にとっての生涯スポーツの在り方とはどんなものであるかを考えていきたい。
講義概要		テニスに関する技能学習が中心になるが、場に応じた課題を与えていく。スポーツの楽しさ、スポーツにとってのルール、他者観察力、自己観察力、自分自身の身体との対話能力、中心把握のポイント等々、授業を通して課題について考える。
使用教材	テキスト	なし。※雨天時等に指導ビデオの教材を使用する。
	参考文献	なし。
評価方法		授業への出席度とレポートによる評価。
受講者に対する要望など		テニスコート専用の運動靴（テニスシューズ）着用厳守。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成。
2	ラケットの基本的な持ち方握り方。グループ分け。用具の準備の仕方。　フォアーハンドの基本ストロークの学習。　用具の片付けとコート整備の仕方。
3	フォアーハンド（手なげトスのボール）。ショートラリー。　バックハンド（手なげトスのボール）
4	サーブ練習の導入。球出し練習。　テニス経験者、ゲーム指導（ローテーション方式）。
5	サービスとサービスレシーブ練習。　連続グランドストロークのポイント式ゲーム導入。
6	ダブルスゲーム（ルールの説明、審判の仕方、ゲームケアのマナー）の導入。円滑なゲーム運営について役割り確認。
7	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
8	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
9	ダブルスゲームと基本練習の場のセッティング。選択方式の練習導入。
10	ダブルスゲームのチーム戦開始。
11	ダブルスゲームのチーム戦開始。
12	ダブルスゲームのチーム戦開始。前期のまとめ
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ボレーの基本練習。ショートフライボールのボレー、ロングフライボールのボレー、ライナーボールのボレー連続。　サービス、サーブレシーブの練習。
2	シングルスゲームの導入。ルールの説明、運営方法の確認。
3	シングルスゲームのチーム戦。動き方の基本、ポジショニングの学習。
4	シングルスゲーム・ダブルスゲームのチーム戦。
5	ダブルスゲームのゲーム評価の仕方。動きのチェック。
6	ダブルスゲーム（乱取り形式でのゲーム運営）。　課題「全員が楽しめるテニスのプレイ」
7	ダブルスゲーム（乱取り形式）　課題「視・観・察」
8	ダブルスゲーム（乱取り形式）　課題「自分に最も適した運動リズムとフォーム」
9	ダブルスゲーム　課題「自己観察、他者観察」
10	ダブルスゲーム　課題「中心把握する能力」
11	ダブルスゲーム　課題「自分自身の身体との対話、イメージ能力」
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス	担当者名	中沢克江

講義の目標		テニスのゲームができるように基本的技術を習得し、体を動かし、楽しむ。ボールを打ち合いながら受講生同士の親睦を図る。
講義概要		基本的技術の習得 ルール、マナーの理解 ゲームを楽しむ ・ゲームはダブルスを行う。 ・ゲームのペアは、受講生同士の親睦を深めることを目的に組むので、教員が指示する。 ・技術レベル別リーグ戦では、受講生同士でペアを組み、レベル別を決める。
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。 受講態度の中には、服装も対象とする。
受講者に対する要望など		体育実技に適した服装で受講のこと。 クレーコートに適するテニスシューズ必ず用意すること。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基礎練習：ラケットの使い方。ボールに慣れる。身体の使い方。等
3	基礎練習：グラウンドストローク。
4	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。
5	基礎練習：グラウンドストローク。サービス。ボレー。　応用練習：グラウンドストローク。
6	基礎練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。　応用練習：簡易ゲーム＝ルール説明
7	応用練習：グラウンドストローク。ボレー。サービス。
8	応用練習：ダブルスゲーム＝ゲーム方法の説明。ルール説明。
9	ダブルスゲーム
10	ダブルスゲーム
11	ダブルスゲーム
12	ゲームを中心に、評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。３棟の体育掲示板を見ること。

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	基礎応用練習：グラウンドストローク他。
2	基礎応用練習中心で、ゲームも行う。　ゲームは男女別、男女混合でも行う。
3	ゲーム（ダブルス）中心。　応用練習：グラウンドストローク他。
4	ゲーム（ダブルス）中心。　応用練習：グラウンドストローク他。
5	ゲーム：ダブルス　第７週からの技術レベル別リーグ戦のためのダブルスペア作りの準備。
6	ゲーム：ダブルス　第７週からの技術レベル別リーグ戦のダブルスペアの決定。
7	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
8	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
9	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
10	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
11	ゲーム：技術レベル別ダブルスリーグ戦
12	評価を行う。
備考	雨天の時は、内容を変更します。３棟の体育掲示板を見ること。

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス	担当者名	松原　裕

講義の目標		「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、硬式テニスを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。
講義概要		選択の際には男女・技術のレベルは問わないが、ダブルスの試合ができるようになることを目標とする。一面6人×6面＝36名を定員とし、40名以上は抽選となる。 基本技術では、ストロークよりもサーブ、レシーブ、ボレーに中心をおいて練習する。ゲームの要素を早い時期から取り入れ、分習法よりも全習法が主体となる。コートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。
使用教材	テキスト	『テニス教本』　社団法人日本プロテニス協会編
	参考文献	・VTR「突然変わり出す覚え方」　サーブの新打法とネットダッシュ　宮村　宏 ・VTR「突然変わり出す覚え方」　ネットプレーの新技術　宮村宏
評価方法		毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。
受講者に対する要望など		必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション　○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意
2	個人のビデオ撮影①　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
3	個人のビデオ撮影②　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習①　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
5	技術レベルごとに班編成をし班別に練習②　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
6	技術レベルごとに班編成をし班別に練習③　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
7	技術レベルごとに班編成をし班別に練習④　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
8	ダブルスの試合の進め方①　○審判法　○ルール　○プレイヤーのマナー
9	ダブルスの試合の進め方②　○審判法　○ルール　○プレイヤーのマナー
10	ダブルスの試合の進め方③　○審判法　○ルール　○プレイヤーのマナー
11	ダブルスの試合の進め方④　○審判法　○ルール　○プレイヤーのマナー
12	テスト　○審判法　○ルール　○プレイヤーのマナー
備考	

後期

週	主要テーマ
1	個人のビデオ撮影①　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影②　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習①　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習②　○サーブ　○ストローク　○ボレー　○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方①　○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方②　○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 硬式テニス	担当者名	和気秀文

講義の目標	主として日常生活における運動不足の解消と健康の保持、増進のために、生涯を通して運動（テニス）に親しんでもらう能力と態度を身につける。	
講義概要	前期は、個々の能力に応じた指導を行うために、初心者と経験者に分かれて練習を行う。初心者はグランドストロークの練習を中心に、経験者はアプローチショットやネットプレー等実践的な練習を中心に行う。尚、出来る限り短期間で技術の向上を図るために、ストロークやボレー等のビデオ撮影を行い、個々の欠点を細く分析してゆく予定である。後期は、初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、グループごとの対抗戦（ダブルス）を行う。尚雨天時には、トレーニングルームおよび教室にて健康維持のため（減量、成人病予防を含む）の運動処方（運動の種類、強度、頻度等）について講義および実技指導を行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	授業への貢献度によって決定する。	
受講者に対する要望など	必ずテニスシューズを着用すること。雨天時にも必ずトレーニングウエアを持参すること。	

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
2	テニスによる傷害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグランドストロークの練習を中心に行う。
4	初心者はグランドストロークの練習を、経験者は主としてボレーの練習を行う。
5	初心者はグランドストロークの練習とボレーの練習を、経験者は、スマッシュの練習を中心に行う。
6	初心者、経験者に分け、6～8人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。ビデオ撮影。
7	上記に同じ。また、特に経験者のグループでは、サーブ、スマッシュやアプローチショット、ボレーの組み合わせなどの実践的な練習を中心に行う。ビデオ撮影。
8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
9	上記に同じ。
10	上記に同じ。
11	上記に同じ。
12	グランドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
3	グループごとの対抗戦（ダブルス、4～6ゲーム先取の1セットマッチ）を行う。
4	上記に同じ。
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	サービスと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・硬式テニス ・スキー（集中授業）	担当者名	松原　裕

講義の目標		「大学は学問を通じての人間形成の場である」という健学の理念に基づき、硬式テニスとアルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。
講義概要		選択の際には男女は問わないが、技術レベルは原則としてテニス・スキーとも経験者とする。硬式テニスはダブルスのゲームを目標とし、一面6人×6面＝36名を定員とし、40名以上は抽選となる。 スキーはアルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標としスキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。 学内の授業でコートが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか基礎的な理論を講義する。
使用教材	テキスト	板垣和男／佐々木明男著『ベーシック・スキー・テキスト』
	参考文献	・VTR「THIS IS THE　オーストリアスキー」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」
評価方法		毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。
受講者に対する要望など		必ず、コートに適合したテニスシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付） ○授業実施上の諸注意 ＊第２週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	個人のビデオ撮影① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
2	個人のビデオ撮影② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
3	技術レベルごとに班編成をし班別に練習① ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
4	技術レベルごとに班編成をし班別に練習② ○サーブ ○ストローク ○ボレー ○スマッシュ
5	ダブルスの試合の進め方① ○プレイヤーの戦術的な動き
6	ダブルスの試合の進め方② ○プレイヤーの戦術的な動き
7	技術レベルごとに班編成をして団体戦①
8	技術レベルごとに班編成をして団体戦②
9	技術レベルごとに班編成をして団体戦③
10	技術レベルごとに班編成をして団体戦④
11	技術レベルごとに班編成をして団体戦⑤
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ゴルフ	担当者名	野口昭彦

講義の目標		現代社会においては、健康増進、健康維持、またはストレス解消等さまざまな目的に応じて、身体活動を行う社会へと変化してきた。それは現代の生活環境の変化や悪化等により、各自のライフスタイルや体力に応じ、自分の健康は自分で創り上げていく、ウエルネス（WELLNESS）運動として生涯必要とされている現状である。 このことを考慮し、学生時代にゴルフを媒介としての運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。
講義概要		ゴルフは生涯スポーツとして適切な運動刺激があり、年令やその人の体力、技能に応じプレーが可能なため、身体運動の習慣を身に付けることが期待でき、その楽しさを生涯味わうことができる。また、ゴルフはメンタルな要素を多く含んでおり、いかなる時でも冷静な判断で行動を行なうことで精神力や集中力を養い、人えの思いやりや、気配等のエチケットやマナーを守り、周囲の人々の人間関係を大切にするスポーツである。以上の様にゴルフは非常に特徴のあるスポーツなので、技術の習得はもとより、ゴルフを通じて生活環境の変化や悪化等にも対応できる、精神力や体力を養い、永い人生での社会生活に貢献できることを期待したい。
使用教材	テキスト	適宜資料を配布する。
	参考文献	・『はじめてのゴルフ』　谷口信弘、新星出版社 ・『ゴルフスウィング、レッスン』　伊能一郎、新星出版社 ・『ゴルフ基本』　学研 ・『ゴルフ上達の科学』　田中誠一、プレジデント社 ・『ティーチング・ゴルフ』　市村操一、ベースボールマガジン社 ・『ザ・アスレチックスウィング』　デビット・レッドベター、ゴルフダイジェスト社
評価方法		出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする。また、簡単なテストを行なう。
受講者に対する要望など		降雨や降雨後グラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。 年間講義予定は授業の進行状況により、変更の場合もある。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	1年間の履修概要の説明。
2	基礎知識＝エチケット、マナー、服装、クラブ構造と用途について。
3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合せる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
6	正しいスイングの基本＝スイングのスタート、バックスイングのトップ、ワンピーススイング等について行なう。
7	正しいスイングの基本＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
10	ミドルアイアンの練習＝前回までの学習を踏まえて、ゴルフ練習場にて練習球を使用しての練習。
11	ミドルアイアンの練習＝確実にヒットすることを目標に。
12	ミドルアイアンの練習＝ダウンブローを中心とした打ち込み。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期授業で行なった練習の復習。
2	ショートアイアンの練習＝目標に対して正確に打つ練習。
3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
4	ロングアイアン＝苦手意識を捨てる事の練習を行なう。
5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力まず力を抜いて打つ練習を中心に行なう。
6	フェアウエイウッド＝ドライバと同様の練習。
7	5、6週目と同じ練習。
8	応用スイング＝基本スイングを変化させ、応用スイングの知識を知る練習を行なう。
9	8週目と同じ練習。
10	各クラブの基本スイングを変化させ、応用スイングにて実戦的な練習を行なう。
11	10週目と同じ練習。
12	10週目と同じ練習。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ゴルフ	担当者名	山中邦夫

講義の目標		ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。
講義概要		ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズミカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	
評価方法		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。
受講者に対する要望など		欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。登録時に、練習場のボール代(10,000円)を払込むこと。ゴルフグラブは各自で、靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ゴルフ競技の概要（VTR と講義）
3	スイング、グリップ、スタンスについて（学内グランドで実習）
4	スイング、グリップ、スタンスについて（学内グランドで実習）
5	スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習　ターゲットバードゴルフも行なう。
6	スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習　ターゲットバードゴルフも行なう。
7	スイング（各種のクラブを用いて）の基本練習　ターゲットバードゴルフも行なう。
8	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
9	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
10	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
11	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
12	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
2	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
3	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
4	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
5	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
6	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
7	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
8	（学外の練習場で）　VTR と練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習　パッティングの練習も行なう。
9	実技テスト：ショートアイアン　（約80ｍ先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格） ：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
10	実技テスト：ショートアイアン　（約80ｍ先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格） ：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
11	実技テスト：ショートアイアン　（約80ｍ先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格） ：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
12	実技テスト：ショートアイアン　（約80ｍ先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格） ：ロングアイアンまたはドライバー　（まっすぐ安定したボールが打てれば合格）
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ゴルフ	担当者名	吉田卓司

講義の目標		ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。
講義概要		ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をVTRビデオにより学習する。前期は主として、クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスティク、ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。 後期は、はじめから、ゴルフ練習場にて、実習する。雨天にかかわらず実習可能なので、直嗣ゴルフ場に集合すること。ショートアイアン、ミドルアイアンの打法と1番・3番ウッドの打法を習得する。TVビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導の予定である。
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	ナシ
評価方法		出席を重視し、普段の履習態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドの2回実施する。
受講者に対する要望など		運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること（汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため）

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	ゴルフの歴史と正しいマナーについて
3	基本的技術のTVビデオ鑑賞
4	ショートアイアン（8, 9、PW, SW）のスウィング　（グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法をを習得する）
5	（学内でプラスティク・ボールを使用して実習）
6	（各人の個別指導）　（正しいグリップ、スタンスの巾、正しいアトレスの入り方、スウィングの方法）
7	
8	ゴルフ練習場にて実習　ショートアイアン　ミドルアイアン　基本的なスウィングと打球
9	（反復練習）
10	（個別指導：グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック）
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ゴルフ練習場にて、実習
2	アイアンショット（3, 5, 7, 9、PW, SW）練習　（個別指導とフォームのチェック）
3	1番ウッド（ドライイバー）　3番ウッド（スプーン）の打法と練習
4	（ロングアイアン3, 4）ショット練習
5	
6	TVビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
7	
8	
9	
10	テスト（アイアン、及びウッド）及び実習
11	
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ サッカー	担当者名	田代力也

講義の目標	技術の習得、体力の向上をめざす。チームゲームの中で協調性を高める。正しいルールと、フェアで安全なプレイを学ぶ。	
講義概要	さまざまな基本練習から、攻撃、守備の展開、ゲームへと移行する。ゲーム毎にポイントを与え、確認する。 グラウンド不良時には、ビデオ等により、さまざまな角度からサッカーを学習する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性を評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については、第１週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ サッカー	担当者名	田中茂宏

講義の目標		ゲーム形式中心の内容を通してゲームの進め方・ルールを学ぶ。 更にグループ別の練習を取り入れて基礎的な技能の向上を養う。 各グループの力が均等になる様に分けてリーグ戦を行う。 ゲームでは、主審、ラインズマンを各自、一度は経験してもらう。 準備体操各種を各自で行える様にする。
講義概要		基本的にゲーム中心で行うが、ゲームの中でボールを扱える様に各自または、各チームでキック等の練習を取り入れる。 ビデオ等で審判のやり方を学び、ゲームで実際に経験する。 出欠点呼を毎回実施し、やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。 雨天時には3棟1階の体育掲示板で集合場所等を指示する。 着替えを忘れた者は授業への出席を認めない。 見学者は着替えた後に出席すること。 授業はサッカー場で実施する。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上・リーグ戦の成績を加味して評価する。
受講者に対する要望など		出欠状況は各自で覚えておくこと。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料の作成。
2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方。　キック・トラップ等の練習を行い、ゲームでしめくくる。
3	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
4	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
5	準備体操を毎回実施する。基礎的な練習時間を取り、ゲーム的要素を持つ練習の後、ゲームを行う。
6	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
7	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
8	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
9	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
10	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
11	チームが均等になる様に分けて、リーグ戦を行い、記録する。審判、ラインズマン等をつける。
12	チームの成績を発表する。オールコートでゲームを実施する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
2	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
3	夏季休業明け為、ストレッチ体操等の準備体操、ボールを使用してのゲーム要素を持つ練習に時間を多くとる。
4	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
5	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
6	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
7	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
8	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
9	後期・リーグ治を行う。審判、ラインズマン等をつけて、記録する。
10	チーム成績発表する。　オールコートでゲームを行う。
11	オールコートでゲームを行う。
12	オールコートでゲームを行う。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ サッカー	担当者名	福井真司

講義の目標	サッカーの楽しさを理解し基礎的技術を身につけて、生涯を通じてサッカーを親しめるようになる。また、ルール、審判法、作戦、健康、安全に対する態度などを習得する。	
講義概要	各週の授業は、主要テーマ以外に簡易ゲームも行う。	
使用教材	テキスト	ナシ
	参考文献	ナシ
評価方法	出席、態度、技術等から評価する。技術評価として簡単なテストを行う。	
受講者に対する要望など	・授業実施場所：サッカー場（雨天などによる実施場所の変更連絡は、３棟体育掲示板で指示する）・授業の進行状況により、変更の場合もある。・１週目の授業には筆記用具を準備すること。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション（学習上の注意、服装、用具等について）　サッカーとケガ、準備体操について
2	ボールに慣れる（ボールリフティング、ボールタッチ）
3	サッカーに必要な基本的な走力を身につける
4	パスとシュート（キック、ヘディング）
5	ドリブルとフェイント
6	1対1の攻防（マーク、タックル練習）
7	トラッピングからシュート
8	2対1（パスとドリブルからシュートまで）
9	浮いたボールの処理、せり合い
10	パス連続ゲーム
11	ミニゲーム、簡単なルールと審判法
12	ミニゲーム
備考	

後期

週	主要テーマ
1	前期の復習
2	前期の復習
3	壁パス、スルーパス、センタリングからシュート（ゴールキープ）
4	フリーキック、コーナーキック、スローインからの攻防
5	ゴールを使用しての守備と攻撃（システムの決定）
6	正規のゲーム（練習ゲーム、ルールと審判法）
7	正規のゲーム（練習ゲーム、ルールと審判法）
8	正規のゲーム（リーグ戦）
9	正規のゲーム（リーグ戦）
10	正規のゲーム（リーグ戦）
11	正規のゲーム（リーグ戦）
12	正規のゲーム（リーグ戦）
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ サッカー	担当者名	松本光弘

講義の目標		サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して体力の向上も合せて目標とする。内容的には高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。
講義概要		サッカーの技術と戦術と各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時も体育館で実技を行うか、教室にて講義等を行う。
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能程度を総合して評価する。
受講者に対する要望など		ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツが用意できればさらに良い。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション、種目分け
2	体力測定、12分間走　簡単なゲーム
3	技術練習とハーフゲーム
4	技術練習とハーフゲーム
5	技術練習とハーフゲーム
6	ルールの解説（講義）
7	個人戦術とハーフゲーム
8	個人戦術とハーフゲーム
9	個人戦術とハーフゲーム
10	グループ戦術とハーフゲーム
11	グループ戦術とハーフゲーム
12	サッカーの歴史（講義）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	チーム戦術とミニゲーム
2	チーム戦術とミニゲーム
3	チーム戦術とミニゲーム
4	攻撃におけるグループ戦術とミニゲーム
5	守備におけるグループ戦術とミニゲーム
6	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
7	グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム
8	フルゲーム
9	フルゲーム
10	フルゲーム
11	フルゲーム
12	フルゲーム　評価
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ サッカー	担当者名	松原　裕

講義の目標	「大学は学問を通じてこ人間形成の場である」という建学の理念に基づき、サッカーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。	
講義概要	選択の際には男女・技術レベルは問わないが、4－4－3の試合ができるようになることを目標とする。一チーム12人×3チーム＝36名を定員とし、40名以上は抽選となる。 基本練習は、VTRを見て共通のイメージを作ってから行なう。前期は、分習法が主体となる。後期はゲーム中心の全習法が主体となる。 グラウンドが使用できない場合には他の場所を使用して練習するか、基本的な理論を講義する。	
使用教材	テキスト	VTR「サッカー・コーチング・バイブル」　田嶋幸三　監修
	参考文献	・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL1」 ・VTR「ヒストリー・オブ・ザ・ワールドカップ VOL2」
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。	
受講者に対する要望など	出来るだけサッカーシューズを各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。	

年間講義予定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション　○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意
2	基本トレーニング①　○ボール遊びと幼児のトレーニング
3	基本トレーニング②　○基本技術とウォーミングアップ
4	パス・コントロール
5	シュート
6	1vs1の攻防
7	グループの戦術①・攻撃
8	グループの戦術②・守備
9	ゴールキーパー
10	1－4－4－3スタイルのゲーム
11	1－4－4－3スタイルのゲーム
12	テスト　○審判法　○ルール　○プレイヤーのマナー
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期授業のダイジェスト
2	チーム分けとゲーム
3	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦①
4	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦②
5	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦③
6	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦④
7	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦⑤
8	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦⑥
9	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦⑦
10	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦⑧
11	1－4－4－3スタイルでのリーグ戦⑨
12	総合テストまたはレポート
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・スキートレーニング ・スキー（集中授業）	担当者名	松原　裕

講義の目標		「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、アルペンスキーを通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。
講義概要		選択の際には男女・技術レベルは問わないが、アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラースキー・ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40名以上は抽選となる。 スキー実習は2月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定している。
使用教材	テキスト	板垣和男／佐々木明男著 『ベーシック・スキー・テキスト』
	参考文献	・VTR「THIS IS THE　オーストリアスキー」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル2」
評価方法		毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。
受講者に対する要望など		学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション　○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意 ＊第２週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	ローラーブレード①　○サイズ合せ　○基本滑走
2	ローラーブレード②　○デモビデオでのイメージトレーニング　○基本滑走
3	ストックワーク①　○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク　○ストックワーク
4	ストックワーク②　○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー①　○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー②　○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③　○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③　○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	スキー実習のオリエンテーション①　○テキスト配布　○スキー指導法　○スキーの基本理論
11	スキー実習のオリエンテーション②　○スキーの基本理論・応用　○スキー実習実施上の注意
12	スキー実習のオリエンテーション③　○スキーの基本理論・応用　○スキー実習実施上の注意
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・スキー検定トレーニング ・スキー検定（集中授業）	担当者名	松原　裕

講義の目標	「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、SAJ 基礎スキー検定を通じてフェアプレーを多角的に理解し習得する事を目標とする。	
講義概要	選択の際には男女は問わないが、技術レベルとしてはリフトに乗って中斜面を滑った程度以上を目安とする。 SAJ 基礎スキー検定の基本を理解し、身に付けることを目標とし、学内の授業では、ローラースキー・ローラーブレード等のバランス感覚、ストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。40 名以上は抽選となる。 スキー実習は 12 月下旬長野県斑尾高原サンパティックスキー場を予定している。	
使用教材	テキスト	『日本スキー教程』　全日本スキー連盟編
	参考文献	・VTR「基礎スキー検定」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル 1」 ・VTR「スキー王国の上達マニュアル 2」
評価方法	毎時間の出欠席、受講態度、技術の進歩、テストなどを総合して評価する。服装も評価の対象となる。遅刻は認めないのでその時間の実技を受講できない場合がある。	
受講者に対する要望など	学内、集中ともに適合した用具を各自で用意する事。受講生の能力によって授業内容が決定されることなく、常に工夫してレベル向上を目指す態度を持ち続ける事。集中授業で団体生活ができる事。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション　○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意 ＊第２週より前期は授業がありません。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ローラーブレード①　○サイズ合せ　○基本滑走
2	ローラーブレード②　○デモビデオでのイメージトレーニング　○基本滑走
3	ストックワーク①　○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク　○ストックワーク
4	ストックワーク②　○ターンイメージの中でのストックワーク
5	ローラーブレード・ローラースキー①　○滑走しながらのストックワーク
6	ローラーブレード・ローラースキー②　○スラローム滑走しながらのストックワーク
7	ローラーブレード・ローラースキー③　○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
8	ストックワーク③　○正しい姿勢の反復練習
9	総合練習
10	総合練習
11	スキー実習のオリエンテーション
12	スキー実習の反省
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソーシャルダンス	担当者名	青　柳　多恵子

講義の目標		日本人は日常の生活が西洋化されているにも関わらず、所作やダンスに対する考え方は日本的な領域から脱皮していない。国際的な挨拶の型である“握手”と同様、今ではコミュニケーションの大きな分野としての“踊る”意味を考えることと合わせて、組んで踊るための基本的な動き方と音楽との関連を踊りながら知ることをめざしたものです。
講義概要		ソーシャル・ダンスの初歩の歩行から、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャなどの技術的なことと同時に、踊るための体力の養成をし、踊ることの楽しさと、音楽にのって自由に動けるテクニックを訓練する。しかし、特殊な難しいことでなく、歩ける人と音楽を楽しめる人であれば誰でも出来る、また楽しい生涯体育の一つです。
使用教材	テキスト	ソーシャルダンス基礎編（配布）
	参考文献	
評価方法		出席を重視する。ただし、ワルツ・ルンバをマスターする事。
受講者に対する要望など		ダンスは男女同数しか受付けません。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業概要の説明
2	ダンスの歩行・ステップの説明　ブルース・マンボのリズムにのって
3	ワルツ・ブルース・マンボ
4	ワルツ（チェンジステップ・ナチュラルターン）ブルース・マンボ
5	ワルツ（チェンジステップ・ナチュラルターン）ブルース・マンボ
6	ルンバ（スクエアー）ブルース（クォーターターン）
7	ルンバ（スクエアー）ブルース（クォーターターン）
8	VTR　タンゴ・ワルツ・ブルース・ルンバ
9	タンゴ（リンク・）ワルツ・ブルース・ルンバ
10	チャチャ・ジャイブ
11	チャチャ・ジャイブ
12	VTR 撮影　総まとめ
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習　ステップの解説
2	前期の VTR の解説　ワルツ・ジャイブ・ルンバ
3	ワルツ（スピンターン・フィスク）キュウバンルンバ
4	ワルツ（スピンターン・フィスク）キュウバンルンバ
5	チャチャ・キュウバンルンバ
6	チャチャ・キュウバンルンバ
7	VTR　ジャイブ・
8	VTR　ワルツ
9	VTR　ルンバ
10	VTR　ブルース
11	VTR　総まとめ
12	VTR 映写　解説
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソフトボール	担当者名	池垣功一

講義の目標	正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。	
講義概要	前期の前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。後期は試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等）を加味して行なう。	
受講者に対する要望など	前・後期とも、雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
9	審判の方法についての説明 チームの編成(1)（ポジション・打順を決める） 練習試合
10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合 A～B、C～D
11	チーム練習（トスバッティング） 試合 A～C、B～D
12	チーム練習（バント） 試合 A～D、B～C
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期に学習した内容の総合的練習(1) 審判方法の復習
2	前期に学習した内容の総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明
3	チーム編成(2)（以下、各々試合３回ごとに編成をかえる） 練習試合
4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合 E～F、G～H
5	チーム練習 試合 E～G、F～H
6	チーム練習 試合 E～H、F～G
7	チーム編成(3) チーム練習 試合 I～J、K～L
8	チーム練習 試合 I～K、J～L
9	チーム練習 試合I～L、J～K
10	チーム編成(4) チーム練習 試合 M～N、O～P
11	チーム練習 試合 M～O、N～P
12	チーム練習 試合 M～P、N～O
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソフトボール	担当者名	太田朝博

講義の目標	ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。	
講義概要	個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しいスローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。 ・個人的技能　捕球――送球　遠投 ・ゲーム結果（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 欠席時数７回以上の者に対しては、評価の対象としない。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	個人的技能　基本技能 キャッチング
2	スローイング　1対1での正確な技能の習得 バッティング　ノックとトスバッティング、
3	フリーバッティング 正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかり身につける
4	ピッチング
5	集団的技能　連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
6	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
7	ダブルプレー バントの処理と各野手の動き
8	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
9	ルールの解説とスコアーのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
10	簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
11	
12	
備考	

後期

週	主要テーマ	
1	個人技能 集団技能　の反復練習	ゲーム　・個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくならないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
2	キャッチボール トス、フリーバッティング	・簡単なスコアーをつけ個々の成績（打率、盗塁、打点など）を集計し成績を出し、技能を競い合う。
3	ピッチング	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソフトボール	担当者名	小川　又八朗

講義の目標	ソフトボールの特性や技術構造を理解し、それらを構成する基礎的な体力や技術、戦術などの習得を中心にして、ゲーム展開の方法を高める。	
講義概要	ソフトボールは野球ににた球技が、1932年から統一される努力がなされ、今日「ソフトボール」という1つの球技になったものである。 「投げる」「捕える」「打つ」「走る」といった運動の基本動作を複雑に組み合わせて行われる球技であり、「いつでも」「どこでも」「だれでも」手軽に行える球技で老若男女がその技術水準に応じて、競技的にも、レクリエーション的にも行える球技でスポーツマンらしいプレーが出来るようにする。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法	出席点呼を毎回実施し、出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	
受講者に対する要望など	授業実施場所、野球場　ＡＢ。 雨天の場合教室に於てルール及びゲームをビデオで見て技術、戦術の学習をする。	

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション（体育館）、登録の確認と授業内容の説明　個人の資料作成等。
2	ソフトボールの歴史や特性をはじめとしてゲーム構造や基本ルールなどを講義する、球の握り方やキャッチボールなど防御の個人技能を実習する。
3	バッティングやセーフティーバントなど攻撃の個人技能を実習する、ヒットエンドランなどの集団技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	投手のピッチングを中心にした防御技能を実習する、ゴロや飛球に対するフィールディングを中心にした防御の個人技能を実習する、簡易ルールでゲームの攻防実習する。
7	上記と同じ。
8	併殺や長打のカットオフとリレーなどの攻防の集団技能を実習する、球審や塁審の個人技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
9	上記と同じ。
10	4チームによるリーグ戦　①。
11	リーグ戦　②。
12	リーグ戦　③、前期まとめテスト。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習、簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
2	上記と同じ。
3	盗塁阻止やランダウンなど攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
4	上記と同じ。
5	上記と同じ。
6	得点圏に走者を置いた攻防の集団技能を実習する、正式なルールでゲームの攻防を実習する。
7	上記と同じ。
8	上記と同じ。
9	4チームによるリーグ戦　①。
10	リーグ戦　②。
11	リーグ戦　③。
12	ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする、ルールやセオリー、審判法など知的理解度をテストする。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソフトボール	担当者名	萩野元祐

講義の目標	基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。	
講義概要	初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数7回以上の者については評価の対象としない。 交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション（体育館）。　登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。　個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。　独自ルールでのゲーム実施。
4	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。　独自ルールでゲームの実習。
5	前回の復習。　独自ルールでのゲーム実施。
6	前回までの復習。バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。　独自ルールでのゲーム実施。
7	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。　独自ルールでゲームの実習。
8	前回の復習。　独自ルールでのゲーム実施。
9	投手のボールの握り方と投法練習。　独自ルールでゲームの実習。
10	前回の復習。　4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
11	前期の復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。　リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習。　独自ルールでゲームを実施。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。　4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。　リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。　リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。　リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソフトボール	担当者名	田代力也

講義の目標	打つ、走る、投げる、捕える等の基本的運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。	
講義概要	打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、チームの中での協調性について評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第１週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ソフトボール	担当者名	檜山　康

講義の目標		①ソフトボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。 ②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。
講義概要		①やさしいルールで、ストレートヒッティングを中心にした攻め方とそれに対応した守り方によるゲームを楽しむ。 ②ヒットエンドランやスクイズを使った作戦的な攻め方とそれに対応した守り方を工夫してゲームを楽しむ。
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。
受講者に対する要望など		雨天時は、室内において他種目、または教室にて講義を行う。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	簡略化したルールで試しのゲームを行う。安全上の注意も行う。
3	ボールに慣れる。 キャッチボールとトスバッティング
4	守備の練習① ゴロの捕球とスローイング、フライの捕球とスローイング
5	守備の練習② 内野守備と外野守備における連系プレー
6	守備の練習③ バントとその守備。盗塁とその守備。
7	攻撃の練習。 フリーバッティング、バッティングの基礎。
8	攻撃 練習。 ヒットエンドランの攻撃方法について
9	チーム別の練習ゲーム ルール、審判法について学ぶ
10	チーム別のリーグ戦①
11	チーム別のリーグ戦②
12	チーム別のリーグ戦③
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チーム編成を変え、試しのゲームを行う。
2	守備の練習① ポジション別の具体的な役割を知る。実戦に応じた動き。
3	守備の練習② 2週目の課題について様々な状況を設定して更に学ぶ。
4	攻撃の練習① ベースランニングの方法、実践に応じたランニング、スライディング。
5	攻撃の練習② 4週目の課題について、バッティングと組み合わせて学ぶ
6	チーム別のリーグ戦① 毎回のゲームの反省を生かしてチーム別に練習ができるようにする。
7	チーム別のリーグ戦②
8	チーム別のリーグ戦③
9	チーム別のリーグ戦④
10	チーム別のリーグ戦⑤
11	チーム別のトーナメント戦①
12	チーム別のトーナメント戦②
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・ソフトボール ・スキー（集中授業）	担当者名	田代力也

講義の目標	・ソフトボール 打つ、走る、捕える、投げる等の基本運動能力を高める。 チームゲームを通じて協調性を高める。 ・スキー 生涯スポーツとしてのスキーを認識する。 理論と実技の中で、技術の習得、安全なスキーを学ぶ。	
講義概要	・ソフトボール 打撃、守備の基本練習からゲームに移行する。時限毎にゲームのポイントを指摘し確認する。 ・スキー 体力、技術程度により班別講習を行なう。“スキーはリズム”をテーマとする。ビデオによって各自のすべりの分析を行ない、技術向上への資料とする。ソフトボールと並行してスキーのトレーニングを行なう。	
使用教材	テキスト	ベーシックスキーテキスト
	参考文献	
評価方法	出席状況、遅刻、見学、参加態度に加えて、技術、技術を高めることへの努力、またソフトボールについては、チームの中での協調性について評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間講義予定については第１週の授業で指示する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 卓球	担当者名	天野和彦

講義の目標	卓球の基本的知識を学習するとともに、技能の向上をはかる。	
講義概要	ゲームを中心に行い、その中で、ルール、打法、ゲームのすすめ方を紹介する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	ラリーの連続を行うために①——コントロール
3	ラリーの連続を行うために②——サービスとレシーブ
4	シングルスの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
5	シングルスの簡易ゲームを行い、グループ編成をする。
6	グループ別でのシングルスゲーム
7	グループ別でのシングルスゲーム
8	グループ別でのシングルスゲーム
9	上級者と初級者のペアで、ダブルスの練習
10	ダブルスゲームのリーグ戦
11	ダブルスゲームのリーグ戦
12	ダブルスゲームのリーグ戦
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ラリーの連続を行うために③——いろいろな打法
2	全員によるシングルストーナメント
3	全員によるシングルストーナメント
4	能力別でのダブルスゲーム
5	能力別でのダブルスゲーム
6	能力別でのダブルスゲーム
7	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
8	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
9	グループを編成し、グループ対抗のリーグ戦を行う
10	全員によるダブルストーナメント
11	全員によるダブルストーナメント
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 卓　球	担当者名	奥　野　忠　枝

講義の目標	卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。 ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。	
講義概要		
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業登録の確認　授業内容の説明と諸注意　個人資料の作成
2	競技場と用具について（準備と片付け方）　ラケットの種類、持ち方
3	ボールの打ち方　ラリーの連続を行う。　ミニ試合
4	サービス、レシーブの練習　ミニ試合
5	バックハンド　フォアハンドの練習　シングルスの試合方法と試合
6	サービスについて　ボールの回転とラケットの動きを練習　シングルス試合
7	審判法について学ぶ
8	ダブルス競技のルールを学ぶ　ダブルスミニ試合
9	グループでリーグ戦形式のダブルス試合
10	上記に同じ
11	シングルス試合
12	前期のまとめ　シングルス試合
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習　基本の動き　シングルス試合
2	カットについて学ぶ　シングルス試合
3	マナーについて　悪いマナー　良いマナー
4	ダブルの作戦おパートナーとの動きについて
5	グループでダブルの試合
6	上に同じ
7	上に同じ
8	上に同じ
9	シングルスのトーナメント試合
10	シングルス　ダブルスにわかれて試合
11	総復習
12	総復習と反省
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 卓　球	担当者名	中　川　　昭

講義の目標	卓球の技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。	
講義概要	毎時間、基本となる技術練習を行い、ゲーム（シングルス・ダブルス）を行う。また、体力の向上を狙いとしたトレーニングを毎時間、授業の初めに行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。	
受講者に対する要望など	必ず、運動ができる服装に着がえて授業に出てくること。	

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
3	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
4	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（シングルス）
5	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、基本練習、ためしのゲーム（ダブルス）
8	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
9	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
10	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
11	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
12	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（シングルス）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
2	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
3	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
4	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
5	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
6	体力トレーニング、基本練習、リーグ戦のゲーム（ダブルス）
7	体力トレーニング、班対抗のゲーム
8	体力トレーニング、班対抗のゲーム
9	体力トレーニング、班対抗のゲーム
10	体力トレーニング、班対抗のゲーム
11	体力トレーニング、班対抗のゲーム
12	体力トレーニング、班対抗のゲーム
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 卓　球	担当者名	本　田　稔　祐

講義の目標		卓球を通じて、運動をする習慣を身につけ、生涯体育として健康の維持増進をはかるとともに、卓球の基本動作、ルールなどについても勉強し、技能の向上を計るとともに、社会生活の中でもそれらを活用できるようにすることをめざす。
講義概要		卓球についてのビデオを見て、基本練習を通じてラリーを続けられるようにし、集中力を養う。また、サービスとレシーブの重要性を理解させ簡単なゲームができること。審判ができるようにルールについても勉強していく。ゲームは、簡単なものから、個人ゲーム、ダブルスゲーム、団体対抗ゲームと進めていく。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	特になし
評価方法		評価は出席点を中心とし、技能の進歩の度合、平素の授業態度、特に服装の適否なども加味して行なう。尚欠席が７回以上の者は、評価はＦとする。やむを得ず欠席した場合はできるだけ早く口頭で届け出ること。
受講者に対する要望など		欠席、遅刻はしないこと。服装は体育に適したもの。Ｇパンは認めない。靴も、ゴム底の運動靴を使用すること。用具については、大学で用意するが、ラケットはできるだけ各人で用意すること。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業登録の確認と、個人の資料作成、授業内容の説明。
2	教室でビデオを見て、基本的知識を修得する。
3	準備運動の実施方法　簡単な能力テストをし、能力別のグループ作成。　ルールについて説明。
4	シングルスのゲーム（リーグ戦）　初心者は、基本練習。
5	シングルスのゲーム（リーグ戦）　初心者は、基本練習。
6	シングルスのゲーム（リーグ戦）　初心者は、基本練習。
7	シングルスのゲーム（リーグ戦）　初心者は、基本練習。
8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）
12	全員を抽選により、トーナメント試合
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	トーナメント試合
2	トーナメント試合
3	トーナメント試合
4	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
5	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
6	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
7	グループを作り、対抗のリーグ戦を実施。
8	シングルス及び、ダブルスゲーム
9	シングルス及び、ダブルスゲーム
10	シングルス及び、ダブルスゲーム
11	シングルス及び、ダブルスゲーム
12	技能テスト
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 軟式野球	担当者名	太田朝博

講義の目標	野球は、守備と攻撃を規則的に交代しあってゲームを展開し、一定回数内の得点を競い合うスポーツである。投球、捕球、打撃、走塁などの基本的な個人技能を習熟するとともに、スクイズ、バントエンドラン、ヒットエンドランなどの攻撃法やバントシフト、ピックオフプレー、カットプレーなどの防御法を通して集団的技能を身につける。これらのことを基礎にして、ゲームでは、個人的、集団的技能を生かした作戦をたてて組織的なゲーム展開が出来るようにする。	
講義概要	個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、スピード感のある高度なゲーム展開が出来ることを目指し授業を進める。 雨天等で実技が出来ない時はルールの解説、スコアーのつけ方、ビデオなどを見て学習。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席点を中心にして評価し、授業態度、技能の進歩などを加味する。 ・個人的技能――捕球――送球　遠球 ・ゲーム結果――（集団、個人技能）等を総合的に見て評価する。 欠席時数７回以上の者に対しては、評価の対象としない。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション　登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成
2	個人的技能　基本技能 キャッチング
3	スローイング　1対1での正確な技能の習得 バッティング　ノックとトスバッティング、フリーバッティング、バント
4	正確なキャッチングとスローイング、バッティングをしっかりと身につける ピッチング
5	⇩
6	集団的技能　連携プレー 攻撃＝バント及びヒットエンドラン
7	タッチアッププレー 守備＝フォースプレー
8	ダブルプレー バント処理と野手の動き
9	カバーリング あらゆるプレーに対するフォーメーション
10	ルールの解説とスコアーのつけ方（ワンプレーに対する判定法）
11	簡易ゲーム　簡易なゲームを通し事前に練習したプレーの確認とルールの習得。
12	⇩
備考	

後期

週	主要テーマ	
1	個人技能 集団技能 の反復練習	
2	キャッチング トス、フリーバッティング	ゲーム　個々の技量を考えチーム間の力量の差が大きくならないようにチーム編成し、リーグ戦を行なう。
3	シフト打撃 ピッチング	スコアーをつけ個人の打撃成績（打率・盗塁・打点など）を集計し技能を競い合う。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12	⇩	⇩
備考		

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ 軟式野球	担当者名	萩野元祐

講義の目標	基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむということも目標のひとつである。	
講義概要	初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、軟式野球の特性や、技術、戦術を高める。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数７回以上の者については評価の対象としない。 交通機関及び体調などやむえない理由以外の遅刻は認めない。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション（体育館）。　登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。　個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
3	前回の復習。　バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。
4	前回の復習。　ゲーム形式で練習。
5	バンドのグリップ、スタンス、セフティバンド　ゲーム形式で練習。
6	前回の復習。　ゲーム形式で練習。
7	投手のボールの握り方と投法練習。　4チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
8	守備における送球、補球（ゴロ、フライ）練習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
9	前回の復習。　リーグ戦、（A対D、B対C）
10	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止練習。　リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
11	前回の復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
12	ゲームの攻防を通してテスト。　リーグ戦、（A対D、B対C）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期の復習。　練習形式のゲーム。
2	上記と同じ。
3	集団技能（守備）、バックアップを練習。　チームによるリーグ戦。（A対B、C対D）
4	前回の復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
5	集団技能（守備）、リレープレイを練習。　リーグ戦、（A対D、B対C）
6	前回の復習。　リーグ戦2巡目、（A対B、C対D）
7	集団技能を復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
8	スクイズプレイの練習。　リーグ戦、（A対D、B対C）
9	ダブルプレイの練習。　リーグ戦3巡目、（A対B、C対D）
10	前回の復習。　リーグ戦、（A対C、B対D）
11	リーグ戦、（A対D、B対C）
12	ゲームの攻防を通してテスト。
備考	

科　目　名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バスケットボール	担当者名	小　川　又八朗

講義の目標		バスケットボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。
講義概要		個人技能に習熟し、自分の能力が集団の中でよく発揮できるようにするためにはいつも集中して練習ができるように習慣づける。スピードあるいろいろな動きの中でも、相手との攻防でタイミングを合わせ、からだやボールをコントロールができるようにする。チームがよくまとまり、個人の特徴を生かした作戦が考えられ、それぞれの役割を果すことができるようにする。技術や練習法を学び、ルールを理解し、授業などでも審判の判定を公正にでき、プレーヤーとしてもすなおに判定に従う態度がとれるようにする。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	
評価方法		出席点呼を毎回実施し出席点を中心に評価し授業態度（服装）技能の進歩などを加味する。欠課時数が多い者については評価の対象としない、交通機関及び体調等なむを得ない事由以外の遅刻は認めない。
受講者に対する要望など		授業実施場所、体育館　ABコート。 体育館シューズを用意すること。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション（体育館）、登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成等。
2	授業に関してのオリエンテーション、個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）。
3	個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス、ドリブルシュート）、個人技能（パス、ドリブル　シュート、リバウディング）。
4	個人技能（パス、ドリブル　シュート、リバウディング）、1対1の攻防、ハーフコート於てゲーム。
5	上記と同じ。
6	2対2の攻防、ハーフコート於てゲーム、3対3の攻防、ハーフコート於てゲーム。
7	対人防御と地域防御に対する攻撃法、(1)　ゲーム、対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2)　ゲーム。
8	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1)　ゲーム、地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2)　ゲーム。
9	リーグ戦形式によるゲーム。
10	リーグ戦形式によるゲーム。
11	リーグ戦形式によるゲーム。
12	リーグ戦形式によるゲーム、ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の復習、チーム再編成、個人技能（ボディーコントロール、ボールハンドリング、パス）。
2	個人技能、（ボールハンドリング、パス、ドリブル　シュート）。
3	速攻攻撃法、(1)　ゲーム、速攻攻撃法、(2)　ゲーム。
4	上記と同じ。
5	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(1)　リーグ戦形式によるゲーム。
6	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(2)　リーグ戦形式によるゲーム。
7	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(3)　リーグ戦形式によるゲーム。
8	対人防御と対人防御に対する攻撃法、(4)。
9	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(1)　リーグ戦形式によるゲーム。
10	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(2)　リーグ戦形式によるゲーム。
11	地域防御と地域防御に対する攻撃法、(3)。
12	リーグ戦形式によるゲーム、まとめのテスト。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バスケットボール	担当者名	勝瀬　武

講義の目標		体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。
講義概要		バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲームの時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	なし
評価方法		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション
2	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
3	基本練習（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
4	セットオフフェンス　（ハーフコートにおける　3対2）
5	セットディフェンス　（ハーフコートにおける　5対5）
6	オールコートにおける試合（班分けをする）
7	オールコートにおける試合（班分けをする）
8	リーグ戦開始（前期）　（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
9	リーグ戦開始（前期）　（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
10	リーグ戦開始（前期）　（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
11	リーグ戦開始（前期）　（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
12	リーグ戦開始（前期）　（試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強をしてもらう）
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	後期リーグ戦前の予備試合　（後期リーグのためにチームの再編成）
2	後期リーグ戦前の予備試合　（後期リーグのためにチームの再編成）
3	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
4	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
5	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
6	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
7	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
8	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
9	後期リーグ戦開始　（試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める）
10	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
11	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
12	後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バスケットボール	担当者名	檜山　康

講義の目標		①バスケットボールの特性を知り、自分たちの技能に応じた攻め方、守り方とルールを工夫してゲームを楽しむ。 ②マナーや安全の大切さを知って、楽しく学習が進められるようにする。
講義概要		①やさしいルールで、速攻や、守備のあいているスペースをつく攻撃と、マンツーマン防御によるゲームを楽しむ。 ②工夫したルールで、ギブアンドゴープレイやスクリーンプレイなどを用いた攻撃と、互いに協力し合うマンツーマン防御やゾーン防御でゲームを楽しむ。
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法		評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。
受講者に対する要望など		室内シューズを必ず着用のこと。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション
2	１年間の授業内容の説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。
4	パスの方法と速攻の練習。速攻を生かしたゲーム。チームは固定せず、編成を変えながらゲームを行う。
5	ショットの方法について①　レイアップショットとランニングショット。　ショットの方法に注意してゲームを行う。
6	ショットの方法について②　ジャンプショットとターンショットなど。　ショットの方法に注意してゲームを行う。
7	ディフェンスの方法について①　マンツーマン・ディフェンスについて。
8	ディフェンスの方法について②　ゾーン・ディフェンスについて。
9	ディフェンスの方法について③　マンツーマンとゾーンを使い分ける。
10	リーグ戦①（チーム固定）　班別、チーム別練習
11	リーグ戦②　班別、チーム別練習
12	リーグ戦③　班別、チーム別練習
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	チーム分け。試しのゲーム
2	オフェンスの方法①　カットインプレイ
3	オフェンスの方法②　スクリーンプレイ（インサイド、アウトサイド）
4	オフェンスの方法③　３人で行うスクリーンプレイ
5	オフェンスの方法④　ハイポストからの攻撃
6	３対２の攻防　今までのオフェンスの方法を組み合わせる。
7	練習ゲーム①　スクリーンプレイ、ゾーンディフェンス、３点シュート制などを取り入れて、力が同じ程度のチームにくり返し挑戦する。
8	練習ゲーム②
9	リーグ戦①
10	リーグ戦②
11	リーグ戦③
12	リーグ戦④
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バドミントン	担当者名	梶野克之

講義の目標		ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、バドミントンの基本的なプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合方法を理解して実践できるようにするとともに、審判法についても充分に理解し、進んで審判ができるようにする。バドミントンの全般的な理解とともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせるようにすることを目標としたい。
講義概要		バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習したプレーが生かせるようにするとともに、課題を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判をつとめるとともに、ゲームの進行にも関心を持ち、授業が円滑に進行するように努力する。
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	・相沢マチ子『やさしいバドミントンレッスン』 1983、ベースボールマガジン社 ・阿部一佳、渡辺雅弘『基本レッスンバドミントン』 1985、大修館書店
評価方法		評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。
受講者に対する要望など		毎回出席を原則とし、毎週新しい技術の習得を目指したい。より効果をあげるために出席して、努力してほしい。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーに近ずける。
3	前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行うが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスをカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合結果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッテングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合せを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの内で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合せを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バドミントンⅡ	担当者名	梶野克之

講義の目標		バドミントンの授業を受講した者や経験者を対象とした授業としたい。バドミントンの各種のプレーの練習を通して、身体活動の必要性を理解するとともに、体力の維持向上をはかる。シングルス、ダブルスの試合を実践することを通して技術の向上とともに、審判法についても理解を深める。バドミントンをより深く理解するとともに、体力の維持向上をはかり、今後の生活の中に生かせることを目標としたい。
講義概要		バドミントンに関してのルールや技術についてより深い理解をする。各種のストロークの正確性をより向上させる。シングルス・ダブルスの試合を実施し、ゲームの中でのプレーについて反省し課題の克服を目ざす。より高いレベルのゲームを求めて練習に取り組む。審判を進んで実施するとともに、全体の進行状況にも関心を寝ち、ゲーム・授業が円滑に進行するように心掛ける。
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	・『基本レッスンバドミントン』、阿部一佳渡辺雅弘、1985、大修館書店 ・『ウィニングバドミントン〔シングルス〕』 ・『ウィニングバドミントン〔ダブルス〕』、阿部一佳他訳、Jake Downey、1990、大修館書店
評価方法		評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。
受講者に対する要望など		より効果的な授業とするために、毎回の出席を原則とする。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認をする。
2	バドミントン競技の全般的な説明を行う。コート・ラケット・シャトル等についての解説をする。基本的なグリップの説明を行い、素振りによりストロークの基本を学ぶ。ネットをはさんでクリヤーに近ずける。
3	前回に練習した基本的なストロークを、相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーの構えから、シャトルをコントロールしてネット際に落とすドロップを学ぶ。
4	前回までのクリヤー・ドロップの復習をする。ネット近くで小さくコントロールするヘアピンの練習をする。最初はネット近くに構えて行うが、慣れてきたら、中央近くに位置し前方へのフットワークを学ぶ。
5	前回までの各種のストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打つ、サーブの基本となる動作を学ぶ。コートを縦半分を使い、これまで練習した各種ストロークを自由に打ちあってみる。
6	前回までの各種ストロークを課題をきめて練習する。前週の半面シングルスをカウントをとって実施する。縦半分の広さであるので、前後の動きを課題として試合形式で行う。
7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法について理解し進んで審判を行うようにする。試合給果について記録し、上達度の参考とする。
8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込めるようにする。全面を使用した正規のシングルスのゲームを実施する。
9	前回までの各種ストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるシャトルに慣れる。前回に続いて正規のシングルスのゲームを実施する。
10	前回までのストロークを課題をきめて練習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、ホームポジションから後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合形式のダブルスを実施する。
11	前回までのストロークを復習する。ダブルスの基本的なフォーメーションを学び、練習する。ダブルスのルールについて理解し、試合を実施すると同時に、審判法の理解も深める。
12	前回までのストロークを復習する。全体をいくつかのグループに分け、総あたりのリーグ戦を実施する。進行係を決めて、試合及び審判が円滑に進行するようにする。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合進行方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を実施する。バドミントンを久しぶりに行う者が多いので、前期の感覚を思い出させる。
2	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、いくつかのグループによりリーグ戦を再開する。セッテングについて説明を行い、理解を深める。
3	ハイクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションについてパートナーと確認し、ゲームの中で実施できるように心がける。
4	パートナーとクリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し問題点を整理する。前回に引き続き、ダブルスゲームを実施する。
5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲーム結果を分析し、問題点を整理する。ゲームの進行状態を確認し、組み合せを変えてリーグ戦を進める。
6	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダブルスゲームを進行し、練習した課題がゲームの内で実際に使えるように努力し、ゲームの質を高める。
7	ハイクリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。引き続き、ダブルスゲームを進行し、ゲームのおもしろさを理解し、進んでゲーム・審判を行う。
8	クリヤーから開始し、自分達の課題とするストロークの練習をする。ダ引き続きゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。パートナーと相談しながらより高いレベルのゲームを心掛ける。
9	クリヤーから開始し、各種ストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を集中して練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合せを考える。
10	クリヤーから開始し、課題となるストロークの練習をする。パートナーと相談し、ゲームの中で相手プレヤーの動きに合わせたプレーの練習をする。引き続きゲームを進める。
11	クリヤーから開始し、ストロークの練習をする。パートナーとゲームの中での問題点を整理し練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行するようにする。
12	ゲームの進行を確認し、勝負、順位などについて整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントンとの関わりや、体育・身体運動との関わりについて考える。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バレーボール （火曜１．２限目、水曜１．２限目）	担当者名	小　俣　　充

講義の目標		バレーボールの面白さの経験とそれによる運動欲求の充足を目指す。また自らの努力と、他の努力を促すことによりチームの仲間意識（存在意識）を育む。
講義概要		ゲームに向けた基礎とその動作を確かなものにする意識の働きについて学ぶ。また基礎を簡潔にまとめ、その動作を繰り返し練習する。続いてリーグ戦を行い、勝つことを目指して力を合わせ気持ちを集中し、その楽しさと充足感を経験する。
使用教材	テキスト	
	参考文献	１スポーツとルールの社会学 守能信次著、名古屋大学出版会 ２スポーツ・人間・社会 ライナー・マートンズ、ベースボール・マガジン社 ３人と人との間 木村　敏、弘文堂
評価方法		出席回数をベースにし、どれほど自ら努力しまた他の努力を促したかにより評価。
受講者に対する要望など		バレーボールを面白くするためにバレーボール経験者（運動部）の受講を多少優遇することがある。

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。
3	チーム分け。ゲームでのポジション確定へのプロセスに導入。　：固定ポジションとローテーション
4	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
5	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
6	ポジション確定。ゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その１
8	リーグ戦その２
9	リーグ戦その３
10	リーグ戦その４
11	リーグ戦その５
12	順位決定戦と前期のまとめ。
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	夏季休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。授業の目的を説明。基本技術と動きの反復練習。
2	固定ポジションでの連係プレーの反復練習。
3	固定ポジションでのゲームプレーの反復練習。
4	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
5	ローテーションでの連係プレーの反復練習。
6	ローテーションでのゲームプレーの反復練習。
7	リーグ戦その１（固定およびローテーション）
8	リーグ戦その２（上に同じ）
9	リーグ戦その３（上に同じ）
10	リーグ戦その４（上に同じ）
11	リーグ戦その５（上に同じ）
12	順位決定戦と後期のまとめ。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ バレーボール	担当者名	中沢克江

講義の目標	バレーボールのゲームを楽しむために必要な基本的技術、ルール等を学びながら、体を動かし、チームワークを養う。 チームプレーの中で自分の役割を考え、受講生同士の親睦を図る。	
講義概要	基本的技術の習得。 ルールの理解。 ゲームを楽しむ。 ・前期のゲーム：受講生の親睦を深めるため、チームの編成は毎週変更する。 技術レベル別、男女混合などのゲームも行う。 ・後期のゲーム：4週目までは前期と同じ。 5週目からは、メンバー編成固定でリーグ戦を行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席状況、受講態度、課題の理解度、技術を評価する。 受講態度の中には、服装も対象とする。	
受講者に対する要望など	体育実技に適した服装で受講すること。 体育館専用シューズを用意すること。	

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション：授業に関する説明及び諸注意。個人資料の作成。
2	基本技術：オーバーハンドパス　アンダーハンドパス
3	基本技術：オーバーハンドパス　アンダーハンドパス　トス　簡易ゲーム
4	基本技術：パス　トス　レシーブ　サーブ　スパイク　簡易ゲーム
5	基本応用技術：サーブレシーブ等　簡易ゲーム
6	チーム練習：各ポジションでの動き　・チームの構成メンバーは毎週変更する。　ゲーム
7	ゲーム
8	ゲーム
9	ゲーム
10	ゲーム
11	ゲーム
12	評価を行う。　ゲーム
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	基本技術：パス　トス　レシーブ　サーブ　スパイク　基本応用技術：サーブレシーブ等
2	チーム練習：各ポジションでの動き　・チームの構成メンバーは4週目まで毎週変更。　ゲーム
3	ゲーム
4	ゲーム
5	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦　・チームの構成メンバーを固定し、リーグ戦を行う。
6	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
7	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
8	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
9	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
10	ゲーム：メンバー固定チームリーグ戦
11	ゲーム
12	評価を行う。　ゲーム
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ フリースポーツ	担当者名	土井浩信

講義の目標		様々なレクリエーショナルスポーツ、軽スポーツ、ニュースポーツに挑戦し、自分にとっての生涯スポーツの目的を考える。スポーツの楽しさについても掘り下げて考えていきたい。
講義概要		屋外で出来る軽スポーツやニュースポーツの方法について実践的な学習をする。若者的な運動負荷の高い種目からハンディーキャップスポーツ、シルバースポーツ種目まで、各々の特性に応じた楽しみ方を学ぶことになる。 これまでに体験したことのないスポーツ種目が多いから、その方法や技術についての学習が中心にならざるを得ないが、出来るなら、自分達でレクエーショナルゲームやニュースポーツの創作に挑戦したい。
使用教材	テキスト	なし。指導VTR等の視聴覚教材を使用する場合もある。
	参考文献	なし。
評価方法		授業への出席度とレポートによる評価。
受講者に対する要望など		かなりハードな種目にも挑戦するので、それなりの服装に留意すること。

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業説明と受講にあたっての諸注意。個人カード作成
2	フライングディスク（フリスビー）。 基本練習（スローイング、キャッチング）。コントロール投の練習。
3	フライングディスク（フリスビー） アルテミット（※フリスビーゲーム）のルール、競技方法の説明。グループ分け。
4	フライングディスク（フリスビー） アルテミット、チーム対抗ゲーム
5	フライングディスク（フリスビー） アルテミット、チーム対抗ゲーム。ガッツ（※フリスビーゲーム）説明。
6	一輪車 一輪車の扱い方。一輪車乗りこえ練習。一輪車乗車姿勢、半回転前進とリカバリー連続動作の練習。
7	一輪車 一輪車の補助の仕方。三人一組のグループ分け。補助者付き前進練習。 経験者には別途指示。
8	一輪車 一輪車の有効な失敗体験。補助なし前進5 mに挑戦。 経験者は補助なし乗車練習。
9	一輪車 補助なし10 mに挑戦。補助者付き連続乗車400 m。
10	一輪車 補助なし全員10 m前進乗車達成。
11	一輪車 補助なし乗車（乗り方）の基本練習。横乗り乗車、ケリ上げ乗車への挑戦。
12	前期のまとめ。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ペタンク ペタンクのルール、競技方法の学習。チーム分け練習。
2	ペタンク チーム対抗ゲーム。安全指導。
3	ペタンク チーム対抗ゲーム。
4	ゲートボール ゲートボールのルール、競技方法の学習。打球の基本練習。
5	ゲートボール コートの作り方、競技の運営方法。作戦のたて方。
6	ゲートボール チーム対抗ゲーム
7	ターゲットバードゴルフ 基本のスウィング練習。安全の為のルールとマナー。
8	ターゲットバードゴルフ 基本練習。コース作りの方法。簡単なゲーム。
9	ターゲットバードゴルフ コース作りとゲーム。
10	フットバッグ VTR指導。フットバッグ的な世界のスポーツについて。
11	フットバッグ 連続リフティング5回以上に挑戦。グループリフティング。
12	一年のまとめと評価。レポート提出。
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ フリースポーツ	担当者名	檜山　康

講義の目標	様々なスポーツ活動を通して、スポーツの楽しさを知り、スポーツ文化に触れることを目標とする。	
講義概要	主に球技を主体とした種目を中心に授業を行っていく。具体的には、バスケットボール、ハンドボール、サロンフットボール、バレーボールを考えている。それぞれの種目を5～6回の授業で交代していき、半期で2種目行えるように考えている。種目は異なるが、球技共通の特性について解説していくつもりである。内容的にはゲーム中心で行うが、ゲームの中から特性について学べればと思っている。楽しめる授業にしたい。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	評価は、授業への参加度、態度、技能点などによって決定する。場合によって簡単なレポートを課すこともある。	
受講者に対する要望など	室内で行う時は、必ず室内シューズ着用のこと。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	バスケットボール　ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
3	パスの方法とショットの方法。　速攻を生かしたゲームを行う。
4	ショットの方法について　レイアップショットとランニングショット　ショットの方法に注意してゲームを行う。
5	リーグ戦①（チーム固定）
6	リーグ戦②
7	リーグ戦③
8	ハンドボール　ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム
9	パスとショットの方法。　速攻を生かしたゲームを行う。
10	リーグ戦①　ゲームを行いながらルールを確認していく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	サロンフットボール　ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
2	基本戦術の説明　パスアンドゴー、まわりを見る、ボールに寄るなど
3	チーム戦術の説明。　トライアングル、コーチングなど
4	リーグ戦①　ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
5	リーグ戦②
6	リーグ戦③
7	バレーボール　ルールの説明と基本技術の練習。試しのゲーム。
8	パスの方法とレシーブの方法　アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、レシーブを確実に行い、ラリーの続くゲームを行う。
9	スパイクの方法　トスをオープンにあげて、スパイクを行う。簡単なオープンからの攻撃を行い、ゲームができるようにする。
10	リーグ戦①　ゲームを行いながらルール、戦術の確認をしていく。
11	リーグ戦②
12	リーグ戦③
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ・フリスビー ・ウインドサーフィン（集中授業）	担当者名	和田　智

講義の目標	前期フリスビーでは、基本的なスローイング技術の習得とアルテミットというゲームを楽しむためのルール・チームの動きを学習してもらう。 集中授業ウインドサーフィンでは、ウインドサーフィンに関する知識・技術の習得を通して、海という自然環境と関わる楽しみを追求していく。	
講義概要	・用具の都合から、募集人数は男子20名、女子20名までとする。 ・フリスビー、ウインドサーフィン未経験者でも受講可能。ただし、海での活動に支障のある疾患を持つものは受講できない。 ・用具類はすべて大学で用意している。 ・ウインドサーフィンは、必要経費（宿泊費・食費・保険料等）として28000円を第1週目のオリエンテーション時に獨協大学証紙にかえて持ってくること。 ・ウインドサーフィンの技術進歩は、天候に大きく左右される。 集中授業は、期間：平成7年9月12日（火）～17日（土）4泊5日 場所：千葉県館山市獨協学園館山海の家の予定 現地集合・現地解散とする。	
使用教材	テキスト	霜山厚、『ボードセイリングマスター』、マリン企画
	参考文献	
評価方法	出席状況（60%）、受講態度（20%）、技術の向上度（20%）で評価する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	オリエンテーション
2	フリスビー・ディスクの基本的スローとキャッチ
3	バックハンドスローの練習　その1
4	バックハンドスローの練習　その2
5	サイドアームスローの練習　その1
6	サイドアームスローの練習　その2
7	アルテミットのルールとミニゲーム
8	アルテミットリーグ戦
9	アルテミットリーグ戦
10	アルテミットリーグ戦
11	アルテミットリーグ戦
12	ウインドサーフィンのオリエンテーション
備考	

後　期

週	主　要　テ　ー　マ
1	後期授業なし
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ラグビー	担当者名	天野和彦

講義の目標	ラグビーの技術、戦術の基礎を習得する。また、ルールの理解とゲームの展開方法を学習する。	
講義概要	安全に留意しながら、最終的には、15人制のゲームができるようにする。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出欠、授業態度、さらに多少の技能の進歩などを考慮して決定する。	
受講者に対する要望など	できる限りスパイクを用意すること。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	ラグビーの個人技術を学ぶ①
3	ラグビーの個人技術を学ぶ②
4	ラグビーの個人技術を学ぶ③
5	ラグビーの個人技術を学ぶ④
6	ラグビーの集団技術を学ぶ①
7	ラグビーの集団技術を学ぶ②
8	ラグビーの集団技術を学ぶ③
9	ラグビーの集団技術を学ぶ④
10	フォワードの戦術①
11	バックスの戦術①
12	ゲーム
備考	

後期

週	主要テーマ
1	フォワードの戦術②　スクラムからの攻撃と防御
2	フォワードの戦術③　ラインアウト、モール・ラックからの攻撃と防御
3	バックスの戦術②　パスによる攻撃と防御
4	バックスの戦術③　キックによる攻撃と防御
5	フォワード、バックスが一体となった動き①
6	フォワード、バックスが一体となった動き②
7	フォワード、バックスが一体となった動き③
8	いろいろな状況からの攻撃と防御①
9	いろいろな状況からの攻撃と防御②
10	ゲーム
11	ゲーム
12	ゲーム
備考	

科目名	体育実技Ⅰ・体育実技Ⅱ ラグビー	担当者名	中川　昭

講義の目標	ラグビーの技能を習得し、ゲームをエンジョイする。併せて、体力の向上を図る。	
講義概要	前期は身体接触のないタッチラグビーを行う。後期から徐々にコンタクト技術の練習を行い、最終的には15人制の正規の試合を行う。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	
評価方法	出席を重視し、技能の伸びや授業中の態度等を加味する。	
受講者に対する要望など	スパイク（サッカー・ラグビー用）をできるだけ用意すること。	

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
4	体力トレーニング、基本練習、小ゲーム
5	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
6	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
7	基本練習、簡易ルールでのタッチラグビー
8	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
9	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
10	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
11	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
12	基本練習、タッチラグビーのリーグ戦
備考	

後期

週	主要テーマ
1	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
2	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
3	体力トレーニング、基本練習、ホールドラグビーの小ゲーム
4	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
5	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
6	基本練習、ホールドラグビーのリーグ戦
7	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
8	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
9	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
10	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
11	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
12	班別練習、15人制ラグビーのリーグ戦
備考	